

村・吉田組、シングルスー宮田、吉田、柿本、三宅、西村。

剣道部 第七回全国高工剣道大会は七月十五、十六の両日東工大道場で開催され、十二校が参加した。予選第一回戦対桐生高工戦は不戦二人で敗、第二回戦対東京工芸戦は大將戦で敗れた。

対金沢高工戦、対高岡高商戦は五月二十九日四高道場で行なわれ、いずれも大將戦で勝を制した。出場選手 中村、山田、坂本、古田、小野、飯塚、小田切、坂上、藤原、石倉。

柔道部 第六回全国高工柔道大会は七月十五日から三日間東工大講堂で開催され、六校が参加した。予選第一回戦対仙台高工戦は不戦一人で敗、第二回戦対浜松高工戦は引分けとなり、代表決定戦で敗れた。出場選手 盛、斎藤、石橋、寺田、長野、家永、橋場、馬場、沖、高須、松岡。

対名古屋高工定期戦は五月二十九日名高工道場で挙行され、不戦一人で惜敗した。出場選手 大將寺田、副將齋藤、盛、石橋、橋場、長野、家永、沖、松岡、先鋒高須。

水泳部 第九回全国高工水上競技大会は七月二十二、三日の二日間宝塚プールで挙行され、六校が参加した。優勝名古屋 七四点、二位京都高工芸 五六点、三位横浜 四〇点、四位福井 三八点、五位浜松 二三点、六位広島 二〇点。本校成績 百米自由型一着西山 一分二秒四、五着三ツ木、二百米自由型一着西山、四百米自由型一着井上、八百米自由型一着井上、二百米平泳一着池上、八百米リレー一着本校チーム(三ツ木、中川、井上、西山)、三百米メドレー・リレー一着本校チーム(工藤、池上、西山)。

第十回北陸高専水上競技大会は七月十三日本校プールで挙行された。福井高工、四高、高岡高商の三校が参加し、四高が優勝した。本校成績 百米自由型一着西山、六着三ツ木、二百米自由型一着西山、六着三ツ木、四百米自由型一着井上、六着中川、八百米自由型一着井上 一二分四一秒七、六着池上、二百米平泳一着池上、四着張江、百米背泳一着工藤、六着鷲崎、二百米リレー一着本校チーム(三ツ木、中川、井上、西山)、八百米リレー

三着本校チーム(三ツ木、中川、西山、井上)、三百米メドレー・リレー―三着本校チーム(工藤、池上、三ツ木)。
対名古屋高工定期戦は九月二十四日本校プールで行なわれた。本校成績 百米自由型―二着西山、三着中川、二百米自由型―三着西山、四百米自由型―一着井上 五分五〇秒八、八百米自由型―一着井上 一二分四七秒、百米背泳―二着井上、四着工藤、二百米平泳―二着池上、八百米リレー―二着本校チーム(井上、工藤、中川、西山)、三百米メドレー・リレー―二着本校チーム。

籠球部 北陸学生籠球春季リーグ戦は五月二十八、九の両日金沢市石引町小学校屋内コートで開催され、五校が参加した。優勝高岡高商 四勝、二位金沢高工 三勝、三位福井高工 二勝、四位四高 一勝、五位金沢医大 ○
勝。本校成績 福井高工 30―40 高岡高商、福井高 46―31 金沢医大、福井高工 32―22 四高、福井高工 25―35 金沢高工。
北陸学生籠球秋季リーグ戦は十月十五、六の両日金沢女子師範附属小学校体育館で開催され、五校が参加した。優勝高岡高商 四勝、二位福井高工、四高、金沢高工 二勝、五位金沢医大 ○勝。本校成績 福井高工 16―29 高岡高商、福井高工 51―41 四高、福井高工 53―59 金沢高工、対金沢医大戦は不戦勝。

蹴球部 この年、北陸学生蹴球連盟主催第一回北陸高専蹴球大会が六月四、五の両日四高グラウンドで開催された。第一回戦、不戦勝となり、準決勝戦対四高戦は延長戦の末三対二で敗れた。出場選手 GK福沢、RF大賀、LF三浦、RH永津、日比野、CH島、LH都筑、RW金、RI松原、CF竹下、LI野沢、LW三好。

対高岡高商戦は本校グラウンドで行なわれ、一対一で引分けた。出場選手 GK都筑、RF大賀、LF三浦、RH永津、CH野沢、LH黒川、RW松原、RI竹下、CF島、LI宮原、LW三好。

対四高戦は九月二十四日四高グラウンドで行なわれ、四対二で敗。対名古屋高工戦は十月八日名古屋高工グラウンドで行なわれ、五対〇で敗。対京都医大戦は十一月三日本校グラウンドで行なわれ、五対一で快勝した。

射撃部 第十三回全国高専射撃大会は七月十三日大津市大谷射場で挙行され、三十校が参加した。競技は射

距離三百米で行なわれたが、福井は練習不足と試合不馴れがたたって敗退した。

彦根高商主催北陸高専射撃大会が九月十八日敦賀連隊射撃場で開催され、八校が参加した。優勝は金沢高工。個人賞では栗波が三等となり、このほか稻穂、丹羽、岡林、鎌田、須田も入賞した。

弓道部 対名古屋高工春季定期戦は六月十二日本校道場で行なわれ、七十六中对六十七中で快勝した。出場選手 小野 一四中、杉江 七中、高崎 八中、芝山 一二中、三隅 五中、西川 一〇中、志田 九中、柴本 一一中。

対名古屋高工秋季定期戦は十月九日名高工道場で行なわれ、八十四中对八十二中で惜しくも勝を譲った。出場選手

山野 七中、志田 一二中、高崎 一〇中、柴本 一一中、芝山 一一中、西川 九中、杉江 八中、和田 一四中。対四高戦は十月二十三日に行なわれ、八十一中对七十八中で敗れた。出場選手 山野 一二中、杉江 八中、西川 九中、高崎 七中、和田 一四中、芝山 九中、志田 九中、柴本 一〇中。

講演部 校内講演会は国民精神作興の一助として十一月九日に行なわれた。寺田淳司が開会の辞を述べ、塚田淳司、安井修、木村重行、田村忠志、米田稔、大見謝恒栄、松浦竜二らが壇上から獅子吼した。

講演部主催の全国大学高専英語弁論大会は十一月十二日福井市会議事堂で開催され、神戸商大、同志社大、同志社予科、同志社高商、神戸高商、名古屋高商、彦根高商、高岡高商が参加した。司会は伊藤良と西島伊武がつとめ、本校からは河柴一郎、西山隆博、南重行、米田稔、開敏寿、江盛隆一、古田義久、塚田淳司、木内雅樹、稻穂照男らが出場した。

音楽部 春季演奏会は五月二十八日本校講堂で開催された。曲目 △第一部▽ 尺八合奏―本曲「八千代」、ヴァイオリン二重奏―「ボヘミアンガール」「ファウスト」「荒城の月」、ヴォーカル―「凱旋」「小さい歌曲」、ピアノ独弾―無言歌「狩の歌」、ハーモニカ合奏―「ジュリアンタンゴ」「春のほほえみ」。△第二部▽ ギター独奏―

「小人の踊」「スペインの花」「オ・ソレミオ」「水神の踊」、ピアノ独弾―「ワルツ」「ポロネーズ」、ヴァイオリン独奏―「セレナーデ」、ハーモニカ合奏―「カッコワルツ」「越後獅子」。

秋季演奏会は十一月五日に開かれた。曲目 Ⅰ第一部Ⅴ ヴォーカル―「校歌」「学生歌」、ヴァイオリン二重奏―「双頭の鷺の旗の下に」「祝福メヌエット」「花と蝶」、ハーモニカ四重奏―「ナボリの歌」「モーメントミュージカル」「ファランドール」、三部合唱―「菩提樹」「オールドブラックジョー」、ハーモニカ合奏―「雷神行進曲」「スケーターワルツ」、ピアノ連弾―「ウィリアムテル序曲」。Ⅱ第二部Ⅴ 三部合唱―「凱旋」「愛国行進曲」、管絃楽―「小川の囁き」「栄光頌」、独唱―「ファッショの唄」「オーソレミオ」「遂げよ聖戦」、ピアノ独弾―「前奏曲第一番ハ調」「異国から」「狩の歌」、ハーモニカ合奏―「ロザムンデ舞踊楽」「敷島艦行進曲」。

十一月九日にはF.Gの午後八時四十分から九時まで、演奏番組の最後を飾るべく本校音楽部のハーモニカ合奏が放送された。曲目はロザムンデ、ゴンドラの唄、トルコ行進曲、ダニューヴ河の漣、双頭の鷺の旗の下に、の五曲。

牧風会主催の福井、金沢両高工合同尺八演奏会は十一月十三日午後一時からたるま屋百貨店ホールで開かれた。曲目 六段の調、娘道成寺、松の寿、楓の花、本曲「若葉」、清水菜、荻の露、千鳥の曲、秋の言葉、里の曙、楫枕、愛国行進曲。

本年度のメンバー ハーモニカバンド―指揮笠間、市川、豊田、瀬尾、山野、礪波、伏脇、宮田、木村、古田、宮城、矢内、宇野、辻、松山、三好、中古、ヴァイオリンクラブ―笠間、伊藤、矢内、中古、市川、宇野、ヴォーカルグループ―宮城、山口、日比野、山野、金、松原、吉田、矢内、伏脇、寺本、伊藤、瀬尾、尺八(牧風会)―和田、高須、斎藤、須賀原、坂上、遠藤、林、丸橋、マネージャー―礪波。

昭和十四年度

陸上競技部 第四回全国高工陸上競技大会は七月十九、二十の両日甲子園南競技場で挙行され、十二校が参加した。優勝浜松 八六点、二位横浜 六五点、三位金沢 三九点、四位広島 三二点、五位明専 三一点、六位桐生、神戸 二四点、八位名古屋 二三点、九位山梨 一九点、十位福井 一七点。本校成績 四百米リレー―六等本校チーム、千六百米リレー―五等本校チーム、円盤投―三等岡部、砲丸投―一等岡部 一〇米〇八、鉄槌投―三等岡部。北陸学生陸上競技大会は五月二十八日金沢市公設グラウンドで挙行され、七校が参加した。優勝四高 九六点 $\frac{1}{2}$ 、二位高岡高商 七五点 $\frac{1}{2}$ 、三位金沢高工 七二点、四位富山薬専 四三点、五位新潟高校 三八点、六位福井高工 二三点、七位富山高校 二〇点。本校成績 四百米―一等原 五七秒四。

野球部 第四回全国実業専門学校野球大会関西予選は七月十三日から甲子園球場で開催され、十三校が参加した。第一回戦対高松高商戦は二A対〇で敗れた。

対名古屋高工定期戦は五月二十一日に行なわれ、四対二で敗れた。出場選手 投―市川、捕―工藤、一―玉井、二―吉岡、三―青木、遊―長谷川、左―金沢、中―山本、右―塚田。

庭球部 第九回全国高工庭球大会は七月二十日から四日間阪大工学部コートで開催され、十一校が参加した。第一回戦は不戦勝となり、第二回戦対横浜高工戦は四対一で敗れた。

この年全国日本学生庭球連盟東海支部主催の第一回北陸学生庭球大会が開催され、福井高工、四高、金沢医大、金沢高工、高岡高商、新潟高校、富山薬専が参加した。

剣道部 第八回全国高工剣道大会は七月十四日から二日間東工大道場で挙行され、十三校が参加した。福井は予選で姿を消し、優勝戦は名古屋、長岡、桐生、仙台の四校でトーナメントが行なわれ、桐生が初優勝をとげた。

柔道部 第七回全国高工柔道大会は七月十四日から三日間東工大道場で挙行され、十一校が出場した。福井は予選で敗退した。優勝戦は上田蚕糸と日大専工との間で行なわれ、上田蚕糸が覇をとらえた。

対名古屋高工定期戦は六月三日本校道場で挙行され、不戦一人で凱歌をあげた。出場選手 大将盛、副将寺田、李、沖、荻野、山本、家永、大谷、越智、先鋒長谷川。

水泳部 第十回全国高工水上競技大会は七月二十一、二の二日間宝塚プールで開催され、九校が参加した。

優勝名古屋 八九点、二位浜松 七三点、三位横浜 三六点、四位福井 二七点、五位広島 二七点、六位桐生 一九点、七位京都高工芸 一三点、八位神戸 一〇点、九位東京高工芸 〇点。本校成績 百米自由型―四着五十嵐、二百米自由型―五着五十嵐、八百米自由型―六着井上、百米平泳―四着池上、二百米メドレー・リレー―一着本校チーム 二分〇一秒九、八百米メドレー・リレー―四着本校チーム。

籠球部 全国高工籠球連盟主催第五回籠球大会は七月二十二、三の両日山梨高工運動場で挙行され、十一校が参加した。準優勝戦に勝ちすすみ名古屋高工と対戦、31―26で快勝。優勝戦対横浜高工戦は43―19で敗れた。

北陸学生籠球春季リーグ戦は五月二十七日に挙行され、五校が参加。四校が全勝優勝を上げた。

北陸学生籠球秋季リーグは十月十四日金沢市内女師附小学校で開催され、四校が参加。対四高戦は53―42で敗れた。

対名古屋高工定期戦は六月四日に行なわれ、第一戦は77―68で敗、第二戦も33―28で敗れた。

弓道部 京都帝大主催第二十四回全国高専弓道大会は七月十八日から三日間京大および武徳殿弓道場で挙行され、三十九校が参加した。福井は五十中をあてて第九位となった。

蹴球部 対名古屋高工定期戦は五月七日に行なわれ、三対〇で快勝した。

射撃部 対四高戦は五月十四日に行なわれ、奮戦むなしく敗退した。

音楽部 秋季演奏会は十月十九日午後六時から本校講堂で開催された。曲目 △第一部▽ ヴォーカルー「校

歌」「学生歌」、ハーモニカ五重奏ー「嬉遊曲十七番」、マンドリン三重奏ー「過ぎたる日の夢」「メヌエット」「ゴンドラの唄」、吹奏楽(鯖江吹奏楽団)ー「凱旋の合唱」「キスメット」「荒城の月」、ヴォーカル三重唱ー「同窓会の歌」「秋の月」「曠野の開発」、チェロ独奏ー「古いフランスの歌」「ニーナの死」、ヴァイオリン独奏ー「天使のセレナーデ」「ソルウェイチの歌」、ハーモニカ合奏ー「福井高工行進曲」「カッコーワルツ」「セレナーデ」。△第二部▽ 管絃楽ー幻想曲「デリー市の戦闘」、ヴォーカルー「シューベルトの子守唄」「うたへ若人」「村の踊」、ヴァイオリン独奏ー幻想曲「リゴレット」「セレナーデ」「コントル・ダンス」、独唱とピアノ独弾ー「揺籃」「パデレフスキのメヌエット」、絃楽四重奏ー「ハイドンのセレナーデ」「間奏曲」「アンダンテ・カンタービレ」、マンドリン合奏ー「チブシー間奏曲」「村祭」「赤い翼」、ハーモニカ合奏ー「軍隊行進曲」「華麗なる演舞曲」、独唱ー「大日本の歌」「出船」「日本よ、い国」。

本年度のメンバー ハーモニカバンドー指揮市川、瀬尾、豊田、山野、伏脇、宮田、金沢、渡辺、里見、松山、三好、伊藤、辻、塩田、中古、佐竹、ヴァイオリンクラブー伊中古、矢内、市川、辻、宮田、マンドリンクラブー指揮矢内、田島、坂口、西島、金沢、伊藤、辻、阿古江、右田、桑名、松山、伏脇、西沢、日比野、ヴォーカルグループー指揮日比野、金、大北、馬場、山野、矢内、前田、伊藤、伏脇、古田、瀬尾、右田、東出、マネージャー右田。

昭和十五年度

陸上競技部 第五回全国高工陸上競技大会は七月二十、二十一の両日甲子園南運動場で開催され、十校が参加した。優勝明専 七八点、二位浜松 五〇・二五点、三位横浜 四四点、四位金沢 四三・五点、五位桐生 四二・七五点、六位広島 三三点、七位福井 二三点、八位名古屋 二〇・七五点、九位神戸 一七点、十位山梨 一一・七点。

北陸学生陸上競技大会は五月二十六日金沢市設グラウンドで挙行され、八校が参加した。優勝四高 一〇九点、二位長岡高工 七八点五、三位金沢高工 六六点五、四位福井高工 三九点、五位高岡高商 三一点、六位新潟高校 二五点、七位富山高校 二一点、八位富山菓専 七点。本校成績 百米―四等岩鶴、二百米―五等岩鶴、高障碍―五等島本、四百米リレー―三等本校チーム、千六百米リレー―三等本校チーム、三段跳―三等村上、円盤投―五等岡部、六等水内、槍投―五等水内、鉄槌投―一等岡部 三四米六〇。

この年十一月、時局の赴くところ従来の校友会は解散され、新たに福井高工報国団が結成された。それとともに陸上競技部もまた鍛錬部陸上競技班に改組された。

野 球 部 第五回全国実業専門学校野球大会関西予選は七月中旬甲子園球場で開催され、十二校が参加した。第一回戦対金沢高工戦は四対三で勝、第二回戦対同志社高商戦は十一A対一で敗れた。

対金沢高工定期戦は六月九日に行なわれ、十四対七で快勝した。出場選手 仲崎、山田、肥田、玉井、山下、吉岡、金沢、梨和。

この年十一月、時局の赴くところ従来の校友会は解散され、新たに福井高工報国団が結成された。それとともに野球部もまた鍛錬部野球班(硬式、軟式)に改組された。

庭 球 部 第十回全国高工庭球大会は七月二十一日から四日間甲子園コートで開催された。準優勝戦には名古屋、明専、徳島、浜松の四校が進出し、名古屋が浜松、明専を降して二連覇をとげた。

この年十一月、時局の赴くところ従来の校友会は解散され、新たに福井高工報国団が結成された。それとともに庭球部もまた鍛錬部庭球班(硬式、軟式)に改組された。

剣 道 部 第九回全国高工剣道大会は七月十三、十四の両日東工大道場で開催され、十五校が参加した。予選第一回戦対名古屋高工戦は不戦三人で敗れた。出場選手 大将小田切、副将川尻、山形、吉国、熊崎、北村、先鋒小野。

対四高戦は五月二十六日四高無声堂で行なわれ、不戦八名で敗れた。

この年十一月、時局の赴くところ従来の校友会は解散され、新たに福井高工報国団が結成された。それとともに剣道部もまた鍛錬部剣道班に改組された。

柔道部 第八回全国高工柔道大会は七月十三、十四の両日東工大道場で挙行され、十二校が参加した。福井は予選で姿を消した。優勝戦は二戦二勝校の仙台、上田蚕糸、金沢の三校リーグ戦で行なわれ、上田蚕糸が二年連続優勝した。

北陸高専柔道大会は十月二十日に挙行された。準優勝戦に進出し四高と対戦、不戦五人で敗退した。出場選手 大将飯田、副将長谷川、糸数、井川、山本、白崎、萩野、遠藤、栗田、先鋒高橋。

この年十一月、時局の赴くところ従来の校友会は解散され、新たに福井高工報国団が結成された。それとともに柔道部もまた鍛錬部柔道班に改組された。

水泳部 第十一回水上競技大会は七月十九、二十の両日宝塚プールで開催され、七校が参加した。優勝浜松八一点、二位名古屋 七一点、三位福井 五〇点、四位広島 四二点、五位横浜、京都高工芸 二一点、七位神戸。本校成績 百米平泳―一着池上 一分二八秒二、二百米リレー―一着本校チーム 二分一秒二。

北陸学生水上競技連盟主催第一回競泳大会は六月九日四高プールで挙行され、四校が参加した。優勝四高 七八点、二位福井高工 六三点、三位富山高校 四六点、四位高岡高商 四〇点。本校成績 百米自由型―二着炭谷、三着越野、二百米自由型―二着倉元、三着炭谷、四百米自由型―二着倉元、百米平泳―一着池上 一分二七秒三、四着奥田、二百米平泳―一着池上 三分一五秒、四着池上、二百米リレー―二着本校チーム(炭谷、越野、神田、倉本)、八百米リレー―二着本校チーム(神田、炭谷、倉元、越野)、三百米メドレー・リレー―二着本校チーム(炭谷、池上、倉元)。

この年十一月、時局の赴くところ従来の校友会は解散され、新たに福井高工報国団が結成された。それとともに水泳部もまた鍛錬部水泳班に改組された。

籠球部 北陸学生籠球春季リーグ戦は五月二五、六の両日石川女師附属雨天体操場で開催され、四校が参加した。優勝四高 三勝、二位福井高工 二勝、三位高岡高商 一勝、四位金沢高工 ○勝。本校成績 福井高工42―28 金沢高工、福井高工62―36 高岡高商、福井高工45―44 四高。

この年十一月、時局の赴くところ従来の校友会は解散され、新たに福井高工報国団が結成された。それとともに籠球部もまた鍛錬部籠球班に改組された。

射撃部 北陸大学高専射撃大会は九月二十二日上野射撃場で挙行された。優勝四高 三七八点、二位福井高工 三一五点、三位金沢高工 二八五点。

この年十一月、時局の赴くところ従来の校友会は解散され、新たに福井高工報国団が結成された。それとともに射撃部もまた国防部射撃班に改組された。

弓道部 対四高戦は十月二十七日に行なわれ、六十三中对四十五中で敗退した。出場選手 高橋 七中、永吉 三中、竹下 四中、瀬嶋 九中、赤石 八中、岡田 三中、北村 四中、茅野 七中。

この年十一月、時局の赴くところ従来の校友会は解散され、新たに福井高工報国団が結成された。それとともに弓道部もまた鍛錬部弓道班に改組された。

音楽部 春季演奏会は五月二十七日午後六時半から本校講堂で開催された。曲目 Ⅷ第一部 √ ヴォーカール「校歌」「学生歌」、ハーモニカ三重奏―「ポロイスカウト」「夢去りぬ」、尺八合奏―「千鳥の曲」「金剛石」、アコーディオン合奏―「ポレロ」「ワルツ」「タランテラ」「山の人気者」、マンドリン四重奏―「夜想曲」「帰れソレントへ」「キスマット」、ピアノトリオ―「子守歌」「秋と冬」、ハーモニカ合奏―「ラ・クンバルシート」「オリエンタルダン

ス」輝く青春」、ピアノ独奏―「ソナチネ」。△第二部▽ 尺八合奏―「椿の夢」、ヴォーカル―「紡ぎ車」「聖夜」、ギター二重奏―「樂しき想出」「汝れを慕ひて」「荒城の月」、独唱―「サントルチア」「戦後」「さすらひ」、ヴァイオリン独奏と二重奏―独奏「ハンガリヤ舞曲」、二重奏「三つの小交響曲」、ピアノ独奏―「グランド・ワルツ・プリリアンテ」、マンドリン合奏―「山の曲」「樂しき歩み」「丘を越えて」、ハーモニカ合奏と独唱―合奏「愛の喜び」、独唱「出征兵士を送る唄」「婦り道の歌」「奉祝国民歌二千六百年」。

秋孝演奏会は十一月一日午後六時半から本校講堂で開催された。曲目 △第一部▽ ヴォーカル―「校歌」「学生歌」、ハーモニカ二重奏―「輕騎兵」「伊太利の庭」「世紀の楽園」、ヴァイオリン三重奏―「浜辺の唄」「古代メヌエット」、マンドリン四重奏―「ジュエニタ」「記念祭の喜び」、ヴォーカル―「紀元二千六百年頌歌」「海行かば」「日本の歌」、ヴァイオリン独奏―「ブライラ」「舞踏会への招待」、ハーモニカ合奏―「セレナーデ」「花嫁人形」「双頭の鷺の下に」、マンドリン合奏―「懐しき想出」「ドナウ河の漣」「ガウチョの嘆き」、ピアノ独弾―「ハンガリー風に」。△第二部▽ ヴォーカル―「花」「空を護れ」、ギター三重奏―「嘆きのセレナーデ」「ラクンバルシート」「夢のタンゴ」、ピアノ独弾―「奏鳴曲」、独唱―「女心の唄」「美しき水車小屋の乙女」、ヴァイオリン独奏―「二つのロシア民謡曲の布衍曲」「取り入れの唄」「インド悲歌」、マンドリン合奏―「椿姫」、ハーモニカ合奏―「ソルヴェーチソング」「ファストよりの円舞曲」、独唱―「南進男児の歌」「鉾をおさめて」「国民進軍歌」。

本年度のメンバー ハーモニカバンド―指揮辻、松山、市川、三好、渡辺、大見、里見、谷口、久島、須藤、前田、佐竹、安田、西田、蜂須賀、西沢、金、富田、塩田、ヴァイオリンクラブ―辻、富田、前田、マンドリンクラブ―指揮桑名、坂口、金沢、西島、辻、渡辺、松山、西沢、藤沢、里村、前田、富田、南、李、ギタークラブ―松山、桑名、西沢、藤沢、里村、ヴォーカルグループ―金、馬場、坂田、克江、光河、堀江、前田、清水、市川、畑上、東出、荒谷、原、山川、西田、瀬田、牧風会尺八部―柳原、米田、須賀原、藤田、吉田、藤野、堀、永山、山形、板橋。

昭和十六年度

陸上競技班 この年の全国高工陸上競技大会は七月十二日の文部次官通牒「今夏に於ける全国的または数道府県に亘る体育大会、講習会及其の他の会合は当分の間これを延期し、再開に付指示なきときはこれを中止すべきこと云々」によって中止された。

北陸学生陸上競技大会は六月一日金沢市設グラウンドで挙行され、六校が参加した。優勝四高 一二二点、二位長岡高工 八五点、三位福井高工 六四点、四位金沢高工 五九点、五位富山葉専 一四点、六位新潟高校 六点。本校成績 円盤投―一等遠藤 二九米五一、鉄槌投―一等遠藤 三八米四九。

野球班 第六回全国実業専門学校野球大会の東北、関東、関西、西部の各予選大会は七月十二日に開幕されたが、同日発布された文部次官通牒により全国的な各種運動競技大会は中止となり、地方大会も途中で中止された。

関西予選は甲子園球場で開催され、十四校が参加した。第一回戦広島高工戦は四A対一で敗れた。第二回戦の第二試合から大会は中止された。

庭球班 第十一回全国高工庭球大会は例年通り七月に開かれることになっていたが、大会直前となって軍事輸送のため、交通制限の故をもって中止された。

剣道班 第十回全国高工剣道大会は七月に行なわれることになっていたが、大会直前となって軍事輸送のため、交通制限の故をもって中止された。

柔道班 第九回全国高工柔道大会は七月に予定されていたが、大会直前となって軍事輸送のため、交通制限の故をもって中止された。

水泳班 第十二回全国高工水上競技大会は七月十三日に宝塚プールで開かれることになっていたが、大会直前

となつて軍事輸送のため、交通制限の故をもつて中止された。

北陸高専水上競技会は六月八日に挙行された。四高が優勝し、福井高工は第二位となった。

音楽班 春季演奏会は五月三十一日午後七時から本校講堂で開催された。曲目・八第一部▽ 合唱―「校歌」

「学生歌」、尺八合奏―本曲「朝緑」、ヴァイオリン斉奏―「メヌエット」「楽しき農夫」、ハーモニカ三重奏―「浜辺の歌」「ベルギェートン組曲」、合唱―「海行かば」「武士の歌」、アコーデオン合奏―「ガボット」「ラスパニョーラ」「メリーウイドーワルツ」「ラクンバルシード」、重唱―「桜散る」「高嶺」、ハーモニカ合奏―「支那羅兵」「ベルシヤの市場にて」「セントルイス・ブルース」。△第二部▽ ハーモニカ独奏―「笛吹けば 変奏曲」」「銃後の花」、ギター合奏―「軽音楽組曲」、独唱―「音楽に寄す」「追憶」、ピアノ独弾―「月光の白」、尺八合奏―「清水楽」、マンドリン合奏―「ヴォルガマーチ」「カッコー・ワルツ」、ハーモニカ合奏―「未完成交響曲第八番第一楽章」、合唱―「菩提樹」「野ばら」。

本年度のメンバー ハーモカバンド―谷口、渡辺、西沢、佐竹、里見、塩田、大見、市川、吉村、久島、小川、市岸、田中、福岡、矢野、金益、亀井、須藤、丸橋、蔵本、北野、戸倉、中野、松本、田飼、平野、矢鋪、堀、市川、西沢、藤沢、アコーデオンクラブ―市川、谷口、須藤、遠藤、武曾、渡辺、ヴァイオリンクラブ―西沢、大見、嵯峨根、須藤、マンドリンクラブ―西沢、渡辺、藤村、三春、斎藤、吉長、里見、藤沢、谷口、佐々木、里村、市川、須藤、ギタークラブ―西沢、藤沢、谷口、佐々木、里村、合唱団―馬場、清水、黒川、光河、吉江、堀、板田、紙山、市川、熊川、五十嵐、田飼、堀江、畑山、渡辺、須藤、小林。

昭和十七年度

野球班 第七回全国実業専門学校野球大会関西予選は七月二十八日から五日間甲子園球場で挙行され、十五校

が参加した。第一回戦対三重高農戦は三対一で敗れた。

対四高定期戦は五月五日四高グラウンドで行なわれ、五A対二で快勝した。出場選手 投―島田、捕―山田、一―梨和、二―仲崎、三―森下、遊―山下、左―酒井、中―加納、右―水谷。

対名古屋高工戦は七月二十一日名古屋に遠征して行なわれ、九A対五で凱歌をあげた。出場選手 投―島田、捕―山田、一―潮田、二―青山、三―山下、森下、遊―森下、山下、左―梨和、中―加納、右―水谷。

硬式庭球班 全国高工庭球大会は七月十七日から三日間甲子園コートで挙行され、中山、獅子、原、徳弘、金森、田中のメンバーで出場した。

対金沢高工戦は五月十日金沢医大コートで行なわれ、五対四で惜敗した。出場選手 ダブルス―中山・徳弘組、獅子・原組、金森・田中組、シングルス中山、徳弘、獅子、原、金森、長谷川。

対金沢医大戦は五月三十一日福商コートで行なわれ、十対一で敗れた。出場選手 ダブルス―中山・徳弘組、獅子・原組、金森・田中組、木村・下田組、シングルス―中山、徳弘、獅子、原、金森、田中、長谷川。

対金沢高工戦は九月二十四日福商コートで行なわれ、八対一で敗れた。出場選手 ダブルス―金森・田中組、福山・江沢組、木村・榎本組、シングルス―金森、田中、榎本、福山、木村、江沢。

軟式庭球班のメンバーには、三年―吉本、石部、池田、長谷川、野田、山田、清水、植田、佐竹、星村、林、二年―広畑、藤井、花谷、角田、浜島、山本、林、一年―吉田(幸)、北村、藤田、長良、鈴木、西田らがいた。

剣道班 前年中止された全国高工剣道大会は八月七日から東工大道場で挙行された。対多賀高工戦は不戦四人で快勝、対金沢高工戦は奮戦むなく敗れた。

柔道班 第十回全国高工柔道大会は八月七、八の両日東工大道場で挙行され、十三校が参加した。福井は山梨、浜松と対戦したが力及ばず、予選で敗退した。

水泳班 第十二回水上競技大会は八月四日大阪真田山水泳場で挙行され、八校が参加した。優勝浜松 八〇点、二位横浜 四七点、三位明専 四六六点、四位名古屋、五位福井、六位京都高工芸、七位広島、八位神戸。

北陸高専水上競技会は五月三十一日四高プールで挙行され、四校が参加した。優勝四高 九七点、二位福井高工 八三点、三位高岡高商 六八点、四位富山高校 二七点。本校成績 二百米自由型一着倉本 二分四三秒三、二百米リレー一着本校チーム、八百米リレー一着本校チーム 一分一五秒一。

対彦根高商戦は七月十九日本校プールで行なわれ、百米自由型、五十米背泳、百米背泳、二百米リレーの各種目に優勝した。

弓道班 東工大主催第六回全国高工弓道大会が八月七、八の両日大岡山工大道場で開かれ、初出場した。参加校は十一校。試合は各校五名、一人二十射で行なわれ、飯田、長瀬、安藤、村上、加藤が出場した。

排球班 全国高工排球大会が八月一、二の両日神戸市民コートで挙行され、出場した。試合はA組、B組、C組の三組に分かれて予選リーグ戦が行なわれ、各組代表によって決勝リーグが行なわれることになった。福井はC組となり、対金沢高工戦は二対〇で敗、対横浜高工戦は二対〇で快勝した。

卓球班 新田公遺徳讃仰卓球大会が五月十七日福井高女で行なわれ、吹野、大坪、上条、山下、千村、相賀、島田、仁張、辻本、田中、前田が出場、前田、吹野、仁張の三名が準々優勝戦に勝ちすすんだ。

籠球班 北陸高専籠球大会は五月十日高岡町国民学校コートで挙行された。対四高戦は64対27で敗れた。

馬術班 全日本高工馬術連盟主催の中部日本高工馬術競技大会が六月七日名古屋市中都第六部隊付属練兵場で挙行され、出場した。競技は馬場馬術と障碍飛越の二種目が行なわれ、鈴木信男が三等、藤岡正敏が八等、荻田良太郎が十等、財文雄が十三等、青木靖彦が十五等となった。

講演班 国威宣揚春季雄弁大会が五月十日講堂で開かれ、福井商業学校生徒も出演した。本校演題と弁士 統

後の守り(英語) 永谷武彦、時ぞ今(邦語) 岩城惟信、科学雑論(邦語) 唐川英成、技術考察(邦語) 米野達夫、将来に於ける人類(英語) 吉江一夫、独乙の衣料切符制度(邦語) 山田正治、ベートーベン(邦語) 谷川勲、古典に就いて(邦語) 荒谷三郎、我々日本人(英語) 山下孝一、詩吟「正気歌」 栗原正信、挨拶 斎藤班長。

音楽班 春季邦楽演奏会は五月二十三日順化会館で開かれた。曲目 君が代、さくら、本曲「八千代」、春の曲、摘草、小鳥の歌、躍進、本曲「若葉」、桜川。

春季名曲鑑賞会は五月三十日に催された。曲目 モーツアルト作「フルート協奏曲」、バッハ作「ブランデンブルク協奏曲」、ベートーベン作「第六交響曲(田園)」、シュトラウス作「美しき碧きドナウの流れ」、バッシニ作「妖精のをどり」。

春季洋楽演奏会は六月一日に催された。ハーモニカ合奏による「キャラパンの鈴」「スケーターワルツ」、マンドリン合奏による「帰れソルレントへ」「オリエンタルダンス」「赤い翼」「谷間の灯」、ハーモニカバンドによる「軍隊行進曲」「カルメン」「証城寺の狸囃子」などが演奏され、このほか福島、須前のウイオリン独奏、市川のハーモニカ独奏、黒川の独唱があり、最後に「静夜」「鍛冶屋さんの歌」を合唱して幕を閉じた。

惜別謡曲大会は九月十六日に行なわれ、上坂、吉村の両先生および宮川、増永、山本、鎌倉、福原、山中、岡山、佐々木、中島らが出席した。「鞍馬天狗」シテ増永宏一、ワキ宮川幸平、ツレ山本治、「俊寛」シテ宮川幸平、ワキ増永宏一、ツレ山本治。

山岳班 四月―大仏寺山行(新入生歓迎登山)、栃木峠行、金草岳行。五月―鷲ヶ岳行、芦見峠・鹿谷経ヶ岳行、国見岳行。六月―一乗山行、吉野嶽行。七月―巢原峠行、大鶴目谷廻行、能郷白山行。八月―文競山行。九月―飯降山行、竹田川左岸岩登り、藤倉山行、松尾山行。十月―三峰・城山行、杉ノ水峠・風谷峠行、折立峠行、越美境

高倉峠行。十一月―大坂行、日野山行、部子川遡行。十二月―文珠山行、山中峠行、石徹白スキー合宿。一月―六呂師スキー合宿、木ノ芽峠スキー行、冠岳スキー行、耐寒スキー行軍。

このほか相撲班、銃剣道班、滑空班、自動車班、文芸班、東亜研究班、絵画写真班、日本古典班、宗教（基督教、仏教）班、建築工学研究班、機械工学研究班、繊維工業研究班、色染化学研究班、工作機械研究班、電気工学研究班、自然科学研究班、海洋班、機甲班などが活動した。

昭和十八年には全国高専大会は大日本学徒体育振興会主催のもと東北、関東、関西、九州の四地区で地方大会が開催されることになっていたが、開会間近となって文部省の指示により中止された。この頃敵性スポーツ、軟弱スポーツをうとむ傾向が強くなり、野球、庭球、卓球などが槍玉にあげられ禁止された。

戦局の激化とともに、学園も新体制が強化され、勤労働員また日ごにきびしさを加えた。班活動もおのずから足が遠のき、ついには絶えるところとなった。

第二章 福井大学課外活動

本学では、講義の時間以外に自分の能力や趣味、環境に応じて自由にクラブを選び、それに加入し活動する、いわゆる課外活動が活発に行なわれている。

学生はそれぞれ自分にもっとも適応するクラブに参加し、友人や先輩とともに苦しみや楽しみをわかちあひながら、学生生活における自己の人間形成の場としている。

課外活動は大学連合行事とクラブを単位とするものとに分けられ、前者に属するものとしては北陸三県大学学生交歓芸術祭、北陸三県大学学生総合体育大会、大学祭、スキー学校などがあり、後者には数多くの文化系および運動系のクラブが活動している。

大学連合行事

北陸三県大学学生交歓芸術祭 芸術祭は、北陸地区の各大学（福井、金沢、富山三県の各国公立大学および短期大学）における芸術を探究する学生の研究発表を通じて、各大学間相互の教養の向上と親睦を図り、あわせて地方文化に貢献することを目的として実施され、毎年十一月三県の各国公立大学が輪番で会場その他全般的な世話を行なっている。

部門としては、絵画、彫刻、工芸、デザイン、茶道、映画、書道、写真、文学、管弦楽、合唱、軽音楽、ギター、マンドリン、フォークソング、邦楽、放送劇、演劇、落語、学術系などがあり、本学からも毎年多数の参加と出品があり、各部門において成果をあげている。

北陸三県大学学生総合体育大会 この体育大会は北陸三県大学学生体育競技連盟が主催し、福井、金沢、富山の各国立大学の学生体育競技団体の学生によって行なわれ、北陸地方における学生体育競技の健全なる普及と発達を期すると

ともに、学生相互の親睦を図ることを目的としている。

連盟事務局は三県の中央に位置する金沢大学に置かれ、三大学が輪番で当番大学となって毎年七月に大会を開催、本学からも毎年多数の学生が参加し、近年ますますよい成績をあげている。

大 学 祭 福井大学大学祭は昭和二十八年に学芸学部、工学部の両学部が統合されたのを機に、両学部学生自治会が中心となつてはじめて催され、以後年に一度の祭典として賑やかに繰りひろげられている。

行事は毎年五月三十一日の開学記念日を中心にして、学生団体の代表によって組織された大学祭実行委員会の企画と大学の援助によつて催され、学内はもとより学外に対しても広く公開されている。各クラブは大学祭を大きな目標として準備をすすめ、日頃の活動の成果を発表し、紹介する場としている。

スキー学校 冬期間の多量の積雪という地域的特色を生かして、学生課では毎年一泊二日ないし二泊三日の予定で数回のスキー学校を開催している。スキー技術の修得は勿論、共同生活を通しての学生教職員間の親睦に大きな成果をあげ、クラス編成による懇切な指導と楽しい交歓会は毎回非常な好評を得ている。

学内学生諸団体

文化系クラブ E・S・S、アマチュア無線クラブ、古典派クラブ、軽音楽部、グリーンエコー合唱団、宝生会、茶道部、写真部、ドイツ語クラブ、フィルハーモニー管弦楽団、美術部、児童文化研究会、国語教育研究会、原理研究会、ギター部、映画研究会、障害児教育研究会、邦楽部、考古学研究会、聖書研究会、都市問題公害問題研究会、中国会話研究会、ブリマヴェラ室内合奏団、フォークソングクラブ、エスポワール、漢子ども会、グルーボ・エスベランダ、榎子ども会、演劇研究会、書道部、東洋思想研究会、哲学研究会、詩吟部、文芸部、放送芸術研究会、サークル問題研究会、自動車技術同好会。

体育系クラブ 陸上競技部、硬式野球部、準硬式野球部、硬式庭球部、軟式庭球部、硬式卓球部、男子バレーボー

ル部、女子バレーボール部、バドミントンクラブ、サッカー部、ラグビー部、水泳部、剣道部、創作ダンス部、ユー
スホステル部、ワンダーフォーゲル部、スキー部、ヨット部、弓道部、山岳部、自動車部、機械科自動車部、柔道
部、ハンドボール部、体操部、少林寺拳法部、ホッケー部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、空
手道部、ボディビルクラブ、歩こう会、ボビュラーダンス研修部、アメリカンフットボール部、ボーリング部。

福井大学学生歌 南 信男作詞 新谷吉一作曲 籾 豊編曲

一、芝生ふくれる地の上で

そよ吹く風に花ひらく

カンナ熱気花

カンナの花はあかあかと

くれないもえて空たかく

あつき気焔に舞いあがる

二、ここぞ広がる地の上で

そよ吹く風に花ひらく

若き生命

研究の熱は滾々と

みどりの朝に湧きいづる

みのり豊かな牧の島

三、かげろうのぼる地の上で

そよ吹く風に花ひらく

青春をよぶうた

朋友をよぶうた輪になって

希望にもえてたかだかと

白山連峰こえてゆく

工学部学友会規約

第一章 総 則

第一条 本会は福井大学工学部学友会と称する。

第二条 本会は学生の自治機関であつて、会員相互の親睦を図り学生生活の向上発展を期するを目的とする。

第二章 組織および機関

第三条 本会は福井大学工学部学生全員をもつて組織する。

第四条 会員は本会役員の選挙権および被選挙権を有する。

第五条 本会に次の機関をおく。一 学生大会。二 学友委員会。三 会計監査委員会。四 選挙管理委員会。

五 連絡協議会

第三章 学生大会

第六条 学生大会は最高議決機関であり、本会員でこれを構成する。

第七条 学生大会は年一回の定例会を学友会委員長が招集する。

第八条 次の場合には、十五日以内に学友会委員長が学生大会を招集しなければならない。一 学友会委員長が必要と認めたとき。二 会員の十分の一以上の連名によって要求があつたとき。ただし、この場合五名の責任者を必要とする。

第九條 学生大会は全員の三分の一以上の出席によって成立し、委任状でこれを代行することができる。ただし、会員の十分の一以上の委任状によらない出席を必要とする。

第十條 学生大会の決議は、出席人員の過半数以上の賛成によって成立する。この場合、委任状による出席はすべて大会の決議に従うものとする。

第十一條 学生大会の議長団三名、書記二名はそのつと選出し、出席人員の過半数で承認され大会の議事を運営する。議長団のうち二名は、最高学年であつてはならない。

第十二條 学生大会は次に掲げる事項を審議する。一 規約改正。二 予算審議ならびに決算の承認。三 学友委員会より提出された議案。四 出席者の三分の一以上の同意により提出された議案。ただし、この場合委任状による出席者を除く。

第十三條 学生大会の日時、場所および議題は緊急の場合を除き通常開催日五日前までに公示され、またその決議は終了後すみやかに掲示されなければならない。

第十四條 学生大会には会員以外の入場は認めない。ただし、学生大会の承認をえた場合はこのかぎりでない。

第四章 学友委員会

第十五條 学友委員会は学生大会につぐ決議機関であり、学生大会および学友委員会の決議を円滑に処理するため常任執行委員をおく。

第十六條 学友委員会は次に掲げる委員で構成する。一 立候補により全会員の無記名投票の結果選出された委員長および六名の委員。二 各学科の各学年（クラス）より選出された各一名の委員。

第十七條 学友委員会の常任執行委員は次による。一 第十六条第一号に該当するもの。二 第十六条第二号に該当するものうちより委員長が指名したものの六名。

第十八条 学友委員会には次の常任執行委員をおく。一 執行委員長、ただし学友委員長が兼任する 一名。二 副執行委員長兼渉外係 一名。三 総務係 三名。四 会計係 一名。五 情報宣伝係 三名。六 体育係 二名。七 文化係 二名。

第十九条 第十八条第二号以下に規定するものは第十七条に該当するものより委員長がこれを任命する。

第二十条 学友委員会は最高学年の委員を除く委員の五分の三以上の出席で成立し、その決議は過半数の賛成で成立する。ただし、最高学年の委員は、出席人数に加えないだけで発言権決議権を共に有する。

第二十一条 一 委員長は会務を統括し、本会を代表する。二 副委員長は委員長を補佐し、委員長事故ある場合はこれを代行する。また本会の渉外を担当する。三 会計係は本会の会計を管理する。四 総務係は庶務一般を担当する。五 情報宣伝係は本会に関する情報を広報する。六 体育係は本会の体育活動について担当する。七 文化係は本会の文化活動について担当する。八 常任執行委員以外の学友委員は常任執行委員を助け、会務を処理する。

第二十二条 学友委員の任期は原則として六月一日より翌年五月末日までとする。

第二十三条 委員長の辞任は学友委員会の承認をうけ、前回の学生大会の議長団に提出する。委員長辞任のときは他の常任委員は辞任する。

第二十四条 委員長が辞任した場合、十五日以内に新委員長を選出しなければならない。新委員長の任期は前任者の残任期間とする。

第二十五条 第十七条第二号に該当する常任執行委員の離任は委員長の承認を必要とする。

第二十六条 第十六条第一号に該当する学友委員が、辞任する場合は委員長の承認を必要とし、辞任した場合は十五日以内に新学友委員を選出しなければならない。

第二十七条 第十六条第二号に該当する学友委員が辞任する場合は委員長の承認を必要とする。なお、辞任した場

合、その学友委員を選出したクラスは五日以内に新委員をあらためて選出しなければならない。新学友委員は前任者の残任期間とする。

第二十八条 学友委員会は月一回定例会を委員長が招集する。

第二十九条 次に掲げる場合は、委員長が学友委員会を招集しなければならない。一 学友委員会が必要と認めたと
き。二 学友委員の三分の一の要求があったとき。

第五章 連絡協議会

第三十条 本学はその目的を達成するため次の連絡協議会をおく。一 教育学部自治会との連絡協議会。二 工学部厚生指導委員会との連絡協議会。三 各クラブ代表者会との連絡協議会。

第三十一条 第三十条第一号は福井大学学生連絡協議会規約に従う。

第三十二条 第三十条第三号は本規約のクラブについての学友委員会の諮問機関とする。

第六章 クラブ

第三十三条 各クラブは責任者二名と顧問教官一名を定めて結成届を作成して毎年五月二十日までに学友委員会へ提出し承認をえなければならない。なお、クラブ委員は五名以上を必要とする。

第三十四条 各クラブは本規約に反しないかぎり自主性を保つ。

第三十五条 各クラブは学友会の活動に積極的に協力しなければならない。

第七章 会 計

第三十六条 本会の経費、事業収益金および寄付金その他をもってこれにあてる。

第三十七条 会員は入会と同時に入会金六〇〇円、会費年額六〇〇円を納入しなければならない。

第三十八条 本会の会計年度は毎年六月一日に始まり、五月末日に終る。

第八章 会計監査委員会

第三十九条 本会の会計監査機関として、会計監査委員会を設ける。

第四十条 会計監査委員会は各学科より一名あて選出された委員により構成する。

第四十一条 会計監査委員会は年一回の会計監査を行なう。

第四十二条 会計監査委員の任期は学友委員のそれに準ずる。

第四十三条 会計監査委員会は学友会の会計の出納を監査し、その結果を学友会会員にすみやかに報告しなければならない。

第九章 選挙管理委員会

第四十四条 選挙管理委員会は各学科より一名あて選出された委員より構成され選挙管理委員長は委員の互選による。

第四十五条 選挙管理委員会は次の事項を処理する。一 学友委員、会計監査委員の選挙を管理する。二 選挙管理委員長は選挙の管理運営の事務を統括する。

第四十六条 第十六条第一号に該当するものの通常選挙は次により実施する。一 毎年五月一日を公示日とし、その日より十日間を受付期間として十五日目を投票日とする。二 学友会委員長立候補と学友会委員立候補は区別して受ける。三 立候補者数が学友会委員の定員に達しないときは、無投票当選とする。

第四十七条 第十六条第二号に該当するものの通常選挙は第十六条第一号に該当するものが成立したのち五日以内に選挙を実施する。

第四十八条 会計監査委員の通常選挙は第四十六条に準ずるものとする。

附 則 この規約は昭和三十八年六月一日から施行する。

北陸三大学学生総合体育大会

昭和二十四年十月金沢大学の主催により富山、金沢両大学の間で第一回学生総合体育大会が開催され、翌二十五年からは福井大学もこれに加わって三大学による学生総合体育大会が行なわれるようになった。

昭和二十七年六月には「北陸地方における学生体育競技の健全なる普及および発達を期し、併せて相互の親睦を図る」ことを目的として「北陸三大学学生体育競技連盟」が正式に発足し、金沢大学内に連盟事務局が置かれた。これに伴って従来の体育大会はこの年の第四回大会から輪番制で行なわれることになり、福井大学、金沢大学、富山大学の順序で開催され、連盟と当番大学が共催することになった。

第四回大会は福井大学を当番大学として、昭和二十七年七月一日に開催され、陸上競技、硬式野球、軟式庭球、卓球、バドミントン、バレーボール、サッカー、ラグビー、柔道、バスケットボール、ハンドボール、ソフトボールの十二種目が行なわれた。以後競技種目は馬術（第五回のみ）、水泳、体操、剣道、硬式庭球、ヨット、準硬式野球、弓道、自動車、空手道が追加され、昭和四十八年の第二十五回大会では二十二種目（公開演技二種目）が行なわれ、約千四百名の学生が参加した。

北陸三大学学生体育競技連盟規約

第一章 総 則

第一条 本連盟は、北陸三大学学生体育競技連盟と称し、富山、金沢、福井各大学の学生体育競技団体をもって組織する。

第二条 本連盟は、北陸地方における学生体育競技の健全なる普及および発達を期し、併せて相互の親睦を図る

を目的とする。

第三条 本連盟の事務局は、金沢市大手町金沢大学内におく。

第四条 本連盟は、第二条の目的を達成するため、毎年定期的に体育大会を開催する。

第五条 体育大会は、毎年輪番制により当番大学が本連盟と共催し、その大学所在地にて開催する。

第二章 組織および運営

第六条 本連盟に参与および委員若干名をおく。二 参与は、各大学職員中より、委員は、各大学学生中より選出する。三 参与および委員の任期は一年とする。ただし、重任を妨げない。

第七条 本連盟の事務を円滑ならしめるため、事務局に理事長一名、理事若干名をおく。二 理事長は、事務局所在大学の参与中より選出し、協議会の承認を得るものとする。三 理事は、各大学より推せんし理事長が委嘱する。

第八条 本連盟の運営のため、参与および委員によって構成する協議会をもつ。

第九条 本連盟に顧問をおくことができる。顧問は、協議会において推たいする。

第十条 本連盟の会計を監査するため、監事二名をおく。監事は、参与の中から理事長が委嘱する。

第三章 体育大会

第十一条 競技種目および競技方法は、協議会の決定による。

第十二条 各競技の審判は、当番大学に委任する。

第十三条 体育大会の表彰は、各種目別に行なう。

第十四条 体育大会に参加するものは、各大学の資格審査委員会（またはこれに代る機関）の承認を必要とする。

第四章 表 彰

第十五条 本連盟は、加盟校の学生ならびに関係者で学生スポーツの振興に寄与し、その功績顕著なるものを表彰する。

第十六条 表彰は、連盟が毎年一回加盟校よりの推せん者について審査委員会の審査を経、協議会の承認を得て行なう。

第十七条 表彰は、当該年度体育大会の開会式において行なう。

第十八条 審査委員会は、加盟校の代表者各三名をもって構成し、理事長が委員長となる。

第五章 会 計

第十九条 本連盟の経費は、各大学の大会参加費をもってこれにあてる。二 参加費は、協議会において決定する。

第二十条 本連盟の予算および決算は、協議会の承認を得なければならぬ。

第二十一条 本連盟の会計年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終る。

付 則 一、本規約の細則は、別にこれを定める。二、本連盟の規約の改正は、協議会において行なう。三、本連盟規約は、昭和二十七年七月五日から実施する。

付 則 この改正規約（昭和三十七年五月十二日改正）は、即日実施する。

北陸三大学学生体育競技連盟規約細則

第一章 協 議 会

第一条 協議会は、各大学選出の参与四名ないし五名、委員各四名をもって構成する。

第二条 協議会は、連盟の運営に関するすべての決定権をもつ。

第三条 協議会は、理事長が招集する。

第四条 協議会は、その都度議長一名を参与から互選し、議長は書記を指名する。

第五条 協議会は、毎年五月に開くを原則とし、必要がある場合は臨時協議会を開くものとする。

第六条 協議会は、構成人員（代理および委任を含む）の三分の二以上の出席により成立し、出席人員の過半数をもって議決する。

第二章 事務局

第七条 理事長は、本連盟の事務、会計、運営の一切を管理し、理事はその事務を処理する。

第三章 体育大会

第八条 本連盟の体育大会は、毎年七月に開催するを原則とする。ただし、競技種目によっては、シーズン制を考慮して開催することができる。

第九条 体育大会の種目は、男子は陸上競技、水泳、庭球、軟式庭球、野球、バスケットボール、バレーボール、ラグビー、サッカー、バドミントン、卓球、体操、柔道、剣道、ヨット、空手（エキジビジョンゲーム）等とし、女子は陸上競技、水泳、庭球、軟式庭球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、体操等とする。その他希望種目は、協議会において決定する。

付 則 一、本連盟の規約細則の改正は、協議会において行なう。二、本連盟規約細則は、昭和二十七年七月五日から実施する。

付 則 この改正規約細則（昭和三十七年五月十二日改正）は、即日実施する。

大会記録

第四回（昭和二十七年） 当番大学 福井大学） 入陸上競技▽優勝金沢大学。入野球▽優勝金沢大学。入軟式庭

球V男子—優勝富山大学。女子—優勝福井大学。△卓球V男子—優勝金沢大学。女子—優勝富山大学。△バドミントンV三者同率。△バレーボールV男子—優勝富山大学。女子—優勝富山大学。△サッカーV優勝福井大学。△ラグビー・フットボールV優勝富山大学。△柔道V優勝福井大学。△バスケットボールV男子—優勝金沢大学。女子—優勝福井大学。△ハンドボールV優勝富山大学。△ソフトボールV女子—優勝金沢大学。

第五回(昭和二十八年) 当番大学 金沢大学

△陸上競技V優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 斎藤

進、田原秀雄、榊田純郎、田辺直、牧野直義、中村哲二、柳原進一。△硬式野球V雨天中止。△軟式庭球V雨天のため延期。△バレーボールV男子—優勝金沢大学、二位福井大学。女子—優勝富山大学、二位福井大学。△バスケットボールV男子—優勝富山大学、三位福井大学。女子—優勝富山大学、二位福井大学。本学選手(男子) 高橋、今川、漆崎、大島、米谷、清崎。△卓球V男子—優勝富山大学、二位福井大学。女子—優勝福井大学。本学選手(男子) 平林、木瀬、持田、井美、谷中、原田、辻、加藤、辻、左藤。△サッカーV優勝富山大学、三位福井大学。△ラグビーV優勝富山大学、三位福井大学。△ハンドボールV優勝富山大学。△バドミントンV優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 鈴木、山本、田中、原、八島。△柔道V優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 田辺、二谷、福多、牧島、桜川、畑、八十島。△馬術V優勝金沢大学。△ソフトボールV雨天中止。

第六回(昭和二十九年) 当番大学 富山大学

△陸上競技V優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 榊田純

郎、山本圭吾、田辺直、河原潔、久米田寛、柳原進一。△硬式野球V三者同率。△軟式庭球V男子—優勝金沢大学、三位福井大学。女子—優勝富山大学、三位福井大学。本学選手(男子) 真弓、酒井、森本、木村、新保、小谷、松本、斎藤、岩尾、小浜。△バレーボールV男子—優勝富山大学、三位福井大学。女子—優勝富山大学、二位福井大学。△バスケットボールV男子—優勝金沢大学、二位福井大学。女子—優勝富山大学、三位福井大学。△卓球V男子—優勝金沢大学、二位福井大学。女子—優勝富山大学、三位福井大学。△サッカーV優勝富山大学、三位福井大学。

△ラグビー▽優勝富山大学、二位福井大学。△ハンドボール▽優勝富山大学。△バドミントン▽男子▽優勝富山大学、三位福井大学。女子▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手（男子） 鈴木、田中、見延、平井、山本、山田、岩崎、志々場。△柔道▽優勝富山大学、二位福井大学。本学選手 八十島、山田、湯口、二谷、中崎、安田、佐野、八島、角谷。△ソフトボール▽女子▽優勝富山大学、二位福井大学。

第七回（昭和三十年度 当番大学 福井大学） △陸上競技▽優勝金沢大学、三位福井大学。△野球▽優勝福井大学。△軟式庭球▽男子▽優勝金沢大学、三位福井大学。女子▽優勝金沢大学、三位福井大学。△卓球▽男子▽優勝金沢大学、二位福井大学。女子▽優勝金沢大学、二位福井大学。△バドミントン▽男子▽優勝富山大学、三位福井大学。女子▽優勝福井大学。△バレーボール▽男子▽優勝金沢大学、三位福井大学。女子▽優勝金沢大学、三位福井大学。△サッカー▽優勝金沢大学、三位福井大学。△ラグビー・フットボール▽優勝富山大学、三位福井大学。△剣道▽優勝金沢大学、三位福井大学。△柔道▽優勝金沢大学、三位福井大学。△バスケットボール▽男子▽優勝金沢大学、二位福井大学。女子▽三者同率。△水泳▽優勝金沢大学、三位福井大学。△体操▽優勝金沢大学、三位福井大学。△ソフトボール▽女子▽優勝富山大学、二位福井大学。

第八回（昭和三十一年度 当番大学 金沢大学） △陸上競技▽優勝金沢大学。△野球▽優勝金沢大学。△軟式庭球▽男子▽優勝金沢大学。女子▽優勝富山大学。△卓球▽男子▽優勝富山大学。女子▽優勝金沢大学。△バドミントン▽男子▽優勝富山大学。女子▽優勝福井大学。△バレーボール▽男子▽優勝金沢大学。女子▽優勝富山大学。△サッカー▽優勝金沢大学。△ラグビー・フットボール▽優勝金沢大学。△剣道▽優勝金沢大学。△柔道▽優勝金沢大学。△バスケットボール▽男子▽優勝金沢大学。女子▽優勝金沢大学。△体操▽優勝金沢大学。△水泳▽優勝金沢大学。△ソフトボール▽女子▽優勝富山大学。

第九回（昭和三十二年度 当番大学 富山大学） △陸上競技▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 上坂

宏、小寺賢春、佐部成男、佐々木甚三郎、司空俊、中西浩三、浜田弘実。△軟式庭球▽男子—優勝金沢大学。女子—優勝富山大学。△硬式庭球▽引分け(雨天のため一部中止)。△卓球▽男子—優勝富山大学、三位福井大学。女子—優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手(男子) 山口、西島、大城、八田、宮田、堂前、加藤、内谷。△野球▽優勝富山大学、三位福井大学。△バドミントン▽男子—優勝富山大学、三位福井大学。女子—優勝富山大学、三位福井大学。本学選手(男子) 志々場、西山、野坂、吉田、杉田、山岸、山田、浜坂、定兼、佐々木。△柔道▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 橋本、梶本、河崎、渡辺、山川、高橋(徹)、麦田、和田、高橋(修)、西原、吉田、岡本、酒田、五十嵐、金巻、日永田、梶本、極星、西方、中山。△バスケットボール▽男子—優勝金沢大学、二位福井大学。女子—優勝富山大学。福井大学不参加。△バレーボール▽男子—優勝金沢大学、三位福井大学。女子—優勝金沢大学、三位福井大学。△サッカー▽優勝金沢大学、二位福井大学。△ラグビー▽三者同率。△ソフトボール▽女子—優勝富山大学、二位福井大学。△剣道▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 山田、稲田、林、白神、羽生、伊藤、出邑、小汀、司辻、南。△体操▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 窪田祐二。△水泳▽優勝金沢大学。△空手道▽(エキジビションゲーム)。

第十回(昭和三十三年度 当番大学 福井大学)

△陸上競技▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 織田宏、塚谷才治、佐部成男、佐々木甚三郎、中西浩三、浜田弘実、瀬古廉久。△軟式庭球▽雨天中止。△庭球▽優勝金沢大学。△野球▽優勝金沢大学、三位福井大学。△卓球▽男子—優勝富山大学、三位福井大学。女子—優勝金沢大学。本学選手(男子) 八田、内谷、西島、浜野、堂前、山口、源、田中、天谷、加藤、宮本、岡田、岡本、前川、林、南保。△バドミントン▽男子—優勝富山大学、三位福井大学。女子—優勝富山大学、二位福井大学。本学選手(男子) 西山(弘)、加藤、杉田、浜坂、定兼、西山(智)、藤崎、岡本、村上、大岩、富田。△バレーボール▽男子—三者同率。女子—優勝金沢大学、二位福井大学。△バスケットボール▽男子—優勝金沢大学、二位福井大学。女

子―優勝金沢大学。△サッカー▽優勝金沢大学、二位福井大学。△ラグビー・フットボール▽優勝金沢大学、二位福井大学。△ソフトボール▽女子―優勝富山大学、二位福井大学。△剣道▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 橋本、河崎、金林、大浦、司辻、出邑、羽生、稲田、南、伊藤。△柔道▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 橋本、河崎、金牧、西原、山川、安部、岡本、麦田、梶本、吉田、上良、西方、仲下、阿部、極星。△水泳▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 山内宏、伊藤進、大橋満、木村幹夫、高野博之、小辻誠、寺岡功夫、松本栄次、多田誠治、浅井康二郎、佐藤義信。△体操▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 窪田祐二。

第十一回（昭和三十四年度 当番大学 金沢大学） △陸上競技▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 佐々木甚三郎、寺角正人、森下守男、瀬古廉久。△軟式庭球▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手（男子） 山本、清水、藤田、渡辺、野辺、橘、奥居、菊地、宮崎、畑中、大塚、平田、松井。△硬式庭球▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 木谷、広島、大和、樫山、阿部、川越、大野、火野、高橋。△野球▽雨天中止。△卓球▽男子―優勝富山大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手（男子） 内谷、八田、田中、浜野、西島、山口、林、山本、片岡、宮本。△バドミントン▽男子―優勝富山大学、三位福井大学。女子―優勝富山大学、三位福井大学。本学選手（男子） 大岩、村上、杉田、坂本、西山、富田、藤崎、岡本、明石、秘山。△バレーボール▽男子―優勝富山大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学、二位福井大学。△バスケットボール▽男子―優勝金沢大学、二位福井大学。女子―優勝金沢大学。△ソフトボール▽優勝富山大学。△剣道▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 東保、徳村、村井、入交、藤本、林、南。△柔道▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 河崎、藤岡、中尾、麦田、安部、広崎、沖下、河合、極星、橋本、梶本、林、西方。△水泳▽優勝金沢大学。本学選手 木村幹夫、松本栄爾、倉見直孝、江居毅、久保、南、土田、小磯、桐生、多田、高野。△体

操▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 窪田祐二。

第十二回（昭和三十五年） 当番大学 富山大学） △陸上競技▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手（男子）

寺角正人、佐々木甚三郎、西岡優、松村周平、瀬古廉久。△野球▽優勝富山大学、三位福井大学。△硬式庭球▽優勝富山大学、二位福井大学。本学選手 阪部、米沢、木谷、川越、広島、大和、檜山、迫。△軟式庭球▽雨天中止。

△卓球▽男子―優勝富山大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学。本学選手（男子） 滝波、天谷、高坂、山下、内谷、林、浜野、山本、山口、宮本、片岡。△バドミントン▽男子―優勝富山大学、三位福井大学。女子―優勝富山大学、三位福井大学。本学選手（男子） 村上、西山、岡本、橋本、大岩、富田、秋山、杉本。△バレーボール▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―優勝福井大学。△サッカー▽優勝金沢大学、二位福井大学。△ラグビー▽優勝金沢大学、二位福井大学。△剣道▽優勝金沢大学、三位福井大学。△柔道▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 中山、内山、大島、中尾、山本、伊藤、東方、竹川、松村、藤岡、橋本。△バスケットボール▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学。△体操▽優勝金沢大学、三位福井大学。△水泳▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 木村幹夫、木村健二、松本栄爾、渋谷孝市、大橋満、小磯悟、沢居毅、中村昌滋。△ソフトボール▽女子―優勝富山大学、二位福井大学。

第十三回（昭和三十六年度 当番大学 福井大学） △陸上競技▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手（男子）

堀川忠男、小野田義男、小松一彦、山本庵、松村周平、鈴間昭夫、西岡優、塚崎辰男、森下守男、寺角正人、瀬古廉久、宮下正勝。△野球▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 北山、片山、吉岡、天野、高田、野坂、北川、奥野、山本。△庭球▽優勝福井大学。本学選手 阪部、米沢、井原、迫、木谷、川越、檜山、狩谷、高橋、佐藤、内藤、前坂、杉本。△軟式庭球▽男子―優勝金沢大学、二位福井大学。女子―優勝福井大学。本学選手（男子） 古川、奥田、山本、清水、奥居、菊池、吉田、菱輪、畠中、大塚、吉川、福島、小林、大久保、福岡、宮本、小菅、鈴木、淵

田、石川、小牧、宮永。△卓球▽男子―優勝富山大学、二位福井大学。女子―優勝富山大学、三位福井大学。本学選手
(男子) 西村、窪田、滝波、長谷、山本、高坂、吉中、荒川、宮崎、坂本、村田、宮本、徳永、中村、上島、片岡。
△バドミントン▽男子―優勝富山大学、三位福井大学。女子―優勝富山大学、三位福井大学。本学選手(男子)
杉本、出口、北島、瀬戸川、秋山、仲倉、川上、梅谷、佐々木、橋本、山谷。△バレーボール▽男子―優勝金沢大学、
三位福井大学。女子―優勝金沢大学、三位福井大学。△サッカー▽優勝金沢大学、三位福井大学。△ラグビー・フット
ボール▽優勝金沢大学・富山大学、三位福井大学。△剣道▽優勝福井大学。本学選手 宮武、村井、名村、二三四、藤本、島崎、吉田、山本、入交、木村。△柔道▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 佐々木、浅田、
木島、前坊、伊藤、木田、小坂、大島、藤田、小林、幸、藤本、伊藤。△バスケットボール▽男子―優勝金沢大学、
三位福井大学。女子―優勝金沢大学。△体操▽優勝福井大学。本学選手 白崎義一、杉本巳代司、柿本正一。△水
泳▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 木村健二、小磯悟、土田善太郎、土田宏美、小出保、渋木孝市、高橋
淳一、山田八栄、中村昌滋、沢居毅。△ソフトボール▽女子―優勝富山大学、二位福井大学。

第十四回(昭和三十七年度 当番大学 金沢大学) △陸上競技▽優勝金沢大学。本学選手 監督成山甚二郎、主
将寺角正人、マネージャー西岡優、森下守男、塚崎辰男、小松一彦、宮下正勝、山本庵、杉山正之、松村、鶴峰功、
堀川忠男、岩坪良雄、鈴間昭夫、小野田義男、狩野忠彦、薄田正泰、三村康治、松森徹雄、西沢正之、松原信夫、団
野界一。△野球▽優勝金沢大学。本学選手 監督野村学、主将片山勝己、マネージャー奥野紀弥、天野洋治、中村孝
雄、勝木政善、後藤清長、山本正勝、高橋功、有賀祥夫、山下純道、宮根透、橋本正孝、小林忠男、竹下健、松本明紀、
中脇雄治。△庭球▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督藤宗寛治、主将井原宏、マ
ネージャー笠川正治、木谷敏夫、川越信匠、迫和成、米沢秀夫、狩谷和弘、岡田厚哉、中島光和、丹羽二郎、米田浩、
川端二四郎。△軟式庭球▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督管井助治、主将吉田圭

一、奥田幸宏、古川昌紀、菊池稔、菊谷哲三、川端宣亮、奥居達朗、宮本邦彦、志智清夫、茶田進一、中谷真人、田
 辺俊夫、松村謙二、建部守、山口秀夫、片岡忠幸、依田頼幸、塩谷哲爾、朝倉勝三、姥浦乾生。△卓球▽男子―優勝
 富山大学。女子―優勝富山大学。本学選手(男子) 主将滝波一郎、マネージャー長谷幸治、山本富士夫、高坂文雄、
 吉中準一、荒川英一朗、西村洋志、宮崎務、津野昌弘、長谷川重広、羽生照夫、任田堅久、飛山幸雄、大槻盾夫、岡
 田利昭。△バドミントン▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝富山大学。本学選手(男子) 監督沖武夫、主将梅谷保、
 マネージャー瀬戸川明、橋本喜徳、伊藤文雄、北島邦雄、仲倉健治、松島誠悟、山吉嘉春、佐々木延之、梶谷将人。
 △バレーボール▽男子―優勝福井大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督塚谷敏道、主将猪服知弘、マネ
 ージャー皆川誠道、清光是昭、内山雅嗣、中田吉則、野根護、金子栄吉、山口勝正、高川興之、安立利光、石井昭一
 朗、北川登、奥谷康矩、前川雄治、高橋忠彦、池田隆、清水満、田田之雄。△サッカー▽優勝富山大学。本学選手
 監督成山甚二郎、主将谷靖夫、マネージャー柱稔、竹沢邦彦、坂井忠勝、高橋克己、髭右近達彦、中村靖毅、杉浦誠
 三、八木信夫、天谷寛之、福田信一、東口半七、芝田清、藤沢英汪、善理嶺信、雀部俊彦、小寺健一、山奥俊夫、長
 谷川重広、岡見敏喜。△ラグビー・フットボール▽優勝金沢大学。本学選手 監督大西青二、主将岡本融、マネー
 ジャー前川寛、杉山禎、佐々木延之、西川昭文、赤井紀代治、福本紘一、上東昌晴、畚野信弘、新屋秀幸、松山隆重、
 榊山一郎、大門正明、井上信治、吉川俊雄、高村宗男、渡辺洋二、藤本益三、河野元、市場信行、西野勝、北村朝治。
 △剣道▽優勝金沢大学。本学選手 主将入交章、マネージャー福岡重紀、吉田尹信、村井竜次、藤本忠弘、名村勝博、
 木村八昌、島崎靖男、山本、三宅龍二、宮武敬彦。△柔道▽優勝金沢大学。本学選手 監督原善次、主将中山憲治、
 マネージャー藤田成一、二口徹、小森洋和、佐々木信男、梅田耕平、徳田彰夫、小坂仁左エ門、西出勝昭、浜本質、
 伊藤貞雄、前坊勲治、石川吉見、乾和郎、川島正明、高砂敏幸、森川卓也、山崎悠一、浅田能成、中谷和利、小林賢
 小崎敏夫、広部正紘、森永新郎、向井章二。△バスケットボール▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝金沢大学。本学選

手(男子) 監督仲村憲三、主将隅谷康彦、マネージャー野口芳臣、八木原繁之、戸田晴康、渋谷俊郎、富田潔也、高橋享、池奥皓二、野村純一、浅利誠也、片岡雄一、高島信吾、岩城勲、山田豊志、岡村和雄、吉川清光、奥田寿夫。△体操▽優勝金沢大学。本学選手 監督成山甚二郎、主将松本己代司、マネージャー柿木正一、野村忠生、山本政治。△水泳▽優勝金沢大学。本学選手 監督沖武夫、主将木村健二、マネージャー浜本倫夫、高橋淳一、沢居毅、浪木孝市、仲林昌滋、山田八栄、土田宏美、土田善太郎、小磯悟、别司正夫、佐藤雅之、小出保、河合正博、江本恵保、楓邦男、山内洋二、直江克彦、大柳覚行、三笠正治。△ヨット▽優勝金沢大学。△ソフトボール▽女子―優勝富山大学。△空手道▽オープン種目。本学選手 主将吉村正次、マネージャー美山徳治、瓜生享、八木克己、藤原毅、花木正、坪川三郎、青木五百里、中島裕治、伊藤哲夫、佐伯唯夫、甲斐実憲、那須健吉、竹田弥太郎、浜本三郎、山本道明、福田宣信、上野勝広、山岸紘恵、岡田克之、荒川良幸、徳留正満、大浦伸晃、樋崎信夫。

第十五回(昭和三十八年度 当番大学 富山大学) △陸上競技▽男子―優勝富山大学、三位福井大学。女子―優勝富山大学、二位福井大学。本学選手(男子) 小野田義男、寺横紀宏、古川靖洋、広田、山本庵、松森徹雄、鈴間昭夫、団野界一、小松一彦、笠松徳藏、中植皓一、松原信夫、西沢正之、池田宗夫。△野球▽優勝三者同率。本学選手 高橋、中植、竹下、野坂、天野、山本。△庭球▽男子―優勝福井大学。女子―優勝福井大学。本学選手(男子) 井原、迫、米沢、笠川、川端、三藤、岡田、狩谷、中島、前田、深川。△軟式庭球▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―優勝福井大学。本学選手(男子) 吉田、川端、志智、茶田、古川、奥田、菊谷、塩谷、木山、植杉、平山、北野、坂本、山崎、高木、波吉、田辺、山口、浜田。△卓球▽男子―優勝福井大学。女子―優勝富山大学、三位福井大学。本学選手(男子) 岡田、飛山、滝波、長谷、宮崎、長谷川、土屋、任田、津野、羽生、豊島、多田、清水、吉中。△バドミントン▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―優勝富山大学、二位福井大学。本学選手(男子) 佐伯、梶谷、松島、大塚、小路、尾野、山谷、牧野、木村、幸道。△バレーボール▽男子―優勝金

沢大学、三位福井大学。女子—優勝金沢大学、二位福井大学。△サッカー▽優勝富山大学、三位福井大学。△ラグビー▽優勝富山大学、三位福井大学。△剣道▽優勝福井大学。本学選手 小西、荻野、木村、名村、島崎、広田、山本、宮地、桑原、西森、柳、山本(芳)。△柔道▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 衛藤、中谷、平田、小林、小坂、沢田、藤田、佐々木、広部、梅田、二口、中山、辻野。△バスケットボール▽男子—優勝金沢大学、三位福井大学。女子—優勝金沢大学。△水泳▽優勝福井大学。本学選手 江本恵保、木村健二、稻邑正也、小出保、中島英徳、三笠正治。△ヨット▽優勝金沢大学。△ソフトボール▽女子—優勝富山大学、二位福井大学。

第十六回(昭和三十九年度 当番大学 福井大学)

△陸上競技▽男子—優勝金沢大学、三位福井大学。女子—優

勝福井大学。本学選手(男子) 小野田義男、寺横紀宏、松原信夫、稻木広美、広田利信、松森徹雄、鈴間昭夫、団

野界一、笠松徳藏、辻正一、野辺豊、西沢正之、南部勇、池田宗夫。△野球▽優勝金沢大学、二位福井大学。△庭

球▽男子—優勝福井大学。女子—優勝金沢大学。三位福井大学。本学選手(男子) 川端、三藤、丹羽、中島、深

川、村上、前田、夜久、堀。△軟式野球▽男子—優勝金沢大学、二位福井大学。女子—優勝福井大学。本学選手(男

子) 木山、川端、泉、後藤、古川、奥田、菊谷、塩谷、山崎、米田、高木、波吉、志智、茶田、坂本、平山、北

野、浜田、杉本、広川、小沢。△卓球▽男子—優勝金沢大学、二位福井大学。女子—優勝金沢大学、三位福井大学。

本学選手(男子) 宮崎、大月、滝波、飛山、土屋、安田、任田、岡田、羽生、大槻、津野、加藤、長谷川、酒井、

福田、小島。△バドミントン▽男子—優勝富山大学、二位福井大学。女子—優勝富山大学、三位福井大学。本学選手

(男子) 佐伯、梶谷、大塚、木村、尾野、小路、牧野、杉田、文室、佐々木、松島、前田、広田。△バレーボー

ル▽男子—優勝金沢大学、二位福井大学。女子—優勝金沢大学、二位福井大学。△サッカー▽優勝富山大学、三位福

井大学。△ラグビー・フットボール▽優勝福井大学、金沢大学。△剣道▽優勝富山大学、二位福井大学。本学選手

野口、荻野、広田、山本、小西、木村、田中、能口、柳、吉田、安川、関、宮地。△柔道▽優勝富山大学、三位福井

大学。本学選手 沢田、小林、中谷、広部、佐々木、辻野、向井、水登、小坂、衛藤、藤田、岩田、田中、谷口。
△バスケットボール▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学、三位福井大学。△準硬式野球▽優勝金沢大学、二位福井大学。△水泳▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 江本恵保、沢田嘉昭、中島英徳、小出保、直江克彦、稻邑正也、三笠章治。△ヨット▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 藤井、南谷、木村、藤田。△ソフトボール▽女子―優勝富山大学、二位福井大学。

第十七回(昭和四十年) 当番大学 金沢大学) △陸上競技▽男子―優勝金沢大学。女子優勝金沢大学。本学選手(男子) 寺横紀広、森本博美、野ツ俣三太郎、稻木広美、三村和生、団野界一、松原信夫、竹内和徳、松川富博、松森徹雄、西沢正之、池野宗夫、田村、池田宗夫、南部勇、服部邦雄、豊川伊左男。△野球▽優勝金沢大学。本学選手 マネージャー大西明道、主将松本明紀、竹下健、森川卓也、中植真、小林忠彦、清水清博、野坂勝義、寺西功、堀畑俊夫、山脇一栄、高橋哲夫、酒井満夫、杉崎基、日下俊昭、岩堀輝夫、宮根幸男、大谷敏谷、渡辺彰彦、大西明道。△庭球▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督藤宗寛治、マネージャー西山博基、主将堀俊則、前田猛夫、村上彰竜、深川満、夜久弘明、吉田武男、小島佐平、結川健一、藤原武昭、安藤直彦、加藤宗隆、浅野直昭。△軟式庭球▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝富山大学。本学選手(男子) 監督笠井助治、マネージャー木山信隆、主将菊谷哲三、川端宣克、山崎勝義、奥田寿夫、浜田康夫、高木実、波吉隆二、巽信夫、北野和彦、平山隆通、広川等、泉幸男、後藤武司、神谷清美、内藤義弘、桂原史雄、八木成美、石川重毅、新原正郎。△卓球▽男子―優勝福井大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督岡田賢治、マネージャー清水輝夫、主将酒井平四郎、土屋紀和、任田賢次、飛山幸男、岡田利昭、大槻盾夫、稲葉勲、高島征雄、清水輝夫、米野守、安田憲二、滝波俊弘、板垣美一、松田孝幸、田中進。△バドミントン▽男子―優勝富山大学。女子―優勝富山大学。本学選手(男子) 監督沖武夫、マネージャー前田章良、主将三好健雄、梶谷将人、大塚実、木村紀夫、佐伯外

与昭、杉田紘一、梅景潤一郎、大西敏春、伊原正純、樹下修治、高棹秀徳、辻和成、藤井隆、黒岩利昭。△バレーボール▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督善里嶺信、マネージャー番匠輝雄、主将宮田勝保、高田守、加藤嘉明、出雲路善英、竹内信行、藤本正勝、高橋忠彦、岡正浩、伊藤敏晴、平山収、尾崎憲男、中村正樹、磯谷文一、斎藤学。△サッカー▽優勝富山大学。本学選手 監督塚谷敏勝、マネージャー前川勝男、主将梅岡利弘、八木信弘、木藤敏明、天谷寛之、東口半七、山本政治、松田健司、山形雪夫、田島洌、鷺見和郎、長谷川元治、藤井進、中村修、前川勝男、山本芳彦、昇幸一郎、絹谷信博、加藤正博、宮川孝男、吉田孝雄。△ラグビー・フットボール▽優勝福井大学。本学選手 監督大西青二、マネージャー安川弘子・東曉美、主将宮井正弥、北村朝治、竹内義彦、市場信行、久保田静男、高田慶雄、松山仁、山川勇郎、山本哲夫、菅沼四郎、田中秀男、檜木四郎、林洋幸、藤本修、松下昌雄、吉沢英明、松本徹也、磯野栄、川端省三、沢井、塩谷友一、中西宏、深田嘉久、布施容三、安川毅。△剣道▽優勝金沢大学。本学選手 監督桑原瑞尚、マネージャー広田信親、主将小西清光、山本勝茂、荻野修司、宮地正紘、柳肇、能口幸久、田中卓爾、吉田光孝、中津川英則、山本省一、勝丸桂二郎。△柔道▽優勝金沢大学。本学選手 監督原善次、マネージャー杉谷幸一郎、主将後藤社司、小林賢、広部正紘、辻野昌宏、沢松宏二、向井章二、水登裕、杉左近律治、岩田康宏、林俊明、田中清次郎、酒井達郎、斎藤俊晴、山本孝光、林誠一、板場通夫、豊田繁雄、笈田陽次、高塚亮三、藤野和夫。△バスケットボール▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督仲村憲三、マネージャー岡本靖雄、主将染谷芳弘、岩城勲、吉川清光、山田豊志、三浦義為、浅利誠也、白井武司、山角剛司、岡本靖雄、野村繁、林孝一、藤本宣政、歌門啓二、西田征一。△準硬式野球▽雨天中止。本学選手 監督寺井俊男、マネージャー森永新一郎、主将九鬼正隆、沼崎英暉、岩井、高村忠幸、森俊郎、藤田正昭、湯浅忠、小西徹哉、清水道夫、細野文志、山本周蔵、山本藤則、山田晴夫、朋田光弘、宮井裕三、黒田嘉海、伊藤勝、吉村邦雄、奈良。△体操▽中止。本学選手(男子) 監督石田保之、マネージャー前田次夫、主将中沢

隆一、荒井優、中島実、小坂聡敏、小谷武司、白井直孝、木村武司、中西、左藤、北間庄三、宇野、吉村強実。△水泳▽優勝金沢大学。本学選手 監督沖武夫、マネージャー本東昭、主将中島英徳、江本恵保、三笠正治、直江克彦、稲邑正也、沢田義昭、西村義隆、青山誠治、山脇敏明、五十嵐忠則、野々山孝美、山岸康秀、福井淳、飯田博明。△ヨット▽優勝金沢大学。本学選手 監督沖武夫、主将松木明紀、木村馨思、藤井宏一、田島ミチ男、中川文彦、藤田武久、南谷則寛、山田秀彦、吉田了治、勝田邦夫、木下隆郎、中山誠、山本義雄、辻美次、結城章。△ソフトボール▽雨天中止。△ハンドボール▽優勝富山大学。△空手道▽オープン種目。本学選手 マネージャー清水俊太郎・岩越敏雄、主将山内洋二、谷口安弘、竹平恰、前田勉、樋崎信夫、浦繁、村山貞、清水俊太郎、結城恭昌、大和征一、免山秀雄、重久悠久雄、重松宏昌、西尾良一、新妻克彦、細井政市、中尾岩延、田中稔、竹内寿一、郡谷吉彰、秦円澄教順、木原義美、石原良一、安村秀一。△創作舞踊▽公開演技。

第十八回（昭和四十一年度 当番大学 富山大学） △陸上競技▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝福井大学。本学選手（男子） 監督成山甚二郎、主将寺横紀広、岡崎英生、森下博美、野ツ俣三太郎、斎藤哲男、三村和生、松川富博、世戸繁男、竹内和徳、森下和男、池田宗夫、豊川伸佐雄、服部邦雄、稲木広美、田村憲男。△硬式野球▽優勝富山大学。本学選手 監督片山勝己、マネージャー広部美由紀、主将寺西功、堀畑俊雄、中植真意、小林忠彦、野坂勝義、清水清博、山脇一栄、高橋哲夫、酒井満男、杉崎基、野田秀昭、日下俊昭、岩堀輝夫、黒田嘉海、宮根幸男、中野惣一、高橋庄亥智、柳原武一、小川務、関幸治、井上正章。△庭球▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝金沢大学。本学選手（男子） 監督藤宗寛治、マネージャー藤原新次、主将藤原武昭、小島佐平、堀俊則、吉田武男、結川健一、浅野直昭、安藤直彦、加藤宗隆、竹原幸雄、田部裕章、西岡広蔵、三原好継。△軟式庭球▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝富山大学。本学選手（男子） 監督笠井助治、マネージャー神谷清美、主将泉幸男、木山信隆、波吉隆二、後藤武司、平山隆通、石川重毅、広川等、橋本俊一、北野和彦、黒瀬純完、新原正朗、桂原史雄、八木成美、

沢井勇、八島正明、矢部正三、井上清作、若松隆、倉田実。△卓球▽男子—優勝金沢大学。女子—優勝福井大学。本学選手(男子) 監督岡田賢治、マネージャー板垣美一、主将安田憲二、酒井平四郎、稻場勲、小島多吉、滝波俊弘、藤田雄治、高島征雄、松田孝幸、南進、吉田茂、岑吉正一、清水輝夫、米野守、江岸徹。△バドミントン▽男子—優勝富山大学。女子—優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督沖武夫、マネージャー藤井隆、主将辻和成、杉田紘一、三好健雄、前田章良、大西敏春、梅景潤一郎、角谷達夫、高棹秀徳、瓜生敬堂、伊藤正純、岡田誠治、北原紀之、阪口博数、酒井紀生。△バレーボール▽男子—優勝富山大学。女子—優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督塚谷敏勝、マネージャー尾崎憲男、主将藤本正勝、宮田勝保、竹内信行、番匠輝雄、加藤嘉明、岡正活、出雲路善英、伊藤敏晴、浜野康彦、山崎静、七尾純兒、菱輪惣一郎、天目稔、長瀬正博。△サッカー▽優勝富山大学。本学選手 監督塚谷敏勝、マネージャー前川勝男、主将長谷川元治、鷺見和郎、毛鹿賢則、山形雪雄、梅岡利弘、田島冽、藤井進、高尾武、宮川孝男、絹谷信博、昇幸一郎、吉村良治、吉田孝雄、荒井彦左衛門、近藤孝信、高橋弘明、東照、前川友三、内藤増和。△ラグビー・フットボール▽優勝金沢大学。本学選手 主将松下昌雄、宮井正弥、山元哲夫、松山仁、久保田静男、山川勇郎、高田慶雄、松本徹也、藤本修、林洋幸、檜木四郎、田中秀男、菅沼史郎、布施容三、山本一郎、沢井每夫、安川毅、高橋忠彦、塩谷友一、深田喜久、中西宏、日西稔、磯野栄。△剣道▽優勝富山大学。本学選手 監督増田憲二郎、マネージャー田中卓爾、主将能口幸久、山本勝茂、大久保和義、山本省一、勝丸桂二郎、寺倉弘幸、森本泰文、尾崎嘉洋、角谷吉昭、楠芳雄、中島和則。△バスケットボール▽男子—優勝金沢大学。女子—優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督仲村憲三、主将野村繁、浅利誠也、染谷芳弘、臼井武司、林孝一、歌門敬二、頼末省三、藤本宣政、中村達朗、関戸憲治、大谷敏也、出口克二、松井良次、小沢勝、堀祐二、畑佳彦、前田規之、木村貞夫、加藤勝康、門脇邦夫。△準硬式野球▽優勝金沢大学。本学選手 監督中村種男、マネージャー藤田正昭、主将吉村邦雄、奈良一信、清水道夫、明田光弘、山本周蔵、宮井裕三、伊藤勝、山本義則、山田晴

夫、開隆、金田哲郎、伊香和雄、橋本勝之、平木誠一、石川彰、木地芳之、武内、橋毛。△ハンドボール▽優勝富山大学。本学選手 監督塚谷敏勝、マネージャー久保出敏治、主将五十嵐稷治、定兼敬治、増永利栄、大西公正、栗波昭文、山本義雄、田辺正剛、前川友三、勝木一郎。△空手道▽オープン種目。本学選手 監督長谷川、マネージャー田中稔・岡田克男、主将結城恭昌、大和征一、清水俊太郎、重久悠久雄、重松悠昌、免出秀雄、西尾良一、細井政市、新妻克彦、斎藤茂樹、山崎宇佐衛門、高島和夫、石原良一、竹内寿一、加納寛也、那谷吉彰、豊田薫、松尾寛士、窪利男、石橋健一、前林正浩、石川八敬、坂本学、宮原照、増田満、牧野正明。△水泳▽優勝金沢大学。本学選手 野々山孝美、牧本新二郎、山脇敏明、沢田嘉明、山岸康秀、青山誠治、稲色正也、松本実、田辺利一、西村義隆、中島英徳、五十嵐忠則、椋内伸治。△ヨット▽優勝金沢大学。本学選手 監督面野恣、マネージャー勝田邦夫、主将木下隆郎、南谷則寛、吉田了治、藤田武久、中川文彦、因島三千雄、山田秀彦、藤田邦夫、結城章、辻美次、笠島高士、高松英明、山本義雄、布川雅一、中山和雄、高橋富士雄、森茂樹、土尾憲二、山田宣弘、木谷克弘。△弓道▽優勝富山大学。本学選手 監督野村利生、マネージャー田辺静夫、主将増田明彦、安永惇典、小林静子、鈴木史郎、田辺静夫、青島武、西則夫、千島毅、西嶋俊二、増田明彦、川村寿彦、安田豊治郎、田中重美、平木幸治、山塩正夫、寺田新司。△自動車▽オープン種目。本学選手 監督渡辺勝、マネージャー高沢典雄、主将山根義弘、北川洋、和田安男、松本義彦、山口正志、青木、黒岩利昭、吉沢英明、宮下義勝、山根洋造、桜井靖弘、歌門敬二、北雅夫、石井慎治、野々山孝美。△ソフトボール▽女子▽優勝富山大学。△創作舞踊▽公開演技。

第十九回（昭和四十二年度 当番大学 福井大学） △陸上競技▽男子▽優勝福井大学。女子▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手（男子） 監督成山甚二郎、主将野ツ俣三太郎、マネージャー岡崎英生、松川富博、世戸繁男、三村和生、竹内和徳、田村憲男、森本博美、赤松英行、斎藤喜八郎、水谷俊雄、加藤孝一、崎元隆、高橋守、宮川俊介、高堰直治。△野球▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 監督片山勝巳、主将高橋哲夫、マネージャー

広部美由紀、酒井満男、杉崎基、岩堀輝夫、日下俊昭、野田秀昭、宮根幸男、井上正章、大滝茂樹、小川務、関幸治、高橋庄亥智、中野惣一、野田勉、柳原武一、村田茂佐登、勝二信隆、鹿嶋高広、森勲、神原博司。△庭球▽男子―優勝福井大学。女子―優勝福井大学。本学選手(男子) 監督藤宗寛治、主将田部裕章、マネージャー野畑正二、藤原武昭、加藤宗隆、竹原幸雄、中村孝二、南後守、田辺裕章、白井秀夫、井上新一、藤井慶三、長谷川建夫、西岡広蔵。△軟式庭球▽男子―優勝金沢大学、二位福井大学。女子―優勝富山大学、三位福井大学。本学選手(男子) 監督笠井助治、主将石川重毅、マネージャー摩島康人、泉幸男、後藤武司、沢井勇、桂原史雄、八木成美、矢部正三、井上清作、新原正朗、八島正明、橋本俊一、若松隆、倉田実、加藤進、山内宏、大槻和彦、三島昭男、中村晴史、宮崎雄一、栗田文久、前川徹、渡辺哲二、佐野勲。△卓球▽男子―優勝福井大学。女子―優勝富山大学。本学選手(男子) 監督岡田賢治、主将松田孝幸、マネージャー吉田茂、板垣美一、江岸徹、高嶋征雄、滝波俊弘、安田憲二、石山義栄、加藤二郎、南進、岑吉正一、近藤好治、竹次一雄、松本芳孝、室敏一。△バドミントン▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手(男子) 監督沖武夫、主将瓜生敬堂、マネージャー岡田誠治、辻和成、大西敏春、藤井隆、梅景潤一郎、北原紀之、伊藤正純、岡田誠治、阪口博数、永宮紀一、酒井紀生、松田幸彦、西崎新三、大杉欽一郎、中村正信。△バレーボール▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手(男子) 監督塚谷敏勝、主将七尾純児、マネージャー浜野康彦、山崎静、岡正浩、山本憲次、山田宣弘、出雲路善英、山本隆司、湯本時男、丹田雅夫、砂畑栄治、安岡明治、宇野里志、山田隆之。△サッカー▽優勝福井大学。本学選手 監督桑原良一、主将宮川孝男、マネージャー絹谷信博、長谷川元治、藤井進、手鹿賢則、高尾武、昇幸一郎、吉田孝雄、荒井彦左エ門、吉村良治、近藤孝信、高橋弘明、前川友三、飛山英男、森敬八、藤田英治、木内晃、小林秀夫、吉田義明、塚本幸雄。△ラグビー・フットボール▽優勝福井大学。本学選手 監督大西春二、主将沢井毎夫、マネージャー山本一朗、松本昌雄、松本徹也、田中秀男、菅沼

史郎、檜木四郎、藤本修、布施容三、安川毅、磯野栄、塩谷友一、中西宏、深田嘉久、高橋忠彦、市田隆、大野春男、中西勝、日西稔、坂田進、石井博志、鈴木章二、宮川俊介、河里良幸、清水宏。△剣道▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 監督増田憲二郎、主将寺倉弘夫、マネージャー森本泰文、能口幸久、田中卓弥、寺倉弘幸、森木義文、角谷吉昭、原幹夫、尾崎嘉洋、楠木芳雄、中島和則、辻武次、青谷、小山忠昭、中垣清弘、佐々木満、荒木哲郎、金子均、水上邦夫。△柔道▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 監督小島吉雄、主将爰田陽次、マネージャー中井清樹、田中清次郎、山本孝光、高坂亮三、松原与治郎、中井清樹、酒井達郎、足立晏久、木谷慎一郎、篠原正章、小林幹夫、畑博男、中野誠治、石原昌和、坂本正、丸川成平、青垣智徳、畝田裕司、熊谷康心、藤野和夫。△バスケットボール▽男子▽優勝金沢大学、二位福井大学。女子▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手(男子) 監督仲村憲三、主将中村達朗、マネージャー頼未省三、野村繁、出口克二、歌門敬二、林孝一、藤本宣政、内山和憲、門脇邦夫、加藤勝康、木村貞夫、小沢勝、加藤真治、辻正人、釘内欣一、一之瀬直之。△準硬式野球▽雨天中止。本学選手 監督藤田哲男、主将吉村邦雄、マネージャー奈良一信、高田信弥、清水通夫、山田晴夫、伊藤勝、明田光弘、橋尾一、伊香和夫、島中徹、平木誠一、石川彰、門範夫、金田哲朗、斎藤隆文、伊部茂平、山下研治、国本修、林孝治、坪田則夫、長谷川義治、石川孝。△ハンドボール▽優勝福井大学。本学選手 監督塚谷敏勝、主将五十嵐稔治、マネージャー増永利栄、勝木典之、大久保憲郎、佐近俊男、山下秋二、白崎俊雄、荒川勝、東川伸一、南部栄司、嶋津省治、江上彰、久保孝司、大塚憲次、前田光雄。△空手道▽優勝富山大学、二位福井大学。本学選手 監督長谷川健二、主将岡田克男、マネージャー豊田薫、西尾良一、新妻克彦、田中稔、細井政市、豊田蓋、斎藤茂樹、郡谷吉彰、加納憲也、石原良一、高島和夫、竹内寿一、山崎宇左エ門、原洋次、春名英二郎、前林正浩、松尾寛士、立川恒雄、鍛治末広、坂本学、増田満、福田幹夫、狩谷亮丞、三井毅、石川八敬。△体操▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 監督成山甚二郎、主将浜崎博、田中喆、宮辺邦明、山形秀勝、吉田務。△水泳▽優勝金沢大学、二

位福井大学。 本学選手 監督横山一郎、主将野々山孝美、マネージャー青山誠治、沢田嘉昭、西村義隆、山岸康秀、松本実、五十嵐忠則、江森日出夫、椋内伸治、高橋俊彦、田辺利一、牧本新二郎、山瀬市郎、桑原敏憲、谷口幸一、浜信二、藤井俊幸、杉森英二、松井晴義。△ヨット▽優勝金沢大学、三位福井大学。 本学選手 監督面野恣、主将辻美次、マネージャー高松英明、木下隆郎、勝田邦夫、笠島高士、布川雅一、山本義雄、高橋富士雄、土尾憲二、米田新一郎、神藤俊郎、伊藤四郎、毛利範之、吉江重二、太田泰雄、高山実、高田孝一、寺田正人、村上清。△弓道▽優勝富山大学、二位福井大学。 本学選手 監督野村利生、主将西嶋俊二、マネージャー平木幸治、田辺静夫、川村寿彦、安岡豊治郎、山崎正夫、田中重美、寺田新司、中島毅、井之本敏、坂本正一、上坂治、川真田信夫、威徳井勝博、林哲生、村田尚生、西願幸彦、吉田滋、松成聡、青島武。△自動車フィギュアレース▽オープン種目。 本学選手 監督山本浩史、主将北雅夫、マネージャー佐々木卓郎、文室勝博、石井慎治、田川範生、佐々木哲郎、勝木和秋、北川洋、和田安男、藤本光、上村馨、高田真弥、二口膏、中野俊一、本田幸雄。△ソフトボール▽女子―優勝富山大学、二位福井大学。△創作舞踊▽公開演技。

第二十回（昭和四十三年度 当番大学 金沢大学） △陸上競技▽男子―優勝福井大学。 女子―優勝金沢大学。 本学選手（男子） 監督永田清章、主将岡崎英生、マネージャー加藤孝一、野ツ保三太郎、森本博美、斉喜八郎、高橋守、崎元隆一、赤松英行、水谷俊雄、宮川俊介、山中良夫、津山康則、浅野好昭、栄山勝巳、尾崎啓史、内山俊博、土田誠、船津伸行、塚崎慎一、岡本樹幸、桜井康治。△野球▽優勝金沢大学。 本学選手 監督片山勝巳、主将柳原武一、マネージャー小川務、野田秀昭、日下俊昭、岩堀輝夫、宮根幸男、石丸浩、関幸治、高橋庄亥智、野田務、橋尾一、村田茂佐登、勝二信隆、森勲、織田秀憲、木村慎吾、竹本俊治、高橋正基、水上誠一。△庭球▽男子―優勝金沢大学。 女子―優勝福井大学。 本学選手（男子） 監督藤宗寛治、高原万寿雄、主将白井秀雄、マネージャー藤井慶三、田辺祐章、中村孝二、竹原幸雄、長谷川健夫、井上新一、木村武、前側宏、梶本道宏、八賀隆、西岡広蔵。△軟

式庭球V男子—優勝金沢大学。女子—優勝金沢大学。本学選手（男子） 監督笠井助治、主将橋本俊一、マネージャー山内宏、中村博夫、宮崎雄一、石川重毅、若松隆、倉田実、粟田文久、前川徹、八島正明、新原正朗、西高一、佐野薫、加藤進、山内栄司、大槻和彦、川島照男、松田良里、吉村一良、近藤陸雄。A卓球V男子—優勝金沢大学。女子—優勝富山大学。本学選手（男子） 監督岡田賢治、主将近藤好治、マネージャー松岡源一、松田孝幸、吉田茂、南進、石山義栄、福田博、佐々木俊和、松本芳孝、竹次一雄、松島良宏、林茂、服部政和、鈴木奉夫、浅野紳、島田進。AバドミントンV男子—優勝金沢大学。女子—優勝富山大学。本学選手（男子） 監督沖武夫、主将松田幸彦、マネージャー見神健治、瓜生敬堂、梅本初男、酒井紀生、西崎新三、成光茂、山田栄次、長辻光博、中村正信、山室保雄、山口光孝、西野実、田中幸男。AバレーボールV男子—優勝金沢大学。女子—優勝金沢大学。本学選手（男子） 監督塚谷敏勝、主将山田宣弘、マネージャー宇野里志、山本憲次、砂畑栄治、湯本時男、丹田雅夫、山本隆司、増田賢二、安岡明治、西原忠、山田隆之、青野和平、吉田英昭、浅野博、小倉久男。AサッカーV優勝金沢大学。本学選手 監督塚谷敏勝、主将高橋弘明、住田達映、宮川孝男、絹谷信博、荒井彦左衛門、吉田孝雄、前川友三、木内晃、森敬八、塚本幸雄、小田昭夫、吉田英治、上山新一、八田利幸、砂子田勇、石田隆史、田村実、石橋博、後藤純一、田村雅宣。Aラグビー・フットボールV優勝金沢大学。本学選手 監督大西青二、主将高橋忠彦、布施容三、塩谷友一、沢井每夫、山本一朗、安川毅、中西宏、白西稔、市田隆、大野春男、石井博志、後成明、林徹、鈴木章二、青山源太郎、金木健、谷口俊二、楨原隆、土坂幾夫、山崎国雄、藤下利夫、中川耕一、島田豊、北村清成。A剣道V優勝金沢大学。本学選手 監督増田憲二郎、主将中島和則、マネージャー青谷懿、寺倉弘幸、森本泰文、辻武次、中垣清弘、佐々木満、荒木哲郎、金子均、水上邦夫、高垣敏一、横井利幸、筒田秀樹、山口正樹、槌田徹、小山忠昭、梅垣喜通、岡本敏弘、三木幾次。A柔道V優勝金沢大学。本学選手 監督小島吉雄、主将木谷慎一郎、マネージャー牧野雄二、笈田陽次、松原与治郎、高塚亮三、足立晏久、中野誠治、小林幹夫、篠原正章、畑博男、石原昌

和、坂本正、荒川昭彦、前田学、熊谷康心、伊東賢悟、西惠一、高浜忠司、藤田吉弘、椎間弘隆、宮沢利典。△バスケットボール▽男子—優勝金沢大学。女子—優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督仲村憲三、主将内山和憲、マネージャー—前田規之、中村達朗、門脇邦夫、藤本宣政、加藤勝康、加藤真治、辻正人、一之瀬直之、釧内欣一、野路敏博、辻村正和、馬場明義、五十嵐恒雄、斎藤潔、津田裕治。△準硬式野球▽優勝富山大学。本学選手 監督藤田哲男、主将島中徹、マネージャー—伊香和夫、吉村邦雄、奈良和信、山田晴男、清水道夫、明田光広、伊藤勝、高田真弥、平木誠一、金田哲郎、石川彰、門範夫、河合政雄、伊部茂平、吉田純一、坪田則夫、林孝治、長谷川義治、山下研治。△ハンドボール▽優勝福井大学。本学選手 監督塚谷敏勝、主将大久保憲郎、マネージャー—田中光夫、山下秋二、南部荣司、荒川勝、東川伸一、江上彰、嶋津省治、久保孝司、石元克和、尾崎章一、富江修。△空手道▽優勝福井大学。本学選手 監督長谷川健二、主将豊田薫、マネージャー—三井毅、松尾寛士、山崎宇左エ門、郡谷吉彰、斎藤茂樹、石原良一、加納寛也、高島和夫、前林正浩、田原洋次、春名英二郎、坂本学、石川八敬、狩谷亮丞、山中悟、福田幹夫、田中信太郎、経塚力、水島洋一、浦川勝、平井俊和、北川澄夫、酒井治、内田幸憲。△弓道▽優勝富山大学。本学選手 監督野村利生、主将井之元敏、マネージャー—上坂治、牛島毅、西嶋俊二、安岡豊治郎、田中重美、威徳井勝博、川真田信夫、西願幸彦、坂本正一、林哲生、村田尚生、吉田滋、岩崎出、北川嘉文、高山昭三、竹山則男、道端信治、若林弘、森田和夫。△体操▽優勝金沢大学。本学選手 監督平井富弘、主将田中詰、マネージャー—吉田勉、浜崎博、宮辺邦明、山形秀勝、森幸一、森英明。△水泳▽優勝金沢大学。本学選手 監督横山一郎、主将野々山孝美、マネージャー—山岸康秀、松本実、五十嵐忠則、松本新二郎、高橋俊彦、櫻内伸治、田辺利一、江森日出男、桑原敏憲、安田弘道、浜信二、杉森英二、藤井俊幸、松井晴義、谷口幸一、田村実、三田村祐右、宇佐美光治。△ホッケー▽優勝金沢大学。本学選手 監督藤井宏一、主将布川雅一、マネージャー—高橋富士雄、辻美次、高松英明、笠島高士、山本義雄、土屋憲二、米田新一郎、伊藤四郎、毛利範之、高田孝一、古江重二、村上清、杉本久寿雄、安福貞雄、

足立明言、三屋利明、萩原祥介、島谷慎二郎、森永益男。△自動車▽優勝福井大学。本学選手 主将佐々木哲郎、マネージャー本田幸雄、鎌谷達夫、二口青、米沢斉、玉置洋治、畑佳彦、加藤登、中野俊一、勝木和秋、越田克基、増田啓一。△ソフトボール▽女子―優勝福井大学。△創作舞踊▽公開演技。

第二十一回（昭和四十四年度 当番大学 富山大学） △陸上競技▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝金沢大学。

本学選手（男子） 監督永田靖章、主将斉藤喜八郎、マネージャー水谷俊雄、岡崎英生、赤松英行、崎元隆一、宮川俊介、加藤孝一、岡本幸樹、尾崎啓史、藤山満、桜井康治、塚崎慎一、土田誠、西上英司、山中良夫、吉沢純市、則武継夫、藤山徹、山本敏勝、越智俊夫、関本雅章。△野球▽優勝金沢大学。本学選手 監督片山勝巳、主将柳原武一、マネージャー小川務、石丸治、村田茂佐登、勝二信隆、森勲、林二美男、栄山勝己、織田秀憲、木村慎五、水上誠一、高橋正基、竹内俊治、町井定和、山下美津雄、藤田学、和田良平、久保英機。△庭球▽男子―優勝富山大学。女子―優勝福井大学。本学選手（男子） 監督藤宗寛治、主将八賀隆、マネージャー広村修一、白井秀夫、井上新一、木村武、長谷川建夫、柳沢孝幸、田村豊太郎、井上省一、甲藤修、鍋島高佳、城下賢二。△軟式庭球▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝金沢大学。本学選手（男子） 監督笠井助治、豊島敏雄、主将宮崎雄一、マネージャー佐野薫、橋本俊一、中村博史、加藤進、川嶋昭男、松田良里、山内宏、倉田実、若松隆、大槻和彦、栗田文久、前川徹、渡辺哲二、山内栄司、吉村一良、古山三千男、鳥居沢次、近藤睦雄、西高一、小林秀行、喜多敏、津田俊一、白崎俊行、山田敏博、田中一郎、薮下昭生、加藤博雄、小林啓三、山田国雄。△卓球▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝富山大学。本学選手（男子） 監督岡田賢治、主将松本芳孝、マネージャー竹次一雄、石山義栄、近藤好治、室敏一、松島良宏、佐々木俊和、服部政和、増田勉、林茂、浅野紳、鈴木泰夫、石田外茂二、島崎政信、武田満喜。△バドミントン▽男子―優勝富山大学。女子―優勝金沢大学。本学選手（男子） 監督沖武夫、主将梅本初男、マネージャー西野実、松川幸彦、酒井紀生、田中幸男、常塚与治郎、北沢敬光、田原武、井上頼夫、佐々木修、西崎新三、松田均、玉木一

好、辻教一、前田義照。△バレーボール▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督塚谷敏勝、主将砂畑栄治、マネージャー西原忠、宇野里志、湯本時男、竹内達雄、山本隆司、丹田雅夫、青野和平、小倉久男、浅野博、平内正夫、千葉幸雄、大江悟元、大橋良太、山本文夫、吉田英昭。△サッカー▽優勝富山大学。本学選手 監督桑原良一、主将塚本幸雄、マネージャー佐野敏明、高橋弘明、森敬八、住田達映、小田昭夫、吉田英治、上山新一、井上朝信、石田隆史、豊浦信章、石橋博、後藤純一、田村実、遠山俊一、木下良樹、泉原良昭、目輝二、磁野喜代二、木田雅隆、酒井彰。△ラグビー・フットボール▽優勝金沢大学。本学選手 監督大西晋二、主将市田隆、マネージャー後成明、大野春男、中西勝、石井博志、鈴木章二、林徹、青山源太郎、金木健、中川耕一、上坂幾夫、楨原隆、山崎国雄、大道義正、若松和雄、美谷洋、前川裕、山口昭徳、中出省三、高島猛、北川則道、南野康信、兼八和幸、越田康雄、上嶋徹。△剣道▽優勝富山大学。本学選手 監督山崎正、主将佐々木満、マネージャー高垣敏一、中島和則、中垣清弘、小山忠昭、荒木哲郎、水上邦夫、梅垣喜通、竜野篤朗、横井利幸、筒田秀樹、山口正樹、神野述仁、丸雄潔、寺田弓平、高橋正樹、橋本栄二、宮地功。△柔道▽優勝福井大学。本学選手 監督小島吉雄、主将坂本正、マネージャー前田学、木谷慎一郎、小林幹夫、中野誠治、石原昌和、荒川昭彦、伊藤賢悟、梅見元春、熊谷康心、西惠一、藤田吉廣、宮沢利典、山本泰章、吉田裕、田中清実、中村豊重、松浦芳樹、森下裕幸、五十嵐博行。△バスケットボール▽男子―優勝富山大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督仲村憲三、主将加藤真治、マネージャー松井良次、内山和憲、門脇邦夫、加藤勝康、藤本和男、堀内和雄、大久保克彦、前田規之、辻正人、野路敏博、釧内欣一、辻村正和、津田裕治、馬場明義、竹中利夫、荒二井隆志、羽生哲雄、川西孝夫、吉村重義、山形修。△水泳▽優勝金沢大学。本学選手 監督横山一郎、主将桑原敏憲、マネージャー杉森英二、牧本新一郎、樫内伸治、田辺利一、山瀬市郎、高橋俊彦、松井晴義、谷口幸一、安田弘道、大沢寛、三田村裕右、吉川信男、能島昭夫、佐田治生、久保田和夫、田村実、西田外志光、宇佐美光治、鈴木和義、別島忍、堤照美、永田和雄、藤原

行雄、山口健一。△ヨット▽優勝富山大学。本学選手 監督沖武夫、主将毛利範之、マネージャー高田孝一、吉江重二、神藤俊郎、太田泰雄、村上清、土尾憲二、高橋富士雄、伊藤四郎、杉本久寿雄、島谷慎二郎、安福貞雄、足立明信、森永益男、木村康仁、別島忍、吉川博、鈴木和義、田島富士男、植田祥夫、△準硬式野球▽優勝金沢大学。本学選手 監督清水道夫、主将吉田純一、マネージャー丸井澄恵、河合政雄、坪田則夫、林孝治、北尾信雄、山下研治、室田久則、吉田長栄、中村純一、福井洋介、吉田道夫、高橋了、小林茂樹、尾関光良、原田光章、六雄通、恩地義範、山本修、小野秀樹、広瀬行雄。△ハンドボール▽男子▽優勝富山大学。本学選手 監督塚谷敏勝、主将東川伸一、マネージャー田中光夫、大久保憲郎、山下秋二、大塚憲次、南部栄司、石元克和、江上彰、久保久司、尾崎章一、富江修二、内藤利一、鈴木賢英、吉村寿治。△空手道▽優勝富山大学。本学選手 監督長谷川健二、主将石川八敬、マネージャー経塚力、水島洋一、坂本学、松尾寛士、福田幹夫、三井敏、立川恒雄、田中信太郎、平井俊和、浦川勝、山中悟、北川澄夫、酒井治、新門潔、吉田保、内田幸憲、藤田利光、小川義博、南田孝明、友安春生、本藤幸次郎、田村忠夫、奥村博夫、長坂保。△弓道▽優勝富山大学。本学選手 監督野村利生、主将高山昭三、マネージャー森田和夫、若林弘、道端信治、前田光雄、岩崎出、北川喜文、能村秀一、渡辺通夫、小島博保、井立広美、今西啓雄、岸本邦生、木下博喜、酒井秀義、石橋美平、井之本敏、西願幸彦、川真田信夫。△体操▽優勝金沢大学。本学選手 監督平井富弘、主将山形秀勝、マネージャー宮辺邦男、田中詰、吉田勉、森幸一、片山正徳、木元秀行、清水正男、守山謙三、林俊喜。△自動車▽優勝富山大学。本学選手 監督山本浩史、主将竹上富彦、マネージャー大場久男、増田啓一、菅井正博、高原雄二、宇佐見清、天野進、伊勢木敏、玉置洋治、二口青、米沢育、岸本信夫、石田良太郎。△ソフトボール▽女子▽優勝富山大学、△創作舞踊▽公開演技。

第二十二回（昭和四十五年度 当番大学 福井大学）△陸上競技▽男子▽優勝金沢大学。女子▽優勝金沢大学。本学選手（男子） 監督永田靖章、主将山中良夫、マネージャー桜井康治、斉藤喜八郎、赤松英行、宮川俊介、加藤

孝一、山中良夫、岡本幸樹、土田誠、蔭山満、西上英司、則武継雄、藤山徹、山本敏勝、関本雅章、久島浩、伊丹雅章、羽根田順、白崎繁、松田晃一、藤居重夫、小倉清実、滝波範男、浜谷正広、稻沢正富。△野球▽男子―優勝金沢大学。本学選手 主将水上誠一、マネージャー織田秀憲、勝田信、森勲、竹本俊治、林不夫、栄山勝己、木村慎一、高橋正基、町井定和、秋口良平、藤田学、山下美津雄、かん原信雄、上田泰雄、吉田一、佐藤卓夫。△庭球▽男子―優勝富山大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督藤宗寛治、主将田村豊太郎、マネージャー城下賢司、長川建夫、八賀隆、井上省一、中島康夫、鍋島高佳、坪田秀次、竹内正道、坂井祐一、小林芳郎。△硬式陸球▽男子―優勝富山大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督笠井助治、主将西高一、マネージャー小林秀行、宮崎雄一、粟田文久、喜多敏、小林敬三、山田国雄、堀田研二、吉村一良、北村孝幸、浅井陽一、松平久芳、小林博志、佐野薫、近藤睦雄、前川徹、浦田輝男、加藤博雄、藪下昭生、山内栄司、笠部誠二、山田敏博、白崎俊行、帰山政幸、山本健三、宮田守、田中仁郎、吉田文孝、倉本実、平木政実。△卓球▽男子―優勝金沢大学。女子―優勝富山大学。本学選手(男子) 主将島崎政信、マネージャー広瀬徹、松本芳孝、竹次一雄、室敏一、松島良宏、林茂、佐々木俊和、鈴木泰夫、服部政和、浅野紳、石田外茂二、須田典夫、吉永勉、若杉収。△バドミントン▽男子―優勝富山大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督沖武夫、主将辻教一、マネージャー玉木一好、梅本初男、佐々木修、大畑滋規、林博、峯哲郎、山口貞樹、山本真一郎。△バレーボール▽男子―優勝富山大学。女子―優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督七尾純児、コーチ青野和平、主将小倉久男、マネージャー山田玲子・斉藤幸子、千葉幸雄、平内正夫、竹内達男、但馬正一、浅野博、水口徹、田口秀範、山田信夫、高市純治、松岡好弘、小林俊夫、矢尾慎一、大橋良太、吉田英昭。△サッカー▽優勝富山大学。本学選手 監督桑原良一、主将石田隆史、マネージャー西山奈知恵・岡田保子、塚本幸雄、住田達映、上山新一、吉田英治、豊原信章、石橋博、後藤純一、遠山俊一、田村雅宣、田村実、木下良樹、石渡昭一、磯野喜代二、木田雅隆、目輝二、浜田和行、荒川享、宮川央、吉田光男。△ラグ

ビー・フットボール▽優勝福井大学 本学選手 監督大西青二、主将石井博志、マネージャー楨原隆、俊成明、林徹、青山源太郎、鈴木健、上坂幾夫、若松和雄、美谷洋、北川則道、上嶋徹、越田康雄、前川裕、南野康信、山口昭徳、岡本豊、赤塚正樹、山根明、尾本正和、久山讓。△剣道▽優勝富山大学。本学選手 監督増田憲二郎、主将横井利幸、マネージャー源吉嗣郎、佐々木満、荒木哲郎、水上邦夫、高垣敏一、龍野篤郎、筒田秀樹、丸山潔、寺田弓平、西村真一、栗原英次、織田実、光成継広、倉元建明、橋本栄二、藤井俊宏、石川雅己、大野邦夫、市橋孝夫。△柔道▽優勝金沢大学 本学選手 監督小島吉雄、コーチ仲村憲三、主将藤田吉広、マネージャー松永健治、坂本正、荒川昭彦、前田学、梅見元春、多賀正典、山本泰彦、吉田裕、五十嵐博行、田中清実、中村豊重、赤沢徳久、立平幸太郎、森秀夫、寺沢英仁、森下裕幸、国部雄三、諸隅武、川本昂。△バスケットボール▽男子▽優勝金沢大学。女子▽優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督兼コーチ仲村憲三、主将辻村正和、マネージャー朝日百百代、加藤真治、辻正人、馬場明義、津田裕治、竹中利夫、山形修、羽生哲雄、荒二井隆志、川西孝夫、三山信人、林徹、朝日輝幸。△水泳▽優勝金沢大学。本学選手 監督兼コーチ横山一郎、主将三田村裕右、マネージャー大沢寛、山瀬一郎、桑原敏憲、杉森英二、谷口幸一、松井晴義、安田弘道、吉川信男、能島昭夫、佐田治生、田村実、宇佐美光治、別島忍、堤照美、永田和雄、藤原行雄、山口健一、白川良三、出村慎一、酒井、吉田正博。△ヨット▽優勝金沢大学。本学選手 監督沖武夫、主将神藤俊郎、マネージャー杉本久寿雄、高田孝一、吉江重二、太田泰雄、村上清、徳田克巳、吉川博、植田祥夫、西田勉。△準硬式野球▽優勝金沢大学。本学選手 監督藤田哲男、コーチ清水道夫、主将福井洋介、マネージャー中村純一、吉田純一、河合政雄、北尾信雄、林孝治、山下研治、室田久則、吉田長栄、吉田道夫、尾関光良、恩地義範、小林茂樹、原田光章、六雄通、山本修、吾郷博美、大島省宗、徳森、西清一。△ハンドボール▽優勝富山大学。本学選手 監督塚谷敏勝、主将尾崎章一、東川伸一、久保孝司、南部栄司、石元克和、大塚憲次、富江修、鈴木賢英、小川朝久、塚原陽一、村田収、山地修己、居戸哲、土居秀夫、中川和博。△空手道▽優勝

福井大学。本学選手 主将経塚力、マネージャー小川武博、田中信太郎、水島洋一、北川澄夫、浦川勝、山中悟、酒井治、内田幸憲、藤田利光、谷寛、本藤幸次郎、南田孝明、友安春生、笈田和明、辻清貴、朝広良和、早山覚、山口重幸、前田輝夫。△弓道▽優勝金沢大学。本学選手 監督野村利生、主将小島博保、マネージャー木下博喜、岩崎出、森田和夫、道端信治、高山昭三、前田光雄、若林弘、酒井秀義、岸本邦夫、石橋美平、今西啓雄、谷山雅一、斉藤宗幸、勝山泰政、平井重臣、山田喜志夫、河村平右衛門、中村伝一郎、豊田正治。△体操▽優勝福井大学。本学選手(男子) 監督兼コーチ吉沢正尹、主将森幸一、マネージャー片山正徳、吉田勉、山形秀勝、官辺邦明、片山正徳、清水正男、守山謙三、木元秀行、斉藤雄一、仁藤裕二、谷川登、林俊喜、大塚憲次。△自動車フィギュアレース▽優勝富山大学。本学選手 コーチ玉置洋治、主将高原雄一、マネージャー岸本伸夫、坪川文夫、菅井正博、天野進、宇佐見清、笠島文夫、長谷川直三、玉村明、木下修一、五十嵐利規、阪本茂、上田彰、仙頭芳行。△創作舞踊▽公開演技。

第二十三回(昭和四十六年度 当番大学 金沢大学) △陸上競技▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―

優勝金沢大学。本学選手(男子) 監督永田靖章、主将藤山徹、マネージャー谷口礼子、山中良夫、岡本幸樹、山本敏勝、関本雅章、伊丹俊雄、稻沢正富、小倉清実、久島浩、斉藤博治、白崎繁、浜谷正宏、藤居重夫、尾山重雄、木村利和、高木秀明、野村純一。△野球▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 主将町井定和、マネージャー山下美津雄、藤田学、秋口良平、中東祥好、吉川勝博、荒川芳樹、久山讓、吉田敏郎、辻本正文、佐々木敏幸、上田豊、熊田将男、平田勉、佐野幸男、宮崎義幸、荒明義、西谷達也、加畑昌伸、水上誠一。△庭球▽男子―優勝富山大学、二位福井大学。女子―優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手(男子) 主将小林芳郎、マネージャー野間新市、田村豊太郎、井上省一、中島康夫、坪田秀次、田中耕一郎、竹内正道、坂井祐一、吉田徹、山田謙司、矢部清隆。△軟式庭球▽男子―優勝富山大学、二位福井大学。女子―優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手(男子) 監督豊島敏

雄、主将小林啓三、マネージャー山田国雄、西高一、小林秀行、喜多敏、白崎俊行、山田敏博、加藤博雄、浅井陽一、笹部誠一、北村孝幸、藪下昭生、山本健三、倉本実、吉田文孝、堀田研二、小林博志、宮田守、浦田輝男、松平久芳、早見清典、森下秀樹、深津博則、鈴木雅紀、内藤孝義、松浦佐太雄、山田哲士。△卓球▽男子▽優勝富山大学、三位福井大学。女子▽優勝福井大学。本学選手(男子) 主将松井吉夫、マネージャー天谷孝夫、石田外茂二、島崎政信、武田満喜、広瀬徹、岡崎正人、国友清、金井正夫、酒井敏昭、黒田啓一、吉永勉、若杉収、安部信一郎、加藤光則、須田典夫、橋詰徳見、藤沢正明、高橋、松田隆。△バドミントン▽男子▽優勝金沢大学、三位福井大学。女子▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手(男子) 監督沖武夫、主将大畑滋規、マネージャー山口貞樹、辻教一、林博、峰哲郎、津野孝、山本真一郎、北川直人、尾山清光、松本幸三、岩本博文、梅村和彦、松村康治、有馬秀明。△バレーボール▽男子▽優勝金沢大学、三位福井大学。女子▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手(男子) 監督小倉久男、主将竹内達雄、マネージャー水口徹、但馬正一、田口秀範、矢尾慎一、山田信夫、小林俊夫、松岡好弘、川端貫一、南田義美、新富士夫、木元義明、山内敏昭、上野昌定。△サッカー▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 監督桑原良一、コーチ荒井彦左衛門、主将目輝二、マネージャー岡田保子・西山奈知恵、石田隆史、石橋博、後藤純一、田村雅宣、遠山俊一、豊浦信障、木田雅隆、浜田和行、磯野喜代二、吉田光男、荒川亨、橋本、楠本、加藤、永雄、奥村、金牧、山田、山根。△ラグビー・フットボール▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 監督大西清治、主将美谷洋、マネージャー海道広子、青川源太郎、上坂幾夫、金木健、楨原隆、山口昭徳、若松和雄、南野康信、上島徹、越田康雄、前川裕、井川則道、岡本豊、尾本正和、内藤正、山根明、大森哲実、奥野勝己、原田時忠、前田利彦。△剣道▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 監督増田憲二郎、主将倉元建明、マネージャー藤井俊宏、横井利幸、筒田秀樹、源吉嗣郎、西村真一、栗原英次、石川雅己、橋本栄二、市橋孝夫、大野邦夫、岡田陽一、鈴木裕、長谷川芳之、榊原達夫、土屋望、井川彰久、多田安一、中村裕也、伊藤昭彦。△柔道▽優勝富山

大学、三位福井大学。本学選手 監督小島吉雄、コーチ仲村憲三、主将山本泰章、マネージャー田中清実、藤田吉
 広、松永健治、吉田裕、五十嵐博行、立平幸太郎、中村豊重、森秀夫、国部雄三、諸隈武、辻衷正則、大沢竜太郎、
 横井正夫、西尾幸博、桜井博、駒井与四和、岩田一夫、高木亮。△バスケットボール▽男子▽優勝金沢大学、二位福
 井大学。女子▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手(男子) 監督仲村憲三、主将羽生哲雄、マネージャー朝日
 百百代、辻村正和、山形修、荒二井隆志、三山信人、山岸俊一、蟻塚茂樹、安田英司、豊島泰雄、馬場明義、川西孝
 夫、南由岐夫、辻孝元、堀江博澄、清水義久、高橋弘。△水泳▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 監督横山
 一郎、主将藤原行雄、マネージャー堤照実、中西敏孝、谷口和幸、永井和寛、中島信行、永田和雄、別島忍、山口健
 一、酒井雅夫、吉田正博、武良収一、出村慎一、白川良三、大沢寛、三田村裕祐、佐田治生、吉川信男、能島昭夫、
 安田弘道。△ヨット▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 監督高田孝一、主将吉川博、マネージャー徳田克
 己、村上清、杉本久寿雄、森永益男、安福貞雄、西田勉、植田祥夫、神藤俊郎、木村康二、吉田正真己、西谷昭比
 古、新田真弘、米田弘、片岡道雄、石黒孝男、上田敏弘、小川弘、米沢元成、野中道朗。△準硬式野球▽優勝福井大
 学。本学選手 主将六雄通、マネージャー恩地義範、福井洋介、吉田道夫、吉田長栄、中村純一、室田久則、小林茂
 樹、原田光章、山本修、尾関光良、吾郷博美、千秋恒夫、玉村幸雄、藤原康雄、岡本繁夫、石田建夫、平野敏、大谷光雄。
 △ハンドボール▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 主将小川朝久、マネージャー村沢栄子、尾崎章一、富江
 修、鈴木賢英、居戸哲、塚原陽一、土井秀夫、中川和博、保地洋志、村田収、山地修己、稲岡辰夫、杉本安弘、田村
 健、柳原幸夫。△空手道▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 監督長谷川健二、コーチ山中悟、主将酒井治、マ
 ネージャー南田孝明・友安春生・荒尾るみ子、内田幸憲、小川武博、藤田利光、谷覚、本藤幸次郎、法元健詞、山口
 重幸、笈田和明、早山寛、辻清貴、朝広良和、織田直文、松尾晶、藤井慶生、沢田徹郎、沢田益和、中村雅夫、猪田
 博一、坂本光康、渡辺勝幸。△弓道▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手(男子) 監督川上英夫、主将谷山雅

一、マネージャー勝山泰政、中村伝一郎、平井重臣、林英雄、豊田政治、斉藤宗幸、西願直樹、田谷孝次、東弘之、鈴木明人、中松雄、酒井秀行、西川慈海、恩地彦雄、小島博保、今西啓雄、木下博喜、酒井秀義。△体操▽優勝福井大学。本学選手(男子) 監督吉沢正尹、コーチ森幸一、主将片山正徳、マネージャー清水正男、森幸一、守山謙三、木元秀行、斉藤雄一、仁藤裕二、谷川登、上口孝之、宮田裕士、三屋俊一、森茂夫、吉川淳、宮辺邦明。△自動車▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 主将出川美幸、久保田康弘、宮崎孝司、下内孝博、笠島文夫、吉村優、宇佐美清、阪本茂、種田拓夫、上田彰、安達秋雄、板野隆、下村真素美、谷口卓司。△創作舞踊▽公開演技。

第二十四回(昭和四十七年度 当番大学 富山大学) △陸上競技▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手(男子) 監督永井靖章、主将白崎繁、マネージャー谷口礼子、藤山徹、山本敏勝、関本雅章、伊丹俊雄、久島浩、浜谷正広、藤居重夫、尾山重雄、木村利和、城山正人、高木秀明、芦田義和、前田章広。△野球▽優勝富山大学、二位福井大学。本学選手 監督兼主将久山讓、マネージャー吉田敏郎、佐々木敏幸、辻本文、上田豊、宮崎義幸、佐野幸男、鈴木新次郎、若狭広、荒明義、熊田将男、谷野馨、加畑昌伸、西谷達也、藤原康雄、永井龍三、松村良行、藤田学、秋口良平、山下美津雄。△庭球▽男子―優勝富山大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手(男子) 監督岩沢宏 主将坂井祐一、マネージャー吉田徹、堀田秀次、小林芳郎、竹内正道、田中耕市郎、野間新一、富岡正裕、矢部清隆、飛田正二、打越伸一、加藤三省、樫山節夫、栗本健二。△軟式庭球▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手(男子) 主将南川勝矢、マネージャー小坂紀之、沢井利樹、津川忠義、堀雅行、村田英輔、石浜司、大科守雄、奥村彰英、山下修平、勝山隆、谷村喜英、細野祐治、吉岡樹朗、杉浦俊秀、寺口敦、下崎克行、小林康宣、大野義弘、松下武、木南滋、前田正弘、寺田孝則、足立隆文、高木実、市原誠治、柿沼幸雄、中島勇雄、本多幸夫、山下順司。△卓球▽男子―優勝富山大学、三位福井大学。女子―優勝福井大学。本学選手(男子) 監督岡田賢治、主将安

部信一郎、マネージャー藤沢正明、若杉牧、北村和憲、松井吉夫、加藤光則、吉永勉、高橋穂積、天谷孝夫、木野欽
 司、国友清、仲野豊、金井正夫、水野健一郎、須田典夫、今井静雄、竹内登、西村敦司、橋詰徳見、伊藤。△パドミ
 ントン▽男子―優勝富山大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手(男子) 監督沖武
 夫、主将山本真一郎、マネージャー津野孝、大畑滋規、林博、岩本博文、梅村和彦、尾山清光、北川直人、松本幸
 三、浅沢英夫、有馬秀明、佐々木義一、松村康治、荒井藤志美、谷口治光、吉田悦大。△バレーボール▽男子―優勝
 富山大学、三位福井大学。女子―優勝金沢大学、二位福井大学 本学選手(男子) 主将矢尾慎一、マネージャー南
 田義美、川端貫一、山内敏昭、上山証史、森下正之、田中進、池本渡、池田淳雄、深川忠志、田川雅彦、新富富士
 夫。△サッカー▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 監督荒井彦左衛門、主将吉田光男、マネージャー岡田保
 子・西山奈知恵、後藤純一、橋本康裕、目輝二、伊藤誠一、木田雅隆、奥村辰幸、礎野喜代二、壁谷隆道、浜田和
 行、金牧一夫、橋本久志、荒川亨、元野宏、加藤雅之、山田日出世、楠本恵一、山根幸博、永雄隆、高村吉養。△ラ
 グビー・フットボール▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 監督大西青二、主将越田康雄、マネージャー海道
 広子、美谷洋、山口昭徳、北川則道、若松和雄、南野康信、尾本正和、山根明、内藤正、岡本豊、奥野勝己、原田時
 忠、前田利修、大森哲実、西田茂、中辻彰、越田茂樹、佐生喜太郎、西山英生、小野博史。△剣道▽優勝富山大学、
 三位福井大学。本学選手 監督増田憲二郎、主将市橋孝夫、マネージャー榎原達夫、丸尾繁、大野邦夫、中村裕也、
 鈴木裕、長谷川芳之、土屋望、井川彰久、多田安一、田中美紀雄、水島伴美、北村静司、大村信之、向瀬実治、加納
 克巳、幸松秀雄、加藤省三、田辺利之、小堀洋。△柔道▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 監督小島吉雄、
 主将山本泰章、マネージャー田中清実、五十嵐博行、立平幸太郎、赤沢徳久、諸隈武、大沢竜太郎、駒井与四和、桜
 井博、斉藤正信、岩田一夫、吉田裕、中村豊重、森秀夫、辻裏正則、西尾幸博、横井正夫、中村智徳、野村貞義、小
 原敬一。△バスケットボール▽男子―優勝金沢大学、二位福井大学。女子―優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手

(男子) 監督仲村憲三、主将南由岐夫、マネージャー清水義久、羽生哲雄、三山信人、荒二井隆志、山岸俊一、蟻塚茂樹、堀江博澄、中島邦、安田英司、吉田幸男、山原謙治、安部隆信、阿字地順一、谷口俊一、中田敬一郎、永谷彰啓、野田真一郎、納谷通弘。△水泳▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 主将酒井雅夫、マネージャー出村慎一、藤原行雄、堤照美、別島忍、吉田正博、武長収二、中西敏孝、谷口和幸、広芝伸治、山口健一、永田和雄、白川良三、永井和寛、中島信行。△ヨット▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 監督沖武夫、主将新田真弘、マネージャー片岡道雄、吉川博、植田祥夫、徳田克巳、米田博、西谷昭比古、木林康仁、石黒孝男、野中通朗、上田敏弘、小川弘、本多秀夫、清水則明、亀田孝男、三谷郁二郎、松尾高一、八尾憲一、伊藤美鈴。△準硬式野球▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 主将吾郷博美、マネージャー千秋恒夫、六雄通、原田光章、尾関光良、小林茂樹、恩地義範、山本修、玉村幸雄、大谷光雄、石田建夫、高田博文、岡本繁夫、上塚直樹、片山久一、吉田清、中川晶展、野路正、片山亮、平野。△ハンドボール▽優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 主将保地洋志、マネージャー村沢栄子、小川朝久、居戸哲、土井秀夫、村田収、杉本安弘、田村健、黒田義治、山口明、鈴木賢英、塚原陽一、稻岡辰夫、武川富彦、柳原幸夫、源野修一。△空手道▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 監督長谷川健二、主将本藤幸次郎、マネージャー友安春夫、織田直文、猪田博一、沢田益和、中村雅夫、諸野幸雄、市川嘉重、南田考明、山口重幸、藤井慶生、松尾晶、坂本光康、松尾博、園田茂。△弓道▽男子▽優勝富山大学、三位福井大学。女子▽優勝福井大学。本学選手(男子) 監督川上英雄、主将西瀬直樹、マネージャー東弘之、谷山雅一、豊田正治、平井重臣、中村伝一郎、鈴木明人、酒井秀行、田谷孝次、恩地彦雄、山形徳精、横山義博、武内誠仁、池田格造、広部利充、渡部已知義、吉野元康、宮永憲明、新出栄一、作田昌夫。△体操▽男子▽優勝福井大学。女子▽オープン種目。本学選手(男子) 監督古沢正尹、主将仁藤裕二、マネージャー片山秀喜、片山正徳、中山讓三、宮田裕士、森茂夫、吉川淳、仁賀三喜夫、田部兼功、清水正男、木元秀行、三尾俊一、横山敏、北浦弘治、三浦英男。△自動車▽

優勝富山大学、三位福井大学。本学選手 監督山本浩史、主将下内孝博、マネージャー宮崎孝司、久保田康弘、渡辺一勝幸、野路竜己、深津友之、斉藤敏光、種田拓夫、安達秋夫、下村真素美、堀野裕一郎、松浦裕一、中村達男、小林哲也、福田治男、井奥賢介、阪本茂、上田彰、板野隆、谷口卓司。△創作舞踊▽公開演技。△少林寺拳法▽公開演技。本学選手 主将福島英二、マネージャー安達重昭、滝川博、木村稔、伊藤由紀弘、大野敏夫、加藤勝則、北川克彦、子安明真、内田忠行、井上稔、藤堂永一、田地昌之、平田貫一郎。

第二十五回(昭和四十八年度 当番大学 福井大学) △陸上競技▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―

優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手(男子) 監督永田靖章、主将高木秀明、マネージャー谷口礼子、伊丹俊雄、久島浩、白崎繁、藤居重夫、尾山重夫、木村利和、城山正人、森下国明、芦田義和、土田和人、前田章広、葉師誠、横山勉、北東真、小林茂樹、為国孝一、土山弘和、西田実夫、棟朝秀一、谷川秀臣、鈴木宏和。△野球▽優勝福井大学。本学選手 監督久山謙、主将宮崎義幸、マネージャー山本かよ子、佐野幸男、熊田将男、鈴木新次郎、若狭広、荒明義、谷野馨、西谷達也、藤原康雄、平田勉、加畑昌伸、松村良行、山下正孝、川村一治、高橋敏明、谷口理喜矢、田中典夫、久保嘉彦、藤井亨、越田高志。△庭球▽男子―優勝金沢大学、二位福井大学。女子―優勝富山大学、二位福井大学。本学選手(男子) 監督岩沢宏、主将加藤三省、マネージャー樫山節夫、坂井祐一、吉田徹、矢部清隆、打越伸一、飛田正士、加藤三省、中川隆司、三浦英昭、田中利幸、栗本健二、吉田龍志。△軟式庭球▽男子―優勝金沢大学、三位福井大学。女子―優勝富山大学、三位福井大学。本学選手(男子) 主将内藤孝義、マネージャー伊藤隆司、小林博志、桐山和彦、堀田研二、浦田輝男、松平久芳、松浦佐太雄、早見清則、福島清司、伊藤隆司、河村茂、大崎辰己、浅野治朗、冲博二、永井幸弘、山本隆明、木下安紀男、藪田誠、田松義弘、仁張直敏、中谷敏治、高野米蔵、清水克哉、鈴木雅紀。△卓球▽男子―優勝富山大学、二位福井大学。女子―優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手(男子) 主将木野欽司、マネージャー佐藤充徳、安部信一郎、梅景義高、奥原正博、加藤光則、北村

和憲、須田典夫、橋詰徳見、藤沢正明、浅井清一、高橋穂積、仲野豊、水野健二郎、伊藤禎朗、今井静雄、鍛冶昌寛、竹内登、中野強、藤重信行。△バドミントン▽男子▽優勝金沢大学、二位福井大学。女子▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手(男子) 主将有馬秀明、マネージャー松村康治、山本真一郎、津野孝、浅沢英夫、佐々木義一、荒井藤志美、谷口治光、吉田悦大、角谷正樹、苗村清文、水島保、梅村和彦、山口貞樹。△バレーボール▽男子▽優勝金沢大学、二位福井大学。女子▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手(男子) 監督川端貫一、主将山内敏昭、マネージャー山崎伸也、上山証央、森下正之、山崎隆夫、池本渡、岩本裕昭、池田淳雄、河原健、村中一雅、梅田精一、井美敏彦、宮崎晃、山瀬祐治。△サッカー▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 監督荒井彦左エ門、主将奥村辰幸、マネージャー前田信子・小川恵子、吉田光男、荒川亨、楠本恵一、伊藤誠一、金牧一夫、壁谷隆道、元野宏、山田日出世、山根幸博、織田栄偉、北畑修、田海満、高村吉養、伊部敏彦、大川邦夫、織田誠、金谷内敏朗、坂井優、清水友雄、関谷君和、野村操、畠中英明。△ラグビー・フットボール▽優勝金沢大学、二位福井大学。本学選手 監督大西青二、主将尾本正和、マネージャー大森哲実、岡本豊、内藤正、山根明、奥野勝己、原田時忠、前田利修、西田茂、小野博史、越田茂樹、仲辻彰、久惠正一、山本昌章、若林伸一郎。△剣道▽優勝富山大学、二位福井大学。本学選手(男子) 監督増田憲二郎、主将北村静司、マネージャー水嶋伴美、井川彰久、市橋孝夫、大野邦夫、多田安一、土屋望、中村裕也、橋本栄二、長谷川芳之、井藤龍男、井上弘之、加納克己、大村信之、松浦啓裕、向瀬実治、和田保男、加藤省三、小堀洋、田辺利之。△柔道▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 監督仲村憲三、主将中村智徳、マネージャー斉藤正信、諸隈武、辻裏正則、西尾幸博、大沢竜太郎、横井正夫、桜井博、岩田一夫、水田祐輔、野村貞義、小原敬一。△バスケットボール▽男子▽優勝金沢大学、二位福井大学。女子▽優勝富山大学、二位福井大学。本学選手(男子) 監督仲村憲三、主将山岸俊一、マネージャー清水義久、南由岐夫、三山信人、中島邦、堀江博澄、安田英司、山原謙治、吉田幸男、五十嵐巳代治、萩原真弥、高木成光、谷口隆英、西尾

成則、福田賀文、真鍋豊。△水泳▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 主将永井和寛、マネージャー中島信行、田辺政博、浦井直樹、広芝伸治、鶴飼智昭、石井宏明、中西敏孝、谷口和幸、酒井雅夫、出村慎一、吉田正博、武良収二、白川良三。△ヨット▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 主将上田敏弘、マネージャー石黒孝男、吉川博、徳田克巳、神藤俊郎、木林康仁、吉田貞巳、西谷昭比古、新田真弘、米田博、片岡道雄、小川弘、野中道郎、亀田孝男、小林政幸、清水則明、西出久夫、橋本稔、本多秀夫、松尾高一。△準硬式野球▽優勝福井大学。本学選手 主将大谷光雄、マネージャー高田博文、吾郷博美、玉村幸雄、千秋恒夫、岡本繁夫、上塚直樹、吉田清、吉本克巳、嵯峨博、小川達夫、片山亮、野路正、中野、笠島良一、西谷哲郎、大森茂男、佐々木康人、橋本繁昭。△ハンドボール▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手 監督塚谷敏勝、主将杉本安弘、マネージャー村沢栄子・盛田美紀、保地洋志、稲岡辰夫、武川富彦、田村健、黒田義治、源野修一、山口明、日芳達也、石川昭、吉村典祐、西田光一、牧野克俊、向井英美夫、中嶋正之。△空手道▽優勝福井大学。本学選手 監督長谷川健二、コーチ南田孝明、主将織田直文、マネージャー友安春生、藤井慶生、諸野幸雄、沢田益和、坂本光康、松尾晶、松尾博、市川嘉重、猪田博一、園田茂、中村雅夫、滝口治和、沢田崇、中川泰宏、西村裕司、平松寿和、水谷武則、吉原武巳、喜多只勝、石森利行、井上猛、今井健善、武内一郎、香西卓。△弓道▽男子▽優勝富山大学、三位福井大学。女子▽優勝金沢大学、三位福井大学。本学選手(男子) 監督川上英男、主将宮永憲明、マネージャー横山義博、東弘之、鈴木明人、酒井秀行、西願直樹、恩地彦雄、山形徳精、北原春生、池田格造、定祐寿美男、広部利充、渡辺己知義、新出栄一、作田昌夫、岡田茂久、藤本幸弘、小山尚一、山本八郎、芝広之。△体操▽男子▽優勝福井大学。女子▽優勝福井大学。本学選手(男子) 監督吉沢正尹、主将富田裕士、マネージャー森茂夫、片山秀喜、仁藤裕二、三屋俊一、横山巖、吉川淳、田部兼功、仁賀三喜夫、三浦英男、神田勉、土井充、友安大生。△自動車▽優勝富山大学、二位福井大学。本学選手 コーチ笠島文夫、主将小林哲也、久保田康弘、二村兼夫、沢辺繁克、深津友之、野路龍美、井奥賢介、谷口卓

司、藤原宏行、田中又治、野路昌広、宮崎孝司。△創作舞踊▽公開演技。△少林寺拳法▽公開演技。本学選手 主将 藤堂永一、マネージャー内田忠行、福島英二、服部清美、滝川博、安達重昭、子安明美、大野敏夫、木村稔、平田貴一郎、朝多伸介、秋元武夫、辰巳健、藤井則次、村岡信吾、横井秀樹、川崎清、須戸文夫、永井正直、野瀬欣弘、藤井清美。

北陸三県大学学生芸術交歓会

昭和二十六年に金沢大学の主催で福井大学、富山大学、金沢大学の三大学による第一回学生交歓芸術祭が開催され、翌二十七年十一月六日には「北陸三県大学の芸術を探究する学生の研究発表と相互の親睦を図り地方文化に貢献する」ことを目的として「北陸三県大学学生芸術交歓会」が結成された。交歓会は北陸三県各大学における美術、音楽、文化、演劇等を研究する学生の文化団体をもって組織され、毎年一回定期的に輪番制による当番大学において芸術祭が開催されることになった。

本会の研究部門は文学、絵画、彫刻、工芸、デザイン、書道、写真、洋楽、合唱、軽音楽、ギター、マンドリン、邦楽、演劇、放送劇、茶道、映画などで、当該地方の大学のほか、信州大学、新潟大学の適当な研究部門もこの芸術祭に賛助し、発表することができるとされた。

第一回（昭和二十六年度 当番大学 金沢大学） 参加大学―福井大学、富山大学、金沢大学。第二回（昭和二十七年 当番大学 富山大学） 参加大学―福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学。第三回（昭和二十八年 当番大学 福井大学） 参加大学―福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学。第四回（昭和二十九年 当番大学 金沢大学） 参加大学―福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大

学、北陸学院短期大学。第五回（昭和三十年度 当番大学 富山大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大
 学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学。第六回（昭和三十一年度 当番大学 福井大学）
 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学。第七回（昭
 和三十二年 当番大学 金沢大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工
 芸大学、北陸学院短期大学。第八回（昭和三十三年度 当番大学 富山大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金
 沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学。第九回（昭和三十四年度 当番大学 福井大
 学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学。第十
 回（昭和三十五年度 当番大学 金沢大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢
 美術工芸大学、北陸学院短期大学。第十一回（昭和三十六年度 当番大学 富山大学） 参加大学—福井大学、富山
 大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学。第十二回（昭和三十七年度 当番大学
 福井大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大
 学。第十三回（昭和三十八年度 当番大学 金沢大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期
 大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学。第十四回（昭和三十九年度 当番大学 富山大学） 参加大学—福井
 大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学。第十五回（昭和四十年 当番
 大学 福井大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短
 期大学、大谷技術短期大学、富山女子短期大学。第十六回（昭和四十一年度 当番大学 金沢大学） 参加大学—福
 井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学、大谷技術短期大学、富山
 女子短期大学。第十七回（昭和四十二年 当番大学 富山大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金
 沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学、大谷技術短期大学、富山女子短期大学、福井女子短期大

学、金沢工業大学、福井工業大学、仁愛女子短期大学、金沢経済大学。第十八回（昭和四十三年度 当番大学 福井大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学、大谷技術短期大学、富山女子短期大学、福井女子短期大学、金沢工業大学、福井工業大学、仁愛女子短期大学、金沢経済大学。第十九回（昭和四十四年度 当番大学 金沢大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学、大谷技術短期大学、富山女子短期大学、福井女子短期大学、金沢工業大学、仁愛女子短期大学、金沢経済大学。第二十回（昭和四十五年度 当番大学 富山大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学、大谷技術短期大学、富山女子短期大学、福井女子短期大学、金沢工業大学、仁愛女子短期大学、金沢経済大学。第二十一回（昭和四十六年度 当番大学 福井大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学、大谷技術短期大学、富山女子短期大学、福井女子短期大学、金沢工業大学、福井工業大学、仁愛女子短期大学、金沢経済大学。第二十二回（昭和四十七年度 当番大学 金沢大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学、大谷技術短期大学、富山女子短期大学、福井女子短期大学、金沢工業大学、福井工業大学、仁愛女子短期大学、金沢経済大学。第二十三回（昭和四十八年度 当番大学 富山大学） 参加大学—福井大学、富山大学、金沢大学、金沢女子短期大学、金沢美術工芸大学、北陸学院短期大学、大谷技術短期大学、富山女子短期大学、福井女子短期大学、金沢工業大学、福井工業大学、仁愛女子短期大学、金沢経済大学。

北陸三県大学学生芸術交歓会規約

（昭和四十三年六月二十八日現在）

第一章 総 則

第一条 本会は北陸三県大学学生芸術交歓会と称し、北陸三県各大学における美術・音楽・文学・演劇等を研究す

る学生の文化団体を以って組織する。

第二条 本会は北陸三県大学の芸術を探究する学生の研究発表と相互の親睦を図り地方文化に貢献することを目的とする。

第三条 本会は第二条の目的を達成するため毎年一回定期的に芸術祭を開催し作品の交歓研究発表を行う。

第四条 芸術祭は毎年各県輪番制により当番大学所在地にて開催する。

第五条 本会の事務局は第四条の規定による当番大学に置くものとする。

第二章 役員及び運営

第六条 本会に参与若干名、委員若干名を置く。参与は各大学職員中より、委員は各大学学生中より選出する。参与及び委員の任期は一年とする。

第七条 本会は第二条の目的を達成するため参与及び委員によって構成する運営委員会を設ける。

第八条 本会の事務を円滑ならしめるため事務局に理事長一名、理事若干名をおく。理事長は事務局所在大学の参与中より委嘱し、理事は各大学学生中より推薦する。

第九条 本会に顧問若干名を置く。顧問は運営委員会において推薦する。

第十条 本会の年度は四月一日より翌年末日までとする。

第三章 芸術祭

第十一条 芸術祭に参加する各部門について細目は運営委員会において決定する。

第十二条 芸術祭に参加する各大学は費用の一部を夫々分担するものとする。分担金の額は運営委員会において決定する。

附 則 一 本会規約の細則は別に定める。二 本会規約の改正及び規約運営の臨時変更は総て運営委員会にお

いて行う。三 本会規約は昭和二十七年十一月六日より実施する。

細 則

一 本会の研究部門は文学、絵画、彫刻、工芸、デザイン、書道、写真、洋楽、合唱、軽音楽、ギター、マンドリン、邦楽、演劇、放送劇、茶道、映画とする。

二 信州大学、新潟大学の適当な研究部門はこの芸術祭に賛助し発表することが出来る。

三 運営委員会は各大学選出の参与二名及び各大学の自治会代表一名・各部門の代表一名よりなる委員を以て組織する。

四 運営委員会はその都度必要ある場合に理事長がこれを招集する。

五 運営委員会はその都度議長一名を互選し議長は書記を指名する。

六 運営委員会は構成人員（代理及び委任を含む）の三分の二以上の出席により成立し、出席人員の過半数をもって議決する。

七 理事長は運営委員会の決定に基いて本会の事務を管理し、理事はその事務を処理する。

第三編

福井大学工業会と卒業生の社会活動

第一部 福井大学工業会の変遷

福井高工同窓会設立 昭和十三年三月六日「会員相互の親睦を図り母校との連絡を密接ならしむるを以て目的とし、併せて工業の進歩発展に資す」として「福井高等工業学校同窓会」が設立された。これまで本校の卒業生は校友会の終身会員となり、毎年一回会員名簿と校友会誌の配布をうけて同窓の動静や母校の消息を窺っていた。

同窓会の設立は、昭和十二年九月に前田校長が逝去し、在福の卒業生有志二十数名が母校図書室に集まり、卒業生としてとるべき弔慰方法について協議を行なったが、同窓会がないため種々の困難に直面し、それがきっかけとなって具体化した。同年十月には同窓会設立に関する第一回の協議会が開かれ、竹内隆、伊藤義明、竹内久正、武田文之助、山田治之助、池田秀二、三上豊、高橋亨、吉田富男、中村英二、中島与作、荒井信一、中野重満、里内真一郎、藤田正らが出席、中野重満が会則を起草し、その他の出席者がそれぞれ分担して新任の太田代校長や母校教官の諒解を得ることになった。

会則は太田代校長の歓迎会のあと在福の卒業生四十名によって草案審議が行なわれ、一部を修正して学校側に提出し、また東京、名古屋、富山、金沢、京都、大阪、和歌山、神戸、呉、佐賀など卒業生が会を結成している地方の有志にも送附して意見が求められた。草案は各地の意見にもとづきさらに検討を加えて決定され、十二月十八日全卒業生に郵送して賛否を問うところとなった。回答は賛成七百八十五名、不賛成九名で、ここにおいて準備委員は同窓会設立陳情書を作成して校長にその旨を申出で、昭和十三年二月十七日の教官会議で同窓会設立が認められることになった。翌十八日には校友会役員会が開かれ、ここでも満場一致で支持された。

同窓会創立総会は第十二回卒業式に先立ち、三月六日太田代校長の臨席を得て開催された。総会は竹内隆の司会の

もと国歌奉唱、宮城遙拜、竹内久正の開会の辞と経過報告があり、伊藤義朗を仮議長に選出して議事に入り、会則審議、役員選挙を行ない、つづいて会長の挨拶、校歌合唱、竹内隆の開会の辞があつて閉会した。第一回役員会は三月二十日に開かれ、予算、事業内容など具体案が協議された。

役員は、会長に太田代校長を推戴し、理事長に伊藤義朗を選出、このほか評議員に母校の坂部教授、金尾教授、佐藤教授、若杉教授、宮岡教授、新井教授、藤田生徒主事、織田書記、中谷書記が委嘱された。

福井高等工業学校同窓会々々則

(昭和十七年五月三日改正)

第一章 総 則

第一条 本会は福井高等工業学校同窓会と称す。

第二条 本会は会員相互の親睦を図り母校との連絡を密接ならしむるを以て目的とし併せて工業の進歩発展に資す。

第三条 本会は本部を福井高等工業学校内に置く。尙便宜の地に支部を設くることを得。

第四条 本会々々則の改正は総会の決議によるものとす。

第五条 本会則施行に要する細則は役員会の決議により定む。

第二章 会 員

第六条 本会の会員は左の三種とす。一、正会員 イ、福井高等工業学校卒業生及選科修了生。ロ、福井高等工業学校に一カ年以上在学せるもの及工業技術員養成科修了生にして役員会の承認を経たるもの。二、特別会員 福井高等工業学校職員。三、名誉会員 特に本会に功勞あるものにして役員会に於て承認を経たるもの。

第三章 役 員

第七条 本会に左の役員を置く。理事長 一名。理事 若干名(内若干名を常任理事とす)。監事 三名。

第八條 本会に顧問及評議員を置く。顧問には福井高等工業学校長を推戴し評議員は総会に於て特別会員中より推薦す。

第九條 理事及監事は総会に於て正会員中より選挙し理事長及常任理事は理事の互選によるものとす。

第十條 役員任期は二カ年とす但し重任を妨げず。

第十一條 役員に欠員を生じたるときは理事会に詢りて理事長之を補充す但し補欠就任者の任期は前任者の残期限とす。

第十二條 本会役員事務分掌を定むること左の如し。理事長は会務を総理す。理事は会務を処理し常任理事は事務を分掌して常時その任にあたる。監事は会務を監査す。

第四章 会 議

第十三條 會議を分ちて總會、役員会及理事会の三とす。

第十四條 總會は毎年四月に之を開催し會計及会務の報告役員の改選其他重要事項を議定するものとす。但し理事長は必要に応じ臨時總會を招集することを得。

第十五條 役員会は必要に応じ開催し重要事項を審議す。

第十六條 理事会は随時開催し会務を処理す。

第十七條 總會は会員総数の十分の一以上の出席を以て成立し決議は出席者の三分の二以上の同意を要す。

第十八條 役員会及理事会の決議は当該役員総数の半数以上出席し出席者の三分の二以上の同意を要す。

第十九條 會議に出席し能はざる者にして託送又は委任により意思表示をなしたるときは之を出席者と見做す。但し委任による場合は委任状を要す。

第五章 事 業

第二十条 本会は其の目的を達成せんが為に左の事業を行ふ。一、会誌及会員名簿の刊行。二、その他必要なる事業。

第六章 会 計

第二十一条 本会は正会員の入会金及理事会の承認を経たる其の他の収入を以て基本金とす。

第二十二条 本会經常費は正会員の会費及基本金より生ずる利子及其他の収入を以て之に充つ。

第二十三条 基本金は総会、歳計剰余金は役員の承認を経るにあらざれば之を使用することを得ず。

第二十四条 正会員の入会金は金五円とす。

第二十五条 正会員の会費は年二円とす。但し一時金三十円前納したるときは爾後の会費を徴収せず。

第二十六条 会計年度は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。

第七章 支 部

第二十七条 第三条により支部を設置せんとする場合は理事会の承認を要す。

第二十八条 支部は本部との連絡を計り本会の主旨を達成するを以て主たる目的とす。

第二十九条 支部には支部長一名、幹事若干名を置く。

第三十条 支部の経費は各支部の負担とす。但し本部は支部に対し補助金として当該支部会員が納入したる会費の四分の一以内を各年度毎に交付するものとす。

第三十一条 支部は本部よりの補助金の使途に対し本部に報告するものとする。

福井工業会に改組 昭和二十四年は福井工業専門学校創立二十五周年にあたり、同窓会では十月一日母校の創立記念式典を機に総会を開催、会の名称を「福井工業会」と改め、再び結束を固めて新発足することになった。

当時、同窓は約四千名を数えたが、戦争から学校の戦災、大地震、水害等相ついで激しい時代の変転に遭い、その

半数は住所もつかめない状態であった。このため工業会ではとりあえず各科ごとに同志相より相伝えて連絡先を確かめ合うとともに、関西、関東、中京に工業会の支部を設け、名簿の作成、会報の発行を行なった。福井工業会はのち「福井大学工業会」と再び改称された。

福井大学工業会々則 (抄)

(昭和三十三年現在)

第一条 本会は福井大学工業会と称する。

第三条 本会は本部を福井大学工学部内に置く。尚便宜の地に支部を設けることができる。

第六条 本会の会員はつぎの三種とする。一 正会員 (イ)福井大学工学部卒業生。(ロ)福井高等工業学校、福井工業専門学校卒業生並びに別科、選科修了生および工業技術員養成科修了生。二 特別会員 福井大学工学部教職員および理事会で推薦したもの。三 名誉会員 特に本会に功労あるもので役員会で推薦したもの。

第十七条 総会は正会員五〇名以上の出席を以て成立し、決議は出席者の三分の二以上の同意を要する。

第十八条 役員会および理事会の決議は当該役員総数の三分の一以上出席し出席者の三分の二以上の同意を要する

第二十四条 正会員の入会金は金二〇〇円とする。

第二十五条 正会員の会費は年二〇〇円の割とし五カ年分を一期として納入するものとする、ただし十五カ年分を前納した場合は爾後の会費を徴収しない。

母校復興資金募金活動 母校の戦災復興については同窓会としてもすでに七、八十万円を寄附してきたが、昭和二十四年の福井大学工学部設置に伴って新たに百五十万円を同窓会で負担することになり、工業会では全国各地に四十名の役員を置いて連絡情報交換にのりだすことになった。募金額は一応の標準として、昭和六年までの卒業生が四千円、十一年までが三千円、十六年までが二千元、十七年以降が一千元と五年ごとにワクが定められた。

募金状況は昭和三十三年現在で百三十万円に達し、目標額にもう一息ということ、再び寄附についてのお願ひ文

が出された。

母校復興資金の寄附についてお願い 御承知の通り母校は戦災、震災、水害と重なる大災害を蒙り、その殆んどを烏有に帰しましたが、爾來苦しいイバラの道を辿りながらも再建に全力を注ぎまして、年々完成に近づいておりますことは衷心喜びに堪えないところであります。さりながら設備内容においては基準に程遠いものがあり、大学当局からも再三苦しい事情を述べられて協力方を依頼されております。本会もまたこれを諒とし去る昭和二十四年以来會員各位の絶大なる御協力を得ましてお蔭をもって負担額百五十万円に対して百三十万円に達しよう一息というところまであります。

一方学芸学部同窓会では四百万円の資金を集めて会館を建設し、去る九月竣工式を挙げた次第です。

ここにおいて本会の責任は愈々重大となり諸兄の母校愛に訴えて応分の御寄附をおおぎ速かに完納したいと念願しておりますので、未寄附の方は誠に恐縮に存じますが、この際同封の振替用紙を御利用の上御送金下さるよう懇願いたします。

昭和二十五年年度総会 昭和二十五年五月二十八日午前十一時二十分から母校厚生館ホールで「昭和二十五年年度総会」が開催され、同窓生約八十名が出席、昔懐しい教官二十名の姿もみうけられた。

総会は竹内理事長が開会の辞を述べたあと、本会顧問の竹内松次郎学長と重松倉彦工學部長兼工專校長を紹介、つづいて会計報告があり、理事長を議長に選出して議事に入った。議事は昼食をはさんですすめられ、会則の一部改正、支部復活増設、会報編纂方針、住所不明會員、会費未納者、工業会館建設、機械・電気両学科復活、熊谷市長の学校復興に対する感謝状贈呈などが審議された。

工業会館建設については、去る四月六日の理事会で「福井大学設置に伴う同窓会負担金三百万円中工學部負担金百五十万円（二十四年度分）を二十五年度に繰越し、これをもって会館を建設する」ことがすでに決定されており、こ

の日は設計を依頼した坂部、五十嵐両教授から木造二階建、百五十三坪の建物について説明が行なわれ、満場一致で可決された。機械・電気両学科の復活については、同窓生が一丸となって県へ積極的に働きかけ、さらに文部省へも陳情して早急に実現をはかることになり、とりあえず会員名簿に各人宛の建議書を折り込み、署名を集めることになった。

福井大学工業会々報復刊 第四号をもって発行を停止していた工業会々報がこのほど復刊の運びとなり、昭和三十一年一月一日「福井大学工業会々報」第五号が発行された。会報は今後年二回発行することとし、第五号には、同窓生諸君へ（坂部保治工学部長）、会報復刊によせて（竹内久正理事長）、教室便り、支部便り、会員便り、随筆などが掲載された。

会報復刊によせて（要旨） 種々の事情によって発行の頓挫致しました工業会報が昭和三十一年の新しい息吹を孕んで皆さんの御手許へ御目見え致しますことは新年の御慶びに併せて工業会と致しましても亦喜びに堪えない所であります。

本会報は会員相互の連絡を図るのに不可欠のものであり、編輯には能う限り会員の便益を図ることに留意致し日刊新聞に見る様な三行広告式の欄も設けて行き度いと存じます。又会員の関係する事業勤務先等の紹介から就職、結婚等の個人問題も本紙を利用下されば喜んで御役に立てたいと思えます。既に初期同窓の会員には父子二代の名を列ねる御方もあり、当工業会が会員の発展と共に益々本来の目的を発揚して伸展して行き度いと考えますから何卒全国会員諸賢が、一層御心易くより緊密に本部や各地の支部と御連絡を戴き度いと存じます。（理事長 竹内久正）

昭和三十一年度定期総会 昭和三十一年一月二十二日午後二時から母校工学部厚生館で「昭和三十一年度定期総会」が開催され、三十三名が出席し、六十一名から委任状が提出された。

総会は竹内理事長の挨拶、会計報告のあと、石丸近畿支部長を議長に選出して議事に入り、会則の一部改正、特別

会員の推薦、母校復興寄附金、役員の改選などについて審議が行なわれた。

会則の一部改正については、現行の会費納入制では成績ががらず会の運営に支障を来たしているとして、会則第二十五条を「正会員の会費は年二百円の割とし、五カ年分を一期として納入するものとする。ただし、十五カ年分を前納した場合は、爾後の会費は徴収しない。」と改正することが提案され、万場一致で可決された。終身会費についてはその後の理事会で三年以内の分納が認められることになった。

母校復興寄附金については、竹内理事長から「寄附金募集当初は同窓会館建設を旗印としてきたが、その後情勢の変化によりその使途については現在白紙の状態で、目標額完遂の際改めて協議の上決定したい。昨年学芸学部から同窓会から同窓会館建設に同調してもらえないかとの交渉があったが、工業会は目下募集中であるので何とも言えない。完遂の暁使途を考えることにしている旨回答しておいた。」との説明があり、一同これを了承した。

役員の改選については、支部からの本部理事は各支部で推薦してもらうことになり、現役員は全員留任とし、理事に沖恒夫、酒井貞美の二名が新たに加えられた。

議事終了後は一同自己紹介や追想談に花を咲かせ、校門前で記念撮影を行なって閉会。このあと五雲閣に会場を移して懇親会が催された。

工業会三十周年記念大会 昭和三十二年は福井高工第一回卒業生を世に送りだしてより満三十年を迎え、これを記念して「福井大学工業会三十周年記念大会」が六月二日福井人絹会館で開催された。

大会はまずこの機会に社会に対する報恩感謝と本会をアップビルする意味を含めて公開講演会が催され、つづいて総会が開かれた。公開講演会は阪大から吹田徳雄教授を講師に招き、「原子力の平和利用について」と題する講演が一時間にわたって行なわれた。

総会は竹内理事長から記念総会にあたっての挨拶があり、武田文之助を議長に推して議事に入った。会務報告のあ

と昭和三十一年度決算、昭和三十二年度予算案がそれぞれ承認され、他に議案がないためこれで議事を終了、このあと重松学長、宮岡教授の祝辞があつて閉会した。

総会のあと一同はバスで母校を訪れ、面目一新しつつある現状を目のあたりにみ、また折から開催中の大学祭のぞき、学内催し物や展示、織維機械近代化展などを見学した。引きつづいて懇親会が芦原の有楽荘で開かれ、竹内理事長、学長の謝辞があつて開宴となり、酔うほどに一同気焰万丈、放歌高唱して歓を尽くした。大部分の会員はそのまま同館に宿泊し、翌朝散会した。

三十年を回顧して(要旨) さて我々の母校も無惨な戦禍に遭い一瞬にして火と化し灰燼に帰し去つたが、真剣な再建努力は乏しき中にも実を結び着々と復興至らんとせし昭和二十三年、再び天災の見舞うところとなり、未曾有の大激震は瞬間にしてあらゆる施設を破壊し、続く大水害は之に追打をかけて完膚なきまでの傷手を受けたのである。廢墟に立つて惨害を直面すれば全く茫然自失、施すに術なき感を覚えしめたのである。然し乍ら学校御当局の逞しき復興意力と之に応える関係先の協力とは、遂に今日の偉容へと基礎を固め逐年充実に進んで福井大学の現在を迎えた。誠に喜びに堪えない次第である。(理事長 竹内久正)

昭和三十三年定期総会 昭和三十三年定期総会は近畿支部と合同して五月十一日午後三時から須磨の寿亭で開催され、百余名が出席した。

総会は竹内理事長の挨拶、吉田工学部長の祝辞、会務報告のあと、黒川誠一を議長に選出して議事に入り、昭和三十三年度決算、同三十三年度事業計画並びに予算、会則の一部改正、役員の変更について審議が行なわれた。

会則は第九条と第十八条が改正され、第九条は従来の「理事および監事は総会で正会員の中から選挙し、理事長および常任理事は理事の互選によるものとする」が「理事および監事は総会で正会員の中から選挙する。但し各支部の支部長は選挙を要せずして理事となる。理事長および常任理事は理事の互選によるものとする」と改められ、第十八

条は「役員会および理事会の決議は当該役員総会の三分の一以上出席し、出席者の三分の二以上の同意を要する」が「役員会および理事会の決議は出席者の三分の二以上の同意を要する」と改められた。

このほか竹内理事長から母校復興寄附金の目標額百五十万円達成に対して謝意が述べられ、寄附方法については一任された本部理事会で大学側の意向をもきいて慎重に決定したい旨報告が行なわれた。

昭和三十四年度定期総会 昭和三十四年度定期総会は近畿支部と合同して五月十七日午後四時から大阪南区坂町の喜楽別館で開催され、恩師の若杉専太先生、母校教官五名、本部から竹内理事長、黒川支部長はじめ九名、近畿支部から坂井支部長ほか百余名が出席した。

総会は理事長の挨拶、山田正盛工学部長代理の祝辞、会務報告があり、つづいて石丸正名を議長に推して議事に入り、昭和三十三年年度決算、同三十四年度予算並びに事業計画、会則の一部改正、福井大学設備充実期成同盟会の設立などについて審議が行なわれた。

会則の改正については、専攻科修了生を正会員とすることとし、中途退学者についても「新制大学に三年以上、または旧制専門学校に一年以上在学し、本人の希望により支部長が推薦し、理事会で承認したもの」を会員に加えるとの案が出され、理事会で承認したものを会員にすることができるとされた。また評議員に任期制を設けてその期間を二年とし、監事を二名増員して母校内の正会員をあてることが承認された。

福井大学設備充実期成同盟会の設立については、理事長から「母校運動場設置のため設けられたもので、土地買収に多額の資金を要するので、各方面の協力を依頼することになるから、工業会に申入れのあった場合は己むを得ないと思われるので、その節は復興資金未寄附会員の方々を中心として協力を得たい」との報告があり、了承された。

昭和三十五年定期総会 昭和三十五年定期総会は近畿支部総会と合同して六月五日京都市下京区木屋町五条上「鶴清」で開催された。

総会は開会の辞、竹内理事長の挨拶、工学部長祝辞（斎藤教授代理）、会務報告のあと、池田俊一郎を議長に選出して議事に入り、昭和三十四年度決算、同三十五年度事業計画並びに予算案がそれぞれ承認され、役員の変更が行なわれた。

この年三十五年四月には母校工学部に応用物理学科が増設された。学科増設については昨年母校より文部省に申請されていたが実現せず、地元産業界はじめ工業界、その他各方面の働きかけで設置の運びとなった。

理事長挨拶（要旨） 昨年度に於ては残念にも流産をした本学科増設が本年度に於て実現したことは何と云っても学長の貫録に於てその力を發揮されたものと云えましょう。もとより学長を輔けて大いに努められた諸先生の努力も大きく、また陰に陽に之を支援し助力下さった地元の方々、中にも選出代議士の植木庚子郎氏等の御力添えは全く感謝に堪えないところであります。

この間に於て当工業会も及ばず乍ら協力させて頂き直接文部省や大蔵省に陳情を行って参った次第であります。母校に応用物理の増設される意義は非常に高く評価されてよいと考えるものでありまして、之によって福井大学の将来が益々大なる発展への下地を固めたものと確信致します。（会報第十号より）

昭和三十六年度定期総会 昭和三十六年度定期総会は四月三十日午後二時から母校厚生館で開催され、恩師の安井豊吉、若杉専太の両先生、母校教官八名、会員六十名が出席した。

総会は竹内理事長の挨拶のあと、吉田工学部長、安井豊吉先生から祝辞があり、つづいて母校各学科主任教官から祝辞に併せて当該学科の近況が報告され、五十嵐教授から建築学科、寺崎教授から紡織学科、斎藤教授から繊維染料学科、松岡教授から機械工学科、鈴木教授から電気工学科についてそれぞれ紹介が行なわれた。ついで会務報告があり、加藤茂樹を議長に選んで議事に入り、昭和三十五年度決算と同三十六年度事業計画ならびに予算案が承認され、会則の一部改正が行なわれた。会則は物価高のため入会金二百円を三百円に改めることになった。

閉会後は映画「織物福井」を鑑賞し、さらに午後六時三十分からは芦原温泉開花亭で懇親会が催された。席上有志から安井先生に喜寿祝の記念品が贈られた。

昭和三十七年度定期総会 昭和三十七年度定期総会は東海支部と合同して六月十日大山市の喜月楼で開催され、恩師の吉田喜一、若杉専太、鈴木長次の三先生、母校から寺崎工學部長はじめ高原、岡田、米窪、木村、清水、沢崎、川上の各教官、会員百二十余名が出席した。

総会は竹内理事長が欠席のやむなきとなったため、かわって監事の生田篤治が挨拶を述べ、寺崎工學部長の祝辞のあと議事に入り、昭和三十六年度決算と同三十七年度事業計画並びに予算案の承認、会則の一部改正、役員の変更が行なわれた。

会則は現在の評議員制が全然運用されておらず、またその必要もないことからこれを廃止することとし、第八条と第十五条中の「および評議員」の字句を削除することになった。このほか竹内理事長の健康が勝れないため、理事長代理が置かれることになり、黒川誠一が推された。

昭和三十八年度定期総会 昭和三十八年度定期総会は六月二日午後一時半から母校学生会館大ホールで開催され、恩師の安井豊吉、若杉専太、岡田晃、鈴木長次の四先生、母校から寺崎工學部長をはじめ吉田、五十嵐、山田、大島、奥田、藤宗、八木の各教官ならびに塚崎事務長、会員百余名が出席した。この日はまた開会までの待時間を利用して「越前・若狭」の映画鑑賞が行なわれた。

総会は開会の辞について竹内理事長の挨拶、寺崎、吉田、安井の各教官の祝辞があり、会務報告のあと議事に入った。議長には黒川福井支部長が推され、昭和三十七年度決算、同三十八年度事業計画並びに予算案、会則の一部改正その他について審議が行なわれ、このほか会員中から母校に土木工學科と工學関係の夜間部を設置する要望が出され、本会の発展についての意見が述べられた。

本年度の新たな事業としては、各支部総会に対する補助の一項目が設けられ、また役員会費を増額して年に一回程度各支部長が集まり、会の運営などについて話し合いを行なうことになった。

会則は第七条に副理事長が新設され、その数は五名以内で、理事の互選とし、副理事長は理事長を補佐し、事故あるときはこれを代理するものとされた。副理事長は差しあたり福井、近畿、東海の支部長が推されることになった。

昭和三十九年度定期総会 昭和三十九年度定期総会は関東支部と合同して六月十三日午後五時から東京都港区の蔵前工業会館で開催され、恩師の井村治一郎先生、母校から山田工学部長、五十嵐、辻本、清水、松岡、山内、佐々木、沢崎の各教官、会員二百名が出席した。

総会は竹内理事長の挨拶のあと、山田工学部長はじめ母校各学科主任教官から祝辞が述べられ、ついで会務報告があり、議事に入った。議長には飯野関東支部長のが選ばれ、昭和三十八年度決算、同三十九年度事業計画および予算案、役員改選について審議が行なわれた。

この年三十九年には福井大学大学院工学研究科設置促進期成同盟会が福井県、福井市および関係諸団体で設立され、工業会もそのメンバーに加わって援助や陳情を行なった。

福井大学大学院工学研究科設置促進に関する陳情書（要旨） 由来福井県は多くの人材が輩出しておりますが、高度の研究機関たる大学院が存在しないため有為な郷土人に距離的、経済的な制約のため開花する機会を失なう者が決して少なくありません。これ実に大きな国家的損失でありましょう。しかし一方、本県産業界においてもこれら有為の人材を求めながら容易に得られない実情にあることを特にご推察頂きたいのであります。

これらの重要な問題は福井県に大学院が設置されることによって一挙に解決がつくことと存じますので、この際ぜひとも福井大学工学部に大学院工学研究科を設置下さるよう、ここに陳情いたします。

昭和四十年年度定期総会 昭和四十年年度定期総会は近畿支部と合同で五月三十日午後三時から大阪市南区の随園で開催され、恩師の鈴木長次、若杉専太、湯本信雄の三先生、母校から山田工学部長ほか各学科主任教官、会員百二十余名が出席した。

総会は筒井岩一郎が進行係となり、竹内理事長が病氣のためかわって黒川副理事長が挨拶を述べ、ついで山田工学部長の祝辞、会務報告があり、議事に入った。議長には森川孝士が推され、会則の一部改正、会費徴収についての内規、昭和三十九年度決算、同四十年年度事業計画並びに予算案、母校大学院工学研究科設備整備資金の寄附について審議が行なわれた。

会則は第六条中に在学生を対象とする準会員が新たに加えられ、また入会金三百円が五百円に改められた。会費徴収についての内規は終身会費を六千円に増額するに伴い、値上げ期の暫定措置が定められた。大学院工学研究科設備整備資金の寄附については母校から工業会に対して三百万円の寄附懇請があり、特別会計の母校復興寄附金約二百万円をこれに転用し、不足分は会員から募集することになった。

昭和四十一年度定期総会 昭和四十一年度定期総会は東海支部と合同して五月二十九日正午から名古屋駅前の都ホテルで開催され、恩師の若杉専太、安井豊吉、湯本信雄の三先生、母校から大島工学部長ほか山田、木戸、山内の各教官、会員約百二十名が出席した。

総会は増谷東海支部長の挨拶、大島工学部長の祝辞があって議事に入り、議長に石田錠太郎を選出、昭和四十年年度決算、同四十一年度事業計画および予算案、会則の改正、役員の大改選について審議が行なわれた。このほか会員から土木工学科増設についての質疑があり、大島工学部長から「工学科は十学科を目標に年次計画を建ててその実現をはかり、現在の八学科に加えて明年は電子工学の新設を予定し、最後に土木工学科を予定して実現に鋭意努力している」との答弁があった。

この年、健康上の理由で辞意を表明していた竹内理事長にかわり、黒川誠一が後任に選出された。副理事長には福井支部長の酒井秀雄、近畿支部長の坂井進、東海支部長の増谷忠男、関東支部長の飯野雄司、九州支部長の伊藤常男の五名が推された。

ごあいさつ（要旨） 去る七月二日の理事会において不肖私が前理事長竹内久正先輩の後を受けて理事長に選任せられました。この上は微力ではありますが、誠意と努力をもって会の発展に精進いたす決心でありますから何卒会員の皆様の温かいご支援とご鞭撻とをお願い申し上げます。

本会も会員六千名を越えるに至り、今後会員相互の親睦を厚くし、学校との連繫を更に緊密にし、年令層の異なる会員間の同窓愛を一層深める為事務局の強化等なすべき事が山積しておりますので会員各位並びに本部、支部の役員の皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。（理事長 黒川誠一）

昭和四十二年定期総会 昭和四十二年定期総会は福井支部と合同して五月二十八日午後二時から母校大会議室で開催され、恩師の安井豊吉、湯本信雄、鈴木長次の三先生、母校から藤野学長、大島工学部長はじめ大江、豊島、山内、佐々木、本田の各教官、会員百八名が出席した。

総会は開会のことばについて黒川理事長の挨拶、藤野学長、大島工学部長の祝辞があり、飯塚常任理事の会務報告があつて議事に入った。議長には酒井福井支部長が選出され、まず昭和四十一年度決算について花谷常任理事からの説明と木村監事の監査報告があり、全員異議なくこれを承認。つづいて昭和四十二年度事業計画および予算について沢崎常任理事より原案の説明があり、これも可決された。

本部総会に引きつづいて福井支部総会が開かれ、このあと午後四時から織協ビル八階大ホールで懇親会が催された。会は小島徹の司会ですすめられ、黒川理事長の開宴のことば、大島工学部長の発声による乾杯、坂井近畿支部長の音頭による万才が行なわれて宴に入った。

昭和四十三年年度定期総会 昭和四十三年年度定期総会は福井支部と合同して六月二日午後二時から母校大会議室で開催され、恩師の安井豊吉、鈴木長次の両先生、母校から藤野学長、山田工学部長代理をはじめ木村、清水、湯原、石田、加納の各教官、会員七十八名が出席した。

総会は江上常任理事の司会ではじまり、黒川理事長の挨拶、藤野学長、山田工学部長代理の祝辞、沢崎常任理事の会務報告があつて議事に入った。議長には酒井福井支部長が選出され、昭和四十二年度決算について花谷常任理事の説明、木村監事の監査報告があり、全員これを承認。昭和四十三年度事業計画および予算については花谷常任理事から原案の説明があり、これも可決された。

役員の変更についてはさきの理事会で推薦した候補者を承認し、今後の定期総会については「本部は（母校において福井支部と合同で）隔年に開催、支部は本部で開催しない隔年に交互に開いてもらう。お世話を願う支部は今のところ本部との距離や会員数などの関係を考慮して近畿、東海、関東にとどめたい」との理事会案が全員一致で可決された。これまで定期総会は各支部の持ち回りをやめ本部所在地で開かれていたが、たまには変つた土地で開いてはとの意見が再びだされ、検討されていた。

昭和四十四年度定期総会 昭和四十四年度定期総会は近畿支部と合同して六月七日午後六時から神戸市須磨寺公園の寿楼で開催され、恩師の湯本信雄、若杉専太の両先生、母校から大島工学部長ほか学科主任の山田、木戸、藤宗、段野、八木、本田の各教官、本部から六名、近畿支部から九十余名、九州、東海支部から各三名が出席した。

総会は笹井次郎の司会のもとに黒川理事長挨拶、大島工学部長祝辞、会務報告が行なわれ、青木良成を議長に選んで議事に入った。昭和四十三年度決算、昭和四十四年度事業計画および予算案はともに異議なく承認され、理事一名を臨時増員することについては湊喜代士が選任された。

つづいて近畿支部総会が開かれ、坂井支部長の辞任に伴って三治博信が後任に推薦された。また席上恩師湯本先生

の米寿を祝して有志から記念品が贈呈された。

昭和四十五年定期総会 昭和四十五年定期総会は福井支部と合同して六月七日午後二時半から織協ビル八階大ホールで開催され、恩師三名、母校教官七名、会員七十四名が出席した。総会をはじめ工学部大会議室で開かれる予定であったが、学内事情により会場が変更された。

総会は清水常任理事の司会で黒川理事長の挨拶、佐々木工学部長の祝辞、沢崎常任理事の会務報告があり、議事に入った。議長には三治近畿支部長が推され、昭和四十四年度決算について花谷常任理事の説明、生田監事の監査報告があり、異議なくこれを承認。昭和四十五年度事業計画および予算案については花谷常任理事の説明があり、これも可決された。役員の改選も理事会案どうりに承認され、このあと感謝状の贈呈、記念撮影が行なわれ、引きつづいて懇親会が催された。

昭和四十六年度定期総会 昭和四十六年度定期総会は東海支部と合同して六月六日午前十一時半から愛知県中小企業センターで開催され、恩師の若杉専太、近藤秀雄の両先生、母校から佐々木工学部長ほか五名、会員九十九名が出席した。

総会は横江理事の司会で黒川理事長の挨拶、佐々木工学部長の祝辞、小島理事の会務報告があり、石田理事を議長に選んで議事に入った。昭和四十五年度決算については沢崎理事の説明、生田監事の監査報告があってこれを承認。昭和四十六年度事業計画および予算案については沢崎理事から説明があり、これも可決された。またさきの理事会で昭和四十八年に開学五十周年を迎える母校の記念事業が審議されていたが、(イ)五十周年記念号を発行すること。(ロ)恩師および会員物故者の追悼法要を行うこと。の二点が承認された。

工学部五十年史編輯委員会設置 九月十四日母校創立五十周年記念事業についての理事会が開かれ、福井大学工学部創立五十周年記念事業会、五十年史編輯委員会の設置が承認された。第一回編輯委員会は工学部、工業会の双方で

委員を選出し、翌四十七年一日二十一日福井人絹会館で開催された。

福井大学工学部五十年史について 昭和四十八年が創立五十年に当りますので五十周年記念事業の一環として福井大学工学部五十年史を発刊することになりました。これは申し上げるまでもなく大事業でございますので福井大学工学部と本工業会と相協力して立案計画を進めることになりましたして下記の委員を選出し計画を練っているところでございます。

昭和四十八年度中には発刊出来るようにしたいものです。本書は福井高等工業学校―福井大学工学部五十年の歴史と伝統を後世に伝えるべく内容はできるだけ史実にもとづき格調の高い、かつ親しめる年史にしたいと念願しております。

編輯委員 大学側―佐々木靖文工学部長、江上外人、木村里雄、沢崎吉太夫、大島好文、清水融の各教官および塚崎嘉雄事務長。工業会―黒川誠一理事長、酒井秀雄福井支部長、三治博信近畿支部長、石田錠太郎東海支部長、飯野雄司関東支部長、玄馬純司中国支部長、井口久義九州支部長、生田篤治監事および小島巖、滝波清三郎、川上英男、品川二三男の各理事。

昭和四十七年度定期総会 昭和四十七年度定期総会は福井支部と合同して六月四日午後二時から福井人絹会館四階大ホールで開催され、恩師の若杉専太、奥田薫、鈴木長次の三先生、母校教官六名、会員七十六名が出席した。

総会は土田理事の司会のもと黒川理事長の挨拶、佐々木前工学部長の祝辞、沢崎理事の会務報告があり、近畿支部長の三治博信を議長に推して議事に入った。昭和四十六年度決算については滝波理事の説明、江上監事の監査報告があつてこれを承認。昭和四十七年度事業計画および予算案については滝波理事から説明があり、これも可決された。役員改選については一部修正して承認され、このほか昭和四十八年度総会を関東支部で行なうことなどが確認された。

総会終了後は伊藤柏翠先生を招いて「福井県の四季おりおり」と題する講演が行なわれ、ユーモアを交えた話に一
同郷土福井を偲ぶものがあつた。このあと記念撮影につづいて懇親会が催され、若杉先生の音頭で工業会の発展を祝
して万才を三唱し、乾盃して開宴。恩師、先輩、後輩入りみだれてともに語り、校歌を合唱し、最後に木村先生の音
頭で万才三唱、ついで酒井福井支部長の音頭で若杉先生の健康を祈念して再度万才三唱し、名残りを惜しみながら四
時半すぎ散会した。

昭和四十八年度定期総会 昭和四十八年度定期総会は関東支部と合同して六月九日午後二時から東京築地のスエヒ
ロ八階大ホールで開催された。

総会は理事長挨拶、祝辞、会務報告のあと、議長を選出して議事に入り、昭和四十七年度決算、昭和四十八年度事
業計画および予算案、その他について審議が行なわれた。

福井大学工業会会則

(昭和四十一年五月二十九日全面改正)

第一章 総 則

第一条 この会は福井大学工業会と称する。

第二条 この会は会員相互の親睦を図り、母校との連絡を密接にし、併せて工業の発展に資することを目的とす
る。

第三条 この会は本部を福井大学工学部内におく。なお便宜の地に支部を設けることができる。

第四条 会則の改正は総会の決議を経なければならない。

第五条 会則施行に関する細則は理事会の決議により定める。

第二章 会 員

第六条 この会はつぎの会員をもつて組織する。一、正会員 (イ) 福井高等工業学校、福井工業専門学校卒業生

ならびに別科、選科修了生および工業技術員養成科修了生。(四) 福井大学工学部卒業生、同専攻科および同大学院研究科修了生。(イ) 前二項に準ずるもので理事会の承認を経たるもの。二、准会員 福井大学工学部および同大学院工学部卒業生以外のもので同大学院工学研究科に在学中の学生。三、特別会員 母校の現旧教官とする、なお母校の現旧職員のうち特にこの会に関係深いもので理事会の推せんしたものを含む。四、名誉会員 母校またはこの会に特に功労あるもので総会において推せんを受けたもの。

第三章 役員および職員

第七条 この会につきの役員をおく。理事長 一名。副理事長 五名以内。理事 若干名（内若干名を常任理事とする）。監事 二名。

第八条 この会につきの職員をおく。事務員 若干名。

第九条 この会に顧問、参与をおくことができる、顧問は総会で特別会員のうちから推せんし、参与は正会員でこの会に功労のあったものうちから総会において推せんする。

第十条 理事および監事は総会で正会員のうちから選出する。ただし、支部長は選挙を要しなくて理事となる。理事長、副理事長および常任理事は理事の互選とする。

第十一条 役員の任期は二年とし、重任を妨げない。

第十二条 役員の仕事はつぎのとおりとする。理事長はこの会を代表し、会務を総理する。副理事長は理事長を助け、理事長が事故ある場合は代理する。理事は会務を処理し、常任理事は事務を分掌して常時その任にあたる。監事は会務を監査する。顧問および参与は会務に関し随時理事長および理事会の諮問に応じる。

第十三条 事務員は理事長の命を受けて会の事務を処理する。

第四章 会 議

第十四条 会議は総会、理事会および常任理事会とする。

第十五条 総会は毎年一回定期に開催してつぎの事項を審議決定する。ただし、理事長は必要に応じて臨時総会を召集することができる。一、収支決算に関する事項。二、収支予算ならびに事業計画に関する事項。三、財産の処分に関する事項。四、会則の制定改廃に関する事項。五、その他運営に関する重要事項。

第十六条 理事会は理事長が随時召集し、理事長が議長となり、つぎの事項を審議決定する。ただし、監事は理事会に出席して意見を述べることができる。一、総会に提出する議案の原案作成。二、施行細則の制定改廃。三、その他の事項。

第十七条 常任理事会は理事長が随時召集し、会務を処理する。

第十八条 総会は正会員五十名以上の出席をもつて成立し、決議は出席者の三分の二以上の同意を必要とする。

第十九条 理事会および常任理事会の決議は出席者の三分の二以上の同意を必要とする。

第二十条 会議に出席できないもので託送または委任により意志表示をしたときはこれを出席者と見做す。ただし委任による場合は委任状を必要とする。

第五章 事業

第二十一条 この会はその目的を達成するため、つぎの事業を行う。一、会誌および会員名簿の発行。二、会員相互の福祉増進。三、母校との連絡ならびに協力。四、その他必要と認める事業。

第六章 会計

第二十二条 この会の会費はつぎのとおりとする。一、正会員 金六千円 終身会費とする。二 准会員 金三千円 准会員の会費をもつて正会員の会費の一部に充てることができる。

第二十三条 この会の入会金は金五百円とする。

第二十四条 この会の基本金は理事会の承認を経た終身会費の一部およびその他の収入をもつてこれに充てる。

第二十五条 基本金は総会の決議を経なければ使用することができない。

第二十六条 この会の経常費は基本金の利子、その他の収入および会費の一部をこれに充てる。

第二十七条 この会の会計年度は四月一日から翌年三月三十一日までとする。

第七章 支 部

第二十八条 第三条により支部を設置しようとする場合はつぎの各号を添えて本部に届け出て常任理事会の承認を経なければならない。(イ) 支部会則。(ロ) 支部区域。(ハ) 支部会員名簿。(ニ) 支部役員名簿。

第二十九条 支部は本部との連絡を図り、この会の主旨を達成するのを目的とする。

第三十条 支部には支部長をおく。

第三十一条 支部の経費は各支部の負担とする。ただし、本部は経常費の予算内において支部事業に対し理事会の承認を経て補助することができる。

施行細則

第一条 理事長は本部附近に在住する理事のうちから選出する。

第二条 常任理事は主として本部附近に在住する理事のうちから選出する。

第三条 基本金の保管方法は常任理事会の決議による。

歴代理事長

初代理事長 伊藤義朗 (M一回) 第二代理事長 竹内久正 (D一回) 第三代理事長 黒川誠一 (M九回)

歴代支部長

福井支部長 初代黒川誠一 (M九回)、二代酒井秀雄 (T六回)。

近畿支部長 初代池田俊一郎 (D五回)、石丸正名 (A二回)、二代坂井進 (A一回)、三代三治博信 (M九回)、四代
名村尙文 (A八回)。

東海支部長 初代増谷忠男 (T一回)、二代石田錠太郎 (A四回)、三代矢橋彦四郎 (M三回)。

關東支部長 初代飯野雄司 (A五回)、二代大滝昇 (A五回)。

九州支部長 初代伊藤常男 (A一回)、二代井口久義 (A六回)。

中国支部長 初代渡辺喜一郎 (M五回)、二代玄馬純司 (A三回)。

第二部 地域産業と福井大学工学部

福井の産業の変遷

福井県の産業は明治以来繊維産業一辺倒の性格をもって発達した。その由来するところは高湿度の風土が主要な立地的条件であったといわれる。また、その形態は家内工業的ないしは中小企業の域から脱せず、郡市といわず農村といわず、随所に機場が分布し、独自の産業的地方色を打ちだしていた。

本県が手織り羽二重の産地として知られるようになったのは明治二十年以来のこと。同三十九年に力織機が使われるようになり、家内工業から専業企業へと進展し、明治末期から大正初期にかけて輸出羽二重の黄金時代を現出した。その後大正三年に第一次世界大戦が勃発して絹織物に対する世界的需要が激増し、同八年には全国絹織物総額の六割を占めるようになり、絹織物福井の名声を世界に轟かせたが、欧州の戦禍がおさまらず、平和が回復して、経済の反動から世界的不況を招来し、金融難と生糸暴落により福井の機業は一大難局に当面して倒産が続出、この活路を人絹織物に求めて転換を遂げ、ついに昭和五年には全国人絹織物生産高の六十七％を生産するようになり、ここに人絹王国を現出した。

絹・人絹織物 絹紬は、大正五年坂井郡春江村の島崎正一によってはじめられ、同十一年福井絹紬会が創立されて、技術の研究と原料柞蚕系の選択が行なわれるようになり、翌十二年ときの福井銀行頭取市橋保治郎が渡瀧して柞蚕系の産地と福井との直取引が成立、その後ますます隆盛を極めて昭和八年には全国絹紬生産の八割を占めるまでになったが、同九年以降は人絹織物の発展と原料柞蚕系の供給が少なくなり、次第に衰退していった。

綿織物は、古くから丹生郡で石田綿がつくられていたが、第一次世界大戦の勃発で大陸向け綿織物の需要がさかなくなり、大正五年に福井紡織株式会社が創立された。その後大戦による世界的な物資欠乏を反映して本県の輸出綿織物が俄かに勃興し、加えて戦後綿織物の不況から綿織物に転換するものも続出し、いよいよ隆盛を呈するようになり、大正八年粗製濫造を取締るためはじめて輸出綿織物の検査が行なわれることになった。

富士絹は、大正五年足羽郡の北洋工場で高木重三郎が県下ではじめて富士絹の製織を開始し、同十年に酒井伊四郎、同十三年に坂井乙治郎が、それぞれ大量生産をはじめ、大正末期から昭和初めにかけて富士絹の黄金時代を現出したが、石川県丸三組合の能率的生産に押されて年々減産しついに市場から消えた。その後スパンクレーブが新興織物として進出し、輸出の販路を拡大していったが、染色加工において桐生、足利に一步を譲る状態が続いた。

人造絹糸織物は、大正五年県工業試験場で舶来人造絹糸と百番双糸シルケット綿糸の交織を試みられたのが県下における最初のもので、同九年丸岡町の戸田政吉が人絹と生糸または絹紡糸との交織に成功し、ついで同十年吉田郡で人絹を緯糸に応用することに成功、同十五年には経緯人絹織物（雙人）へと進み、昭和以降、人造絹糸製造工業の進展増産により糸価が下落して人絹織物勃興の基礎が築かれた。

昭和三年には県下の人絹糸消費量は生糸の消費量を凌駕し、同六年には天絹三分、人絹七分となり、全国人絹糸の六割までが福井に集中、取引高も全国一となった。その後織機は年々激増し、最盛期の昭和十四年には九万三千台を数え、絹、人絹の全国生産の六割九分を本県で製織、人絹王国を樹立した。

昭和十二年に日中戦争が勃発して以来、わが国の工業は重工業へと傾斜し、翌十三年七月には綿製品が製造禁止となり、スフが奨励され、やがて人絹糸もリンク制となった。同十五年七月には絹織物奢侈品製造販売が禁止され、人絹糸の統制が強化されて、代用品としての人絹生糸の交織がはじめられ、一方、欧州向け落下傘用羽二重等の引合いが殺到したが、翌十六年に大東亜戦争が勃発して輸出は全滅の憂目となり、加えて割当原糸の不足から休機が続出、

十七年には福井人絹取引所が解散した。

昭和十八年には戦力増強のため企業整備が行なわれ、県下の九万一千九百七十六台の織機のうち約六割五万六千七百六十六台がスクラップとして供出され、二千八百三戸を数えた機業家は千三十四戸に激減した。整備をまぬがれた主な工場は、原料の配給を受けて落下傘、薬蕪用絹織物などの軍需品を生産し、また、航空機、通信機等の軍需工場に転換して存続したが、それらのほかは原料入手難のため自然閉鎖を余儀なくされた。県下における絹、人絹織機台数は昭和十四年に九万三千百五十二台を数えたが、同二十年八月の終戦時には三万二千百三十七台となった。

精練・染色 福井の羽二重は明治初期には京都へ送られて精練されていたが、同二十一年とからはじめて本県で精練が行なわれ、次々と精練業者が生まれて明治末期には十六工場を数えるようになった。このため製品の改善統一が期し難くなり、県の斡旋によりこれらの業者を一丸として明治四十四年に福井県精練株式会社が創設された。

大正五年、福井撚糸染工株式会社が設立され、撚糸染色および羽二重以外の精練整理業を開始し、また絹紬精練業方面でも業者が増加して自由競争が激化、種々の弊害を生じて製品の統一上好ましくない状態を現出したため、合同の議が起こり大正九年に福井県絹紬精練株式会社が創立し、つづいて同十二年、県下の輸出各種絹織物精練業の全部が合同統一され「福井精練加工株式会社」が設立された。

昭和二年には輸出絹織物取締法が公布され、これまでの県管検査が国管検査となり、輸出絹織物の精練業も政府の許可制とされ、同四年に福井精練加工株式会社が許可を得、つづいて酒伊精練加工場も自家精練の目的をもって許可された。

本県の染色加工業は、はじめは精練漂白が殆んどであったが、大正十二年の関東大震災以後、福井精練加工株式会社で布の染色加工仕上げが行なわれ、その後福井県織物同業組合の提唱により、同十五年に福井染色株式会社が設立され、以後県内の染色加工業はますます有望となり、昭和四年には十数社を数えるまでになった。

昭和五年となり染色加工業者が一丸となって無暴な競争を防止するため福井輸出染色同盟会を組織、翌六年には工業組合法により福井輸出織物染色工業組合に改組、製品加工の品位向上、加工賃の協定、加工数量の割当等が行なわれるようになった。のち昭和十九年に至り戦時統制が強化されたため工業組合を解散、福井県織物染色統制組合が創設された。

本県の染色加工で特筆されるものとしては、機械捺染工業と紋嵌染工業が挙げられるが、機械捺染は、大正九年以來県工業試験場に染色用諸機械が設備され研究と指導が行なわれた。その後人絹織物の興隆に鑑み、大正十四、五年頃から機械捺染の研究に着手、昭和三年、試験染色に成功し、その将来性を業者に説いて創業を勧奨、同六年に柳町染工場が捺染機二台を設備して輸出向人絹織物の機械捺染を開始した。これが人絹織物機械捺染民業化の最初のものといわれている。

紋嵌染工は、昭和六年福井精練加工株式会社が、機械捺染への前提として高岡式手染台二十台を設備して、紋嵌に類する一種独特の手捺染法を創始し、次第に県下にひろがり、わが国輸出人絹織物捺染品の二十四％を消化するまでに発展した。同十三年には福井染色株式会社で野上寅吉が艶消顔料捺染の工業化に成功、エムデン加工と称して特許をとり、特異な領域を開拓した。

その他の繊維産業 本県の繊維工業は広巾輸出人絹織物が主体となって発展したが、その他の業種を合せて二十余種の繊維工業があり、検査品目も大正五年には、平羽二重、綾羽二重、縞羽二重、紋羽二重、朱子、平絨、紋絨、縞絨の八品目であったのが、同十四年には縮緬、絹紬、富士絹、手布、辟などを加えて三十九品種に激増した。そのなかでも捺糸業をはじめ、全国生産の七割余を占めるリボン、テープ、マークなどの細巾織物業ほか各種メリヤス業、麻織物業等は全国でも有数のものとされた。

捺糸業は、歴史も古く、古来から奉書紬を産し、一本錘の手捺機が使われてきたが、大正五年に強捺糸を必要とす

る輸出向フランス縮緬が勃興し、イタリー式撚糸機で設置して福井撚糸染工株式会社が創立され、大正九年には糸生増太郎により本県最初の洋式撚糸機「イタリー型糸生式撚糸機」が完成された。

細巾織物業は本県絹織物のなかでも広巾織物業と同様に特色をもつものとされ、そのなかでも最たるリボンも明治三十七、八年の日露戦争のとき本庄栄政により京都からリボン製織の技術を移入、マーク織物は大正五年頃同じく京都から伝習された。織機台数は昭和十二年頃に四千六百四十六台に達したが、戦時下企業整備により二千五百六十八台に激減した。

麻織物業は、明治以来主として蚊帳製造として発達し、昭和十八年に力織機九百八十台を数え、企業整備も殆んど行なわれないまま着実な伸びを示した。

メリヤス業は、経メリヤス、丸編、横編があり、本県は経メリヤスの主産地であり、トリコット機は戦前九十八台を数え全国の三割を保有した。

その他の繊維工業としては、ガラ紡工業、紡毛工業、特紡工業、丸メリヤス、手紡工業、手機工業、縫製業、製網工業、綿スフ工業、反毛工業等、繊維に関しては本県で製織されないものがないほど活況を呈した。

近代企業の出現 本県に近代的施設をもった企業が出現したのは、大正六年北陸電化株式会社が創設されたのにはじまり、同社は大野郡に西勝原発電所を建設し、武生町に化学肥料工場を設けた。のち大同電力株式会社の傘下に入り、大同肥料、大同化学と改称、終戦直前に信越化学株式会社に合併された。

昭和八年には、東洋セロファン株式会社二硫化炭素を供給する目的で大演化学工業株式会社が設立されたが、同十六年に東洋紡績株式会社に工場施設一切を賃貸し同社敦賀工場に二硫化炭素を供給した。

繊維工業では、紡績工場をもたない本県綿織物業が原料において不利を蒙っているのに鑑み、大正十五年に松井文太郎ほか業界有志により地場資本の福井紡績株式会社が創立され、昭和三年に操業を開始。同八年金沢の錦華紡績に

合併し、同十六年錦華紡績はじめ四社の企業統合が行なわれ大和紡績株式会社が設立された。

昭和八年には人絹糸製造工場として昭和レーヨン株式会社敦賀工場が設けられたが、翌九年東洋紡績に吸収合併された。同十五年には東洋レーヨン株式会社が金津工場を設けて織布の操業を開始した。

機械工業では、地方産業の振興をはかる目的で小浜町が工場誘致に乗り出し、酒伊繊維工業株式会社小浜工場が設置された。第一期工事は昭和十五年に完成したが、第二期工事半ばにして軍需工場に転換、同十八年芝浦製作所の機械設備をここへ疎開させ、株式会社芝浦製作所小浜工場となった。また同十八年には株式会社小松製作所により軍管理工場としてバルブの製作工場が建設された。

そのほか、昭和十年には敦賀セメント株式会社が設立され、本県でセメントの生産がはじめられるようになった。

福井県の産業と福井大学工学部

本県は古くから輸出繊維工業をもって知られ、旧制福井高等工業学校設立以来繊維工業科紡織分科、色染分科が置かれ、また福井大学工学部となつてからも紡織学科、繊維染料科が設置されて、地元産業と密接な連繫を保ちつつ産学協同の実を挙げてきた。

本学工学部は、昭和二十四年、建築学科、紡織学科、繊維染料学科の三学科をもって発足し、同二十六年に機械学科、電気学科を増設、同三十五年工業技術の画期的進展に対応するため応用物理学科が新設された。

業界よりの要望書（要旨） (一)福井県産業界の過去、現在を顧み将来に望む 従来本県産業が繊維産業一辺倒ともいふべき性格を持ってきたことは衆知のことである。その由来するところは、高湿度の風土が主要な立地的条件であった。明治以来昭和初期に至る羽二重時代、人絹時代に於ては本県繊維産業はこの立地的条件の上に安座していた観があった。その形態は家庭工業的乃至は中小企業的の域を脱していなかった。即ち郡市といわず農村といわず随所に

かかる形態の機場が分布し、独自の産業的地方色を打ち出して来た。然し品質の高級化、生産能率の極度の向上が要求される今日、かかる素朴な生産方式を以てしては最早や世界市場に伍して行くことは不可能となった。殊に生産施設面において、温度並びに湿度の機械的調整が自在となった今日、風土的立地的条件の優位すら消失するに至った。他一面、繊維産業の高度化、近代化は従来の零細企業形態を払拭しこれを大企業化へと導いている。既にして天然の風土的立地条件を喪失した本県繊維産業は、如何なる立地的条件に頼るべきであらうか。もし、かかる立地的条件として残されたものがありとすれば、それは多年にわたって培養された本県民衆の繊維産業への伝統的関心と執着である。即ち蓄積された精神的もしくは無形の投資である。これを空しく廃滅に帰するか乃至はこれに生々発展の活路を開くか今日は正にその関頭に立っている。その開運の鍵となるものは一つに革新的科学技術の注入にありと信ずる。しかも、これは独り繊維産業に限らない。あらゆる産業部門にわたって悉く然りであると言うべきであらう。

基礎学科の振興なくして産業技術の発展はない。既にして十九世紀的性格形態より脱皮した今日の産業技術は手工的技術を離れ益々頭腦的技術への転向に拍車をかけている。今日、わが産業界は技術者の不足を訴えているが、我々の希求する技術者は新時代の科学技術の精神を身につけた技術者であり、基礎科学の修練をもつ技術者である。片々たる陳腐な技術的知識の羅列の間を素通りした技術者ではない。職場々々に応じ活路を開する能力ある基礎科学的精神の旺盛なる技術者こそ、吾々産業界が渴望する者である。大学工学部における技術者養成については深くこの点に思いを致されたい。吾々が今日当面している技術面の諸問題、例えば品質管理の問題、オートメーション化の問題、作業管理、工具材料向上の問題、電子計算機による計算高速度化の問題等についても、旧来の専門技術者を以てしては、もはやその処理の任を完うし得ない憾みが少くない。されば数学、物理等の基礎科学の修練を向上し、計測工学、自動制御、電子工学等を消化理解する技術者の養成は吾々の最も冀望するところである。況んや、更に今後の新技術の創造的開拓を志ざし、世界的水準を抜く技術の振興を図るためには基礎科学振興こそ唯一の開開策であると